元中二病と仮面ライダーでも恋がしたい！

翔斬

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

???「これはこの本に描かれているお話しです。高校２年高田祥平はある高校に転校する事になるのだが彼は魔王になる男である。果たして彼は最高の魔王か最悪の魔王になるのか？」

目　次

第１話新たな出会いと懐かしの再開そして新たな魔王の誕生！　1
第２話魔王を倒す者／勝利の法則２０１７　7
第３話新たな中二病の子出現！そして恋の病　17
第４話祥平の風邪！そして現れる天才ゲーマー永夢　24
第５話運命を変える力／ノーコンティニュー２０１６　28
第６話向き合う覚悟！前編　35
第７話向き合う覚悟！後編／５５５　40
第８話相手の力を奪って継承する!?その名は仮面ライダーロスト！　47
第９話もう１人の王！　53
第１０話力と王様の意味／タカ！トラ！バッタ！２０１０　61
第１１話六花の姉現れるそして七宮の思い　67
第１２話花道でオンパレード２０１３／ショータイム２０１２　73
第１３話勇太と六花の逃避行そして追い掛ける者達　77
第１４話想いは繋がるそしてジオウの新たな力　84
第１５話謎の異世界そして集められた仮面ライダー達　95
第１６話記憶が残っているライダーそして謎のアナザー戦士！その名はアナザーサーヴァント！　103
第１７話約束された勝利の剣／２００４　109
第１８話闇の支配そして倒せない敵！　117
第１９話寂しさの解り合い２０１８　120
第２０話フューチャータイムそして新たなライダー　132

第２１話青春スイッチオン！２０１１そしてオーバークロス！
145
第２２話現れた元彼女！そしてもう１人の自分!? ―――― 152
第２３話ジオウサイキョー／２０１８ ―――― 155
第２４話　狙われるライドウォッチ!?そして祥平も狙われる!?
164
第２５話祥平ＶＳ森夏そして大きな運命 ―――― 175

第1話新たな出会いと懐かしの再開そして新たな魔王の誕生！

高田家

祥平「今日から新しい学校か……大丈夫…」

そろそろ準備をするか！早くどんな奴に会えるのか楽しみだもんな！

祥平「ご馳走さま……後は……姉さん、行ってきます……。良し！行くか！」

俺は写真に写ってる姉さんに手を合わせてから走って駅に向かうのだが……一本乗り逃した！

祥平「まじかー、ぎりぎり間に合わなかったか～「乗り遅れたー！」ん？あいつも同じ制服？なぁ、ちょっと良いか？」

茶髪の男に俺は声をかける。

???「えーと「君、もしかて、俺と同じ学校？」え！もしかして君も！」

祥平「ああ！俺は高田祥平！因みに今日君と同じ学校に転校なんだ。よろしく！」

俺はそのまま握手をする。

???「俺は富樫勇太。此方こそよろしくな！」

と、俺達は仲良くなり、電車にも乗って学校についた！

祥平「はぁ…はぁ…間に合ったな、はぁ…はぁ…」

俺達は走って教室に入ったが何とか間に合った。

勇太「だな…はぁ…はぁ…んじゃ後でな…」

そのまま俺は職員室に向かって、先生と一緒に教室に向かう。なんやかんやでその時、驚きを隠せなかった。

七瀬「今日は転校生の紹介をします。さぁ、入って下さい。」

そのドアを開けて教室に入る。

祥平「始めまして。俺は高田祥平です。それと俺は魔王を目指してる男です！よろしくお願いします。……ん？…あれ？茶髪のロング

ヘアー何処かで……あ！もしかしてモリサマー！」
俺は思い出して凡生谷森夏こと、モリサマーに声をかける。
森夏「へ？……あ！あああああ！」
ちょっと待って！な！なんでこの男がいるの！しかも唯一私の過去を知ってる……く！
祥平「うわぁ！あれから、どう元気だった！それとどう、妖精「ちょっと後で昼休み良いかしら♪」え？良いけど？」
そしてそのまま昼休みになり体育館裏で話しをする。
森夏「あんたねぇ！朝はほっっっんとうに！びびったわよ！昔の事だけは止めてよ！もうあれは卒業したんだから！」
いきなり胸ぐら掴まれ怒られた。
祥平「まぁまぁ、それよりあの時以来だね。」
俺は笑顔でそう言う。
森夏「まぁ、確かにあれ以来だけど大体あんたはいつも魔王って言ってるの？流石にその中二病止めた方が良いわよ？」
私は思う事を言ってるけどこいつは私が中学の時に一緒に……駄目！あれだけは！
祥平「そうかな？俺は魔王になるつもりだけど？」
うわぁ、恥ずかしいなぁ、昔の自分を見てる見たいで本当に恥ずかしい。
森夏「取り敢えず今後は近付かないでよ？」
私はそのままこいつを置いて教室に戻る。
祥平「近付かないで……か、これは痛いな」
これがまさか私の運命を大きく変わろうなんてその時は思ってなかった。これが嫌な再開だって事を！
それから1週間が過ぎて昼を1人で食べていたのだが……
祥平「はむ……「どうした？」ん？富樫君と小鳥遊さんどうしたの？」
勇太「いや、高田を1人でいるの寂しそうだったから一緒にどうかと」
富樫君らしいが俺と一緒は駄目だ。

祥平「俺と一緒にいるの止めといた方が「いや実は六花がお前に興味があるらしいんだ」え？」
その隣の小鳥遊さんが目を輝せていた。
六花「貴方もダークフレイムマスターと同じ感じがする。」
ん？ダークフレイムマスター？なんだそれ？
勇太「六花？言うなっていったよな！」
勇太は六花のほっぺを軽く引っ張っている。
六花「勇太ー、いはい、いはい！」
うん、この２人は仲良いんだなって思うなこれ
勇太「あ？そうだお前って凡生谷とはどんな関係なんだ？聞こうとしても凡生谷が「富樫君♪何を聞いてるのー♪」に！凡生谷！」
祥平「さてとご飯早く食べないと」
六花「私も」
あ！この２人！逃げた！
凡生谷「富樫君？彼に何を聞こうとしてるのかな？そう言う話しは……部室で聞こうね？」
勇太「は！はい！」
教室だと凡生谷は本性出さないんだね。あの時よりまともになったんだな。
森夏「それでー♪」
その次の瞬間、俺はあの時の言葉を思い出して走って逃げた。
森夏「あ！ちょっと！……」
やばい、１週間前のがここまで気にしてるなんて思わなかった。
勇太「なぁ、凡生谷ってあいつと何か関係あるのか？」
凡生谷「悪いけど話すつもりは「凡生谷聞いて」小鳥遊さんどうしたの？」
六花が真剣な顔をしていてそのまま話す。
六花「魔王の顔は凄く辛そうにしていた。この邪王真眼がそんな反応をした。」
そう俺もあんな辛そうな顔を始めて見たがあいつは何かを訴えているかもしれない。

勇太「凡生谷、高田に何を言ったんだ？」
凡生谷「……あの1週間前、転校してきた時に私の過去を知ってるから……遂、関わらないでねって言っちゃって、その内大丈夫でしょ？と思っていたのよ。」
成る程な、それであいつは逃げたんだな。
六花「まだ間に合う、謝れば仲直りは出来る！」
小鳥遊さん……うん、そうね。私のせいだもん！あいつだってきっと謝ればきっと！
森夏「それじゃあ、今すぐに！「うわぁーーー！」え？何、今の悲鳴はまさか！」
凡生谷が走ってその場所に向かう！俺達も行かないと！
勇太「六花！行くぞ！」
六花「うん！」
俺達も後を走って追い掛けた！
学園の校舎裏
祥平「が！は！」
なんだよこの赤と青色の化物は！
アナザービルド「お前、邪魔」
祥平「が！」
俺はそのまま地面に叩き付けられた。このまま俺、死んじゃうのか？そうだよな、俺は此処で終わるんだもんな。はは……人生ってあっけないな。
アナザービルド「うう、終わらせる！」
くっそ！こんな……「ぐぁ！」え？
???「大丈夫ですか、我が魔王…」
いきなり現れた男は俺の手を引っ張り起こすが地面に何かのデバイスが置いてあった。
祥平「これって？「我が魔王なら使える筈です。」え、でも……」
俺はあんな化物をどうしろと……けど……迷ってられない！頼むよ！俺に力を借してくれ！あいつを倒す力を！……
祥平「やっぱり駄目なのか？俺には魔王の素質がないのかな？

『だったらどんな魔王になりたい？』え？誰？」
今の声っていったい……どんな魔王になりたいのか？……そんなの決まってる！
祥平「俺は優しい魔王になる！困ってる人達、全て守れる魔王になりたい！……え？デバイスが！」
『ジオウ…』
デバイスはジオウライドウォッチになり、男の人が何かのベルトを出して来た。
???「使い方はご存知の筈です。我が魔王……」
俺はそのベルトを手に持ってこう言う
祥平「何か……やれる気がしてくる！」
『ジクウドライバー！』
森夏「高田君！……え？何それ？」
凡生谷さん来てるけどあいつをどうにかしてからだ！
『ジオウ！』
ウォッチをそのまま右に入れてベルト中央のスイッチを押す。
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
勇太「え！えええええ！」
六花「ま！魔王が！」
森夏「へへへへへ！」
3人『変身したーー！』
???「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウ。まさに生誕の瞬間である」
ジオウなった祥平は色々触るがアナザービルドから仕掛けて来たが避ける！
ジオウ「うぉっと！えーとどうすれば良いの！そこの人！」
名前聞いてないから何て聞けば良いのか分からないからそう言うしかないよ！
???「何かね、我が魔王？「あんたの名前って何？」それは失礼した。

私はウォズ。君の味方だ。」
ウォズか……今はこいつだ！く！
ジオウ「何か武器ないの？『ジカンギレード！ケン！』うぉ！何か出てきた！」
これで攻撃すれば！はぁ！
アナザービルド「お前なんかに！」
ぐぁ！くっそ！強いな……なら！
『フィニッシュタイム！ジオウ！ギリギリスラッシュ！』
ジオウ「おらぁ！」
そのままジカンギレードで怪物を何とか倒した。
森夏「やったわ！」
勇太「これで解決か！」
六花「凄い…」
３人は祥平の所に近付きジオウから変身を解除する祥平は森夏を見た瞬間また走って逃げようとした。
勇太「よっと！逃げなくて大丈夫だろ？」
祥平「いや、でも凡生谷さんは俺に関わらないでねって言ってたから「それは私が言い過ぎた」え？」
凡生谷は祥平の前に立ち頭を下げた。
森夏「ごめんなさい！そこまで気にするとは思わなかった！……その今更だけど「待ってよ！俺が謝るのが筋でしょ！」ううん、過去のあれを知ってるからってあんな言い方はないわ。だから本当にごめんなさい……」
凡生谷……うん、俺もいつまでうじうじするのは嫌いだからな……良し！
祥平「それならまたよろしくね。凡生谷さん。」
彼は凄い笑顔で私に握手をしようと手を出して来た。
森夏「うん、此方こそまたよろしくね。高田君。」
お互い握手するが私は思った。彼の笑顔がめっちゃ眩しいと思った。
ＥＮＤ

第２話魔王を倒す者／勝利の法則２０１７

???「やれやれ、もう一度だね。まだ役目は終わってないんだから」
謎の青年が横に倒れてる男の中から祥平が持っていたウォッチと別のウォッチを取り出してもう一度起動させた。
『ビルド！』
???「が！あ！うあああ！」
そのままたアナザービルドにされ歩いていった。さっきの青年も、もう消えていた。一方祥平の方では……
極東魔術昼寝結社の夏の部室
祥平「俺までこの部活に入らないと「駄目、魔王の力必要…」俺、一応、高田祥平って名前なんだけどなぁー」
まぁ、別に悪くはないけど富樫君と小鳥遊さんは付き合ってたなんて知らなかったな。まぁ、幸せそうだし問題は……ごめん、あったな。凡生谷さんがいたのね
森夏「何？」
祥平「ううん、凡生谷さんがまさかこの部に入ってる事に驚いただけだよ。」
まぁ、あの時はマギノビオンを抹消しようとして入ったけど今はその目的は……まだ、あるけど……今は楽しいって言うのもあるからね。
勇太「そう言えば、高田って何で魔王になろうとしてるんだ？気になったけど？」
祥平「あー、それは「いやただの中二病よ？それ以外あるの？」いやいや！待ってよ！中二病じゃないから！」
森夏「いやいや、それこそないでしょ？まだ魔王とか言ってる辺りは中二病と同じよ？」
ぐ！確かにそう思われても仕方ないけど、違うもんは違うんだ！
ウォズ「我が魔王に無礼な奴だね」
いきなり窓の外から入って来たけど、どうやって来たの！
森夏「ひぃ！い！いきなり現れないでよ！びっくりするわよ！」

それは良いけど首が絞まってる！死ぬ！
祥平「ちょ！凡生谷さん！…ぐるじい……「あ！ごめん！」げほ！…げほ！…死ぬかと思った。」
やべーまじで死にかけた。
勇太「それよりどうやって上がって来た！」
六花「まさか……闇の力が何かを狙って！「六花は黙ってようなぁ～」勇太、酷い。」
相変わらずだなーと思っている中、富樫君が別の質問をした。
勇太「そう言えば最近、一色、見てないんだが高田、知ってるか？」
祥平「へ？あの頭坊主の人？……あれ？見てないかも、ウォズは知ってる？」
俺はウォズに聞き、ウォズは本を開いて説明しようとしていたその時
???「でりゃーー！」
いきなり凡生谷さんにスライディングをしたのは小学生？それとも中学生？
森夏「いった！何すんのよ！中坊！今は大事な話しをしてるんだから邪魔を「偽モリサマーが何を言うが！」だからモリサマ言うな！」
そして何か見えない電気がバチバチしてるんだけどてか誰？
祥平「ねぇ、あれ誰なの？」
勇太「あれは凸守早苗。六花の友達なんだ。」
へぇ、友達いたんだ。それは良かった、良かった。
六花「友達だが凸守は私のサーヴァントで弟子であるのだ。」
祥平「へぇ～「我が魔王、そろそろ良いかな？」あ！ごめん！良いよお願いする。」
ウォズ「一色誠は今はこの学園には来ていない「いや場所より何があったのか教えて」それは私にも分からない。」
え！分からないって！
祥平「じゃあ、今、一色君は一体……「見付けたぞ！オーマジオウ！」え？今度は誰！」
いきなり現れた男は俺にオーマジオウって言ったけど、どういう訳

？
???「この時代のお前に恨みはないが未来の為だ。ここで消えて貰う。」
『ジクウドライバー！』
え！ジクウドライバー！って事はこいつも仮面ライダー！
『ゲイツ！』
ベルトにウォッチをはめて、ベルトの中央のスイッチを押す。
???「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！ジカンザックス！オーノー！』
赤い仮面ライダーになっちゃったよ！てかこっちに来るよ！
祥平「何すんだよ！「言っただろ？未来の為だと！」うわぁ！仕方ない……か！もう！」
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
ジオウ「はぁ！」
武器のぶつかりあいで俺は押されるがこの中じゃ皆に怪我をさせる訳にはいかない！
ジオウ「此方だ！」
ふ！面白い！なら行くか！
森夏「ちょっと！……ねぇ、ウォズさん、あれは誰？」
ウォズ「彼も私と同じ未来から来た者だ。明光院ゲイツ君。彼は過去に来て、オーマジオウもとい、我が魔王、高田祥平を消しに来たのだよ。」
え？って事は祥平を消しに来たって事は殺すの！
勇太「それってまさか殺しに来たとかか？」
ウォズ「勿論だ。明光院ゲイツ君の未来では我が魔王オーマジオウが支配している世界だよ。」
それって最悪な未来になってるって事なのか！
六花「だが、魔王は優しい魔王を目指すと言っていた！」

ウォズ「確かにだがそれを変える者も今後は出てくるのだよ？」
それはかなり厄介になりそうだけど！今はあっちの方！
勇太「おい！凡生谷！」
六花「勇太……行こう！」
勇太「ああ！」
俺達は凡生谷の後を追って行く。校舎裏かよまた！
ゲイツ「はぁ！「ぐぁ！」やはりこの程度なら今すぐに楽にしてやる！」
『フィニッシュタイム！』
ジオウ「やばいがなら！こっちもだ！」
『フィニッシュタイム！』
同時にベルトを回転させ大きくジャンプをライダーキックをする！
『タイムブレーク！タイムバースト！』
２人『はぁぁぁぁぁ！』
その勢いで２人は弾かれる！
ジオウ「ぐ！」
ゲイツ「ふっ……」
ジカンザックスでジオウに止めをさそうとしたのだがあの赤と青色の化物がまた現れた！
ゲイツ「なんだ！こいつ！」
こいつ一体何がしたいんだ？だけど倒さないと！
アナザービルド「ふっ！」
ジカンギレードで攻撃するが防がれそのまま蹴りを喰らう！
ジオウ「うが！」
吹っ飛んだ衝撃で変身が解けてしまった。
祥平「く！そ！」
ここでジオウを倒せば俺達の未来は救われる。
アナザービルド「ふぅ！」
勢いでパンチをしてくるのを祥平は転がって避けるがまだ襲って来る！

祥平「ぐ！」
やばいこのままじゃ死ぬ！
アナザービルド「死ねーー！ぐあ！」
！……あれ？攻撃が来ない？
???「大丈夫か？」
え？赤と青の化物と似てる？「高田君！大丈夫！」え？凡生谷さん？
祥平「俺は大丈夫だ「良かった！」え？ちょっと！」
いきなり抱き付かれても困るんだけどな、それよりあれって誰？
???「君達は彼を連れて行くんだ！」
そのままアナザービルドに立ち向かって行く！
ウォズ「あれは仮面ライダービルド…それより我が魔王を一旦運ぼう」
俺達はウォズさんに言われて高田を部室に運んでいく。
部室
祥平「いてぇ、あの仮面ライダーは一体何者なんだ？」
皆が気まずそうにしてる中、何かの声が聞こえた。
???「高田君を～消しに来たんだって～ふにゃ～」
うぉ！誰！この子！てか、え？俺を消しに来たって！
勇太「ああ、くみん先輩……「あの仮面ライダーが俺を消しに来たってどういう事だ？」実は……」
説明中
祥平「成る程ね、だから俺を殺すような攻撃だったんだな「ならそれを捨てて……」え？凡生谷さん？」
そこには涙を流していた、凡生谷さんが真剣な顔をしてこっちを見る。
森夏「ならそのベルトを捨てれば命を狙われないでしょ！もう！……置いてかないでよ……1人にしないでよ……」ポロポロ
凡生谷はそのまま高田の膝の上で泣いてしまう。２人の過去に何があったんだ？
凸守「……凡生谷先輩とえーと誰デスか？「高田祥平。魔王を目指

してる男だ。」それなら高田先輩は凡生谷先輩と何があったのですか？」
言いたいけど、今は言えない、だけど、決めたんだ。優しい魔王になると決めた以上は絶対に死ぬ気もない！
祥平「俺は「おい、大丈夫か？」えーと誰ですか？」
いきなり入って来たのはコートを着た男性が答える。
???「俺は桐生戦兎。んでさっきのが仮面ライダービルドだ。これをあんたに渡しに来たんだ。」
戦兎さんは俺にライドウォッチを渡した。
戦兎「どうするかはお前が決めるんだ。後は頑張れ！」
そのまま部室を出ていき、俺は悩まない！あの化物を止めないと被害が酷くなる！
祥平「ウォズ、さっきの化物の名前ってなんなの？それと現れてる場所も」
ウォズ「あれはアナザービルドだ。だが今はそいつが仮面ライダービルドになっている。そしてアナザービルドは今、この学園の生徒を狙っている。それがここの部室の生徒だ。」
な！って事はもう来るって言うのか！
アナザービルド「みーつーけーたー！」
六花「また来たぞ！魔王！」
祥平「分かってる！「待って！」凡生谷さん……止めないでくれあいつを倒さないと！」
俺は振りほどこうとしたいが凡生谷さんはまだ反対なのか？けどそんな事言ってられるかよ！
祥平「凡生谷さんお願いだ！「それならもう一度約束して！」約……束？」
そのまま小指を出して来た。
森夏「もう私の前から急にいなくならないって約束して！」
凡生谷さんの前からいなくならないでか……凡生谷さんが変わらない人で良かったかもな
祥平「分かった！もう凡生谷さんの前からはいなくならない事をこ

こで契約を！」
俺は凡生谷さんの頭を優しく撫でた。
森夏「！……うん！」
めっちゃ笑顔が可愛いがそれは後にして、俺はジクウドライバーを腰に着けジオウに変身する！
ジオウ「はぁ！」
ジカンギレードで斬り何とか富樫君達を助けアナザービルドはまだ立ち上がるがもしかしてアナザービルドをそのまま校舎の外に追い出す！
森夏「皆！追うわよ！「ななな！なんデスか！あれ！」ほらあんたも一緒に！」
皆で走って校舎の外に出る。
グランド
アナザービルド「ぐぅ！許さないぞ！お前ぇ！」
やべ！バスケットボールが来る！だが負けないぞ！
ジオウ「はぁ！」
バスケットボールを跳ね返しアナザービルドは倒れるが攻撃は休めない！
ジオウ「おら！」
アナザービルド「うぐ！」
ジカンギレードでつつく用に攻撃し更に連続斬りをし倒れる。
ジオウ「これで止めだ！」
『フィニッシュタイム！タイムブレーク！』
そのまま回し蹴りでアナザービルドに当てる！
アナザービルド「う！ぎゃーーー！」
良し！これでアナザービルドは倒した筈だ。
ジオウ「イエーイ！「高田君！後ろ！」え？」
倒した筈のアナザービルドは起き上がっていた！まじでかよ！
アナザービルド「お前達が先輩といるなんて羨ましいんだよ！」
またか！バスケットボールがしぶとい！ぐ！
ジオウ「一体どうしたら！『ウォッチを使って』え？また？ウォッ

チってもしかしてこれか？」
さっき戦兎さんから貰ったライドウォッチだけど、通用するのか？
てか何なのあの声？
ウォズ「それを使うと言う事はビルドの力を継承するって事だよ、我が魔王」
ジオウ「何処から現れたの！」
本当に何処でも現れるな、この人……
ウォズ「その力は絶大に大きい、君に扱えるかい？我が魔王？」
俺はビルドライドウォッチを見て、凡生谷さんの方を向く。お互い頷く。
ジオウ「ならやってやるよ！」
『ビルド！』
俺はビルドライドウォッチを左に入れてベルトの中央ボタンを押して回す。
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウビルドアーマー。まさに継承の瞬間である」
うわぁ、めっちゃ凄い格好になったけど右手にドリルとか格好いいなぁ～
ジオウ「何か勝利の法則が決まりそうだ！行くぜ！」
ドリルの攻撃でアナザービルドはさっきよりダメージを喰らっている！これなら！
アナザービルド「ふざけるなぁーー！「おら！」ぐ！」
そのままアナザービルドは倒れる。
ジオウ「確か、ぐるぐる回すんだよな！」
左腕でビルドの真似をしぐるぐる回す。
勇太「これって何の方程式だ？」
六花「何か格好いい！」
凸守「デスね！マスター！」

森夏「いや、これは酷すぎでしょ……」
それぞれそう思ってる中、ジオウはウォッチのスイッチを押す！
『フィニッシュタイム！ビルド！ボルテックタイムブレーク！』
白い線に乗りドリルアタックを喰らわせ一回上に飛ばしもう一度戻ってそのまま止めをさし、アナザービルドは爆発をする。
???「ぎゃっ！……」
あれもしかして！
ジオウ「一色君！」
勇太「一色！」
それぞれ一色の所に近寄る。数分後目を覚ましたがさっきの事を覚えてないと言っていた。
祥平「一体どうして……「魔王よ！」ん？何？」
凸守「気に入ったデス！お前は今日からこの凸守のサーヴァントになるのデス！」
はい？今なんて言ったの？
森夏「ふざけるなぁーー！この中坊！こいつは私のよ！あんたの物じゃないわよ！」
あれ？俺はいつから凡生谷さんの物になったの？それと俺は物じゃないからね？
凸守「何を言ってるデスか！この魔王は私の最強のサーヴァントになるのデス！」
祥平「いや、普通に嫌なんだけど？「なん…デス…と！」だって凡生谷さんと契約したからそれは無理だから諦めてね。凸守」
凸守には悪いけど、凡生谷さんを1人にしないって約束したからね。あれ？凡生谷さんからめっちゃ赤いオーラが出てるんだけど……あはは～
森夏「それは言っちゃ駄目でしょ♪……これを飲ませるわね♪」
凡生谷は紫色の飲み物を出した。てか高田の顔がめっちゃ真っ青なんだが？
祥平「あー、えーと、凡生谷さんいえ凡生谷様！それだけは止めて下さい！」

森夏「問答無用よぉー！」
祥平「ぎゃーーー！」
ＥＮＤ

第3話新たな中二病の子出現！そして恋の病

極東魔術昼寝結社の夏の部室
祥平「ういーす……またやってるよ」
俺は部室で来たのだがまたやってるよ。
森夏「何回も言うけど！高田君は私の物！」
凸守「何を言ってるデスか！凸守はまだ魔王をサーヴァントにする事を諦めてないのデス！」
俺はどちらの物じゃないんだけどなぁ～『ねぇ！デス！』うぉっと！何！
森夏「高田君も言ったわよね！私と契約したって！」
いや確かに言ったけど、てかまだ続いてるの？
凸守「何を言ってるデスか！偽モリサマーだって泣きながら1人にしないでよ…って言って恥ずかしくないのデスか～～♪」
まぁ、凡生谷さんも言い返すんだろうな、てかこの2人飽きないでやるよね。
森夏「……／／／」
あれ？何も言い返さないの？
凸守「は、はぁ～ん？さては偽モリサマーはこの魔王の事に惚れ……「何か言ったかしら♪凸ちゃん♪」……ご、ごめんなさいデスー！」
めっちゃ真っ青になって帰ったよ。それより凡生谷さん風邪でも引いたのかな？顔が赤いけど？
祥平「凡生谷さんちょっとごめん……」
え！あ！……ああ！……お！おでこをく！くっつけ！／／／
祥平「うーん、熱はなさそうだけど念の為に保健室に「い！」い？」
森夏「いきなり何するのぉーーー！／／／」
祥平「ぐっはぁーー！」
勢いあるパンチで俺はダンボールに入り、更には上から物が落ちて来たけど凡生谷さんどっか行ってしまったよ！助けてー！
廊下

勇太「あれ？凡生谷どこに行くんだよ！「今日は部活出ないから！」
え？」
あいつ何で走っていってんだ？
六花「勇太、凡生谷には何か悪魔が取り付いてるかもしれない「い
やそう見えないが？」一体なんなのか？」
まぁー気になるが取り敢えず部室に向かうか。と思ったら部室の
ドアを開けて左を向いたら
部室
祥平「誰かー！助けてー！「何してんだ？」その声は富樫君！荷物
をどうにかして！動けない！」
山の状態で荷物が高田の上に乗ってるのをどかして何とか助けた。
祥平「いやーめんぼくない、助かった助かった「何をしたらあーな
るんだよ」いやぁ、ちょっと凡生谷さんに押し倒された」
え？凡生谷に押し倒された！何か想像出来ねぇが多分こうか？
……
～勇太の想像～
森夏『さぁ！貴方は私の物なのだから！覚悟しなさいよ！』
祥平『や！止めろ！お！俺は凡生谷さん！こんな事を！』
森夏「安心しなさい……この！ナスジュースを飲むだけよ！」
祥平『オレノカラダハボドボドダ！やめ！止めてくれぇーー！
いーーやーーー！』
～想像終了～
……そんな訳ないか、凡生谷がそんな嫌がらせを高田になんて
……ないよな？
六花「凡生谷が魔王を押し倒した？……」
～六花の想像～
祥平『えーと、凡生谷さん近いんですけど？』
森夏『そうかしら？それよりあれ準備出来てる？』
祥平『準備ってなんの？』
森夏『もう…言わせる気？…その……キスする準備よ！／／／』
祥平『はぁ！そ！そんなの付き合ってもないし！それに！『好きだ

からわよ／／／／『え？／／／／』
……
森夏『やっぱり無理ーー！／／／／』
祥平『え？うわぁ！』
～想像終了～
六花「ま！魔王は凡生谷とつ！付き合ってるのか！／／／／」
六花の言葉で高田は頭に？だった。
祥平「え？付き合ってもないけど？」
勇太「え？違うのか？もしくはナスジュースを飲まされたのかと？「富樫君はエグい罰を思い付くな」あれ？そうだと思ったんだけどな、昨日のあれを見たから」
うわぁ、思い出したくない事思い出しちまったよ……ナスだけは無理だ。そんな物出されたら何がなんでも逃げる自信はあるから
六花「それなら何をしたらああ、なる？」
祥平「いや、実は顔が赤かったからおでこをくっつけて熱あるか確認しただけだよ？」
……いやそれは凡生谷でもそりゃあ～赤くはなるだろ！普通に恥ずかしいわ！
六花「私も勇太にされたら……はぅ…／／／／」
めっちゃ顔が真っ赤になってるよ。まぁ、俺も今日は帰るか他の用事があるし。
祥平「悪い、俺も用事思い出したから帰るわ。じゃ！」
俺は走って玄関に向かう途中でピンクの髪の色をした女の子が現れた。
祥平「おっと……誰だ！「にーははは！この私！ソフィアリング・SP・サターン7世の攻撃を避けるなんてね！」ん？ソフィア？……あ！もしかして七宮さんか！」
七宮「え…もしかして魔王？」
祥平「そうだよ！てかその制服もしかして七宮さんもこの学校に転校してきたの！」
小鳥遊さん達と同じ制服着てるけど首にはマフラーしてるのが七

宮智音さんだ。
七宮「それより魔王も相変わらず変わらないね！あれからモリサマとは仲直り出来たの？」
う！今、それを言うのか。けど今は仲良くはなってる筈だよな？多分…うん多分なってる
祥平「まぁ、仲直りは出来てると思うよ。それで七宮さんは何してんの？」
七宮「まぁ、ここに魔王が転校したって聞いたんだよね！それに魔王のパートナーはこのソフィアちゃんに決まってるんだから！それにほら昔に魔王とダークフレイムマスターと一緒だったでしょ？」
いや、パートナーってそんなつもり、ん？ダークフレイムマスター？あれ？何処かで聞いた事あるんだが？最近それを耳にした気が……
祥平「取り敢えずここにいるのもあれだし行こう「我が魔王」うぉ！だからいつの間にいたの！」
いつでも現れるな全く！
ウォズ「気を付けた前、今後もしかしたら明光院ゲイツ君は君を倒しに来ると思うよ。警戒はしとくんだよ？」
あの赤い仮面ライダーの事か、まじかそれはそれで嫌なんだが……
七宮「ちょっ！ちょっと待って！え！魔王は命狙われてるの！」
祥平「あーもう！行くよ！」
俺は七宮さんの手を掴みそのまま一緒に学校を出た。
祥平「はぁ、もうウォズはいきなり現れて困るな。「魔王！」何？」
七宮さんが俺の胸ぐら掴んで来るけど何で俺はこんな目にあうの！
七宮「あの人が言ってた事ってどういう事なの！」
祥平「ああ～実は……！七宮危ない！」
俺は七宮さんを引っ張り押し倒す用な感じになっていた。
祥平「あいつは何者なんだ？「魔王…」七宮さんは隠れてて！」
ジクウドライバーとジオウライドウォッチを取り出す！
『ジクウドライバー！ジオウ！』

祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
俺は謎の怪物に攻撃するが防がれそのまま蹴られた。
ジオウ「いってぇ、なら！」
『ジュウ！』
ジカンギレードケンモードからジュウモードに切り替え撃つがこいつ効いてないのかよ！
ジオウ「ぐは！」
アナザー???「お前は消す！」
ぐ！やべ！こいつやりやがるな！だったら！
『ビルド！』
七宮「魔王のあれって何なの！え！本当にあの魔王なの！」
流石に驚くのも無理はないよな？だけど今はこいつだ！
『アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
ビルドアーマーになり怪物に攻撃するがこいつやっぱり強い！ぐは！
ジオウ「それにこいつって何のライダーなの？「あれはアナザーエグゼイドだよ。我が魔王」アナザーエグゼイド？」
く！こいつ本当に厄介だな！
ジオウ「こうなったら！」
『フィニッシュタイム！ビルド！ボルテックタイムブレーク！』
白い線に乗りそのままアナザーエグゼイドに当てようとしたのだが消えていた！
ジオウ「逃げられた……「魔王ー！」ん？七宮さんは大丈夫か？」
俺はジオウから変身を解除し七宮さんが大丈夫なのかを聞く。
七宮「うん、大丈夫だよ！魔王が守ってくれたからね！」
祥平「そうかなら良かったよ「高田君、その人は誰？」え？に！凡生谷さん！いつの間に！」
めっちゃやばい！赤いオーラがまた見える！てか怖い！
森夏「……「もしかしてモリサマー？」え？……！七宮！あんた！……そうなんだ、高田君と付き合ってるんだよね？」

凡生谷さん？何か様子がおかしいぞ？
七宮「え？」
ん？何か違う誤解をしてないか！
森夏「そうだよね……何かごめんね…」
凡生谷さんはそのまま走ってしまった。
七宮「モリサマー！違う！私達はそんなんじゃ！」
祥平「七宮さん行こう……凡生谷さんを追い掛けるぞ！」
２人で凡生谷さんの後を追い掛けようとしたがまたゲイツが攻撃してきた！
祥平「お前！今は相手にしてられないんだ！「悪いが貴様を倒す！」ふざけんな！こっちはそれ所じゃないんだよ！」
ゲイツ「それで逃がすとでも言うと思ったか！」
くそ！俺は約束もとい契約したんだ！凡生谷さんを１人にしないって！
祥平「七宮さん！凡生谷さんを頼む！俺は後から絶対に行く！こいつは俺が狙いだから早く！」
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
魔王……うん！分かった！
ジオウ「……ゲイツ！お前の勝手な事で邪魔をするな！はぁ！」
俺はパンチとキックをするが前よりはマシにはなってる！これならまだ！
ゲイツ「調子に乗るなよ！」
『ジカンザックス！ユーミー！』
ユミモードでジオウにダメージ与えその後にオノモード切り替えそのまま攻撃を止めなかった！
ゲイツ「はぁ！」
ジオウ「く！だったら！」
『ビルド！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
ほう？ビルドの力か？ならこちらもだ！

『ゴースト！ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！アーマータイム！カイガン！ゴーストー！』

な！なんだあれは！もしかして他のライダーの力のライドウォッチが存在するのか！……大丈夫、何とかして凡生谷さんの所にいかないと！と心配する中俺はちょっとやばいと感じた。

森夏「はぁ…はぁ…」

私は七宮と高田君が話してるのを見てたら心臓がちくっとした。けどあの２人似合ってるもんね。「モリサマー待って！」七宮……

七宮「はぁ…はぁ…ま、待ってよ…はぁ…はぁ……ふぅ、私と魔王は昔は確かにパートナーだったけど！今も狙ってる！」

そんな事……言われてどう信じろって言うの！私は！私は……え？七宮？

七宮「……確かに私と魔王を見てそう思ってもおかしくないと思うよ。けど今はモリサマーの気持ちはどうなの？本当の気持ちを！」

森夏「私の…気持ち……分からないわ。高田君と私じゃない女性が話してるのを見てたら心臓がズキズキして……「凡生谷さん！」え？高田君…／／／」

え！待ってよ！今の俺、かなりぼろぼろなのに勘弁してくれよ！もー！

七宮「あの赤い奴はどうしたの？」

祥平「何とか逃げて来た。それより凡生谷さんを！……あ……れ……身体に力が…入ら…な……」

え？ちょっと魔王が倒れたよ！ちょっとしっかりしてよ！魔王！嘘でしょ！

いきなり倒れた祥平に一体何があったのか？

ＥＮＤ

第４話祥平の風邪！そして現れる天才ゲーマー永夢

七宮「取り敢えず魔王の家に！」
そして私は魔王を運んで行くけど1人じゃ思いよ、どうしたら……
六花「どうしたのだ？……！勇太！大変だ！魔王が謎の魔力にやられている！「ややこしい事を言うな」あぅ…」
勇太「取り敢えず運んで行こう！あんたも手伝ってくれ！」
この人何処かで……もしかて勇者？いや今は魔王の事が先だよ！
高田家
勇太「ここで良いんだよな？」
ベッドに高田を横にして置くが家族いないのか？
祥平「後は…大丈夫……げほ！げほ！「無茶するな」……でも…」
そうとうやばいなこれ、もしあのゲイツって奴が現れたらそれこそ不味い「困ってるらしいな」！…こいつ！
ゲイツ「待て、流石の俺もこんな状態の奴に攻撃はしないと約束はする。だがジオウが完全な状態になってからだ！」
素直じゃないなぁー、まぁ、助かるな。
六花「それで貴様は何者なのだ？」
七宮「にーははは！私は魔法魔王少女！ソフィアリング・ＳＰ・サターン７世！「お前もしかして七宮か！」やっぱり勇者だったんだね！久し振り！」
懐かしいが今は高田をどうするかだな。
七宮「取り敢えずモリサマに連絡するよ。こんな緊急事態だし。」
勇太「ああ、頼むよ……」
七宮が高田に魔王って言ってるのを聞いて思い出した。昔に俺は高田に会ってた。そうだ俺は七宮と高田に憧れて中二病を始めたのを思い出したが……
祥平「ぐ！…はぁ…はぁ…」
七宮「勇者、このままじゃ魔王不味いかもしれない」
勇太「どういう事だ？」

七宮「さっきより苦しそうにしてるよ、下手したらこのままだと……」
その言葉を言いたくはないんだろうな、だがこいつはそんな簡単にくたばらないって信じてる、きっと元気な姿で戻って来ると。
七宮「それじゃモリサマに連絡して見るよ！」
七宮は携帯を取り出すがそこに現れたのはまたピンク色の化物だった！
アナザーエグゼイド「見付けた！」
いきなり高田を狙って来たが明光院が蹴りで飛ばした。
ゲイツ「今回ばかりは助けてやる、だが今だけだ！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！ジカンザックス！オーノー！』
ゲイツはアナザーエグゼイドを外に追い出しそのまま祥平の家から離れたが祥平はさっきより苦しんでいた！
祥平「あ！…ぐ！あ！あああああ！」
六花「勇太、怖い」
六花は俺に抱き付き不安な顔をしていたが優しく頭を撫でてやった。
勇太「大丈夫だ、俺はちゃんといるから……しかし高田がここまで苦しむのって何が原因なんだ？」
俺が考えていたら七宮は凡生谷との連絡が終わっていた。凡生谷はこっちに向かってると聞いて、俺はあの化物が何者か、考えた。最初は一色だった……だが次は誰なのかを考えるが分からない事だらけだ。
七宮「一体、なんなのかな？」
俺達はそう考えている中ゲイツはどうしてるんだと思った。
公園付近
ゲイツ「はぁ！」
ジカンザックスで攻撃するがやはり動きが速すぎて当たらない！
アナザーエグゼイド「お前には用はない！」
またジャンプの高速か！だったら！

『ドライブ!アーマータイム!ドラーイブ!ドラーイブ!』
ゲイツはドライブアーマーになり動きがさっきより速くなりアナザーエグゼイドに攻撃が当たった!
アナザーエグゼイド「ぐぁ!」
これなら直ぐに片がつく!
ゲイツ「こいつならどうだ!」
両腕のシフトカーを飛ばしてアナザーエグゼイドに攻撃が直撃し倒れる。
『フィニッシュタイム!ドライブ!』
これで終わりだ!
『必殺!タイムバースト!』
足のタイヤで進んで行き、体当たりを何回も当ててアナザーエグゼイドは爆発したのだがその中から出てきた人間はゲイツは驚いた!
ゲイツ「な!お前は!馬鹿な!そんな筈ない!」
ゲイツが見た者は祥平だった!
ゲイツ「お前!何故いるんだ!確かに自分の家にいた筈で動けなかっただろ!「黙れよ……」尚更お前の口から聞かせて貰うぞ!」
ゲイツは祥平?に攻撃をしようとしたが後ろから攻撃を喰らう!
ゲイツ「何者だ!」
???「悪いけど……彼はやらせないよ……はぁ!」
こいつは何者だ?ぐぁ!
???「弱いね、ならこれでおしまいだよ」
ホルダーからカードを1枚取り出してバックルに入れる。
『ファイナルアタックライド!アアアアギト!』
???「はぁぁぁぁ!」
ゲイツ「ぐぁーー!」
ゲイツはそのまま吹っ飛ばされ気絶をしてしまい、謎のライダーは祥平?と何処かに消えてしまう!
高田家
祥平「あ!ぐ!やべぇ……誰か!……助け…て!ぐ!」
このまま見てられるかよ!一体どうしたら!「高田君は大丈夫!」

凡生谷！
勇太「お前こんな一大事に何処に行ってたんだよ！「解ってる！七宮から聞いてそれで医者の先生と一緒に来たのよ！」え？」
そこには白衣を着た男性がスコープで調べて原因を教えてくれた！
???「ゲーム病…しかもかなりやばいのだ……」
六花「勇太…この人から強力な金色のオーラを感じる……」
え？金色？てか失礼だろ…
勇太「えっと貴方は何者？」
???「ん？僕は聖都大学附属病院所属の宝生永夢。」
突如現れた青年宝生永夢、この事態は大きく変えられるのか？
ＥＮＤ

第５話運命を変える力／ノーコンティニュー２０１６

勇太「それでそのゲーム病ってなんなんだ？」
俺は宝生先生に聞く。
永夢「コンピューターウイルスが実体してその人間に感染するのがゲーム病そして彼の身体から何か出てた？もしそれがあったらバグスターウイルスが出てくる筈なんだけど、どうでしたか？」
七宮の方を向いてそれを聞いて七宮は答えた。
七宮「確かにオレンジ色のぶつぶつが！」
やっぱり彼はゲーム病……バグスターウイルスに感染してるけど、見た事ないゲーム病……まさか！新種のバグスターなのか？いや、だけど……！
永夢「こいつらバグスター！なんで！皆さんは下がって！」
そうして宝生先生は緑色の物を取り出し、ピンク色の物も取り出し起動した！
『マイティアクションＸ！』
永夢「この人達の運命は俺が変える！大変身！」
『ガシャット！ガチャーン！レベルアップ！マイティジャンプ！マイティキック！マイティ・マイティアクションＸ！』
森夏「え！宝生先生も変身をした！」
まさか六花が言ってる事ってもしかして本当の事になってないか！
エグゼイド「ノーコンティニューでクリアしてやるぜ！『ガシャコンブレイカー！』おらぁ！」
バグスター達を斬って行くエグゼイドはそのまま外に追い出してそのまま２階から飛び降りて連続で斬って行く！
エグゼイド「はぁぁぁぁ！」ＨＩＴ！ＨＩＴ！
まだまだ！今度はこれだ！
『バッコーン！』

エグゼイド「行くぜ！おら！」
その勢いでバグスター達は倒すが肝心のボスが現れなかった。
エグゼイド「おら！喰らえ！」ＨＩＴ！ＨＩＴ！ＨＩＴ！
これでもまだ現れるのかよ！おっと！
エグゼイド「お前は何者だ！」
アナザーエグゼイド「お前も消す！は！」
こいつ！俺と同じ姿！一体なんなんだよ！
エグゼイド「ぐ！今度はなんだ！」
パンチが俺に当たりその方向を見る！
???「仮面ライダーエグゼイドね？」
こいつ……只者じゃない…やばい雰囲気がする。
???「だったらこいつね？」
『カメンライド！エグゼイド！マイティジャンプ！マイティキック！マイティ・マイティアクションＸ！』
な！こいつ！エグゼイドに変わりやがった！
???「エグゼイドにはエグゼイドってね？はぁ！」
エグゼイド「ぐ！これは本気でいかないと！やられる！」
『マキシマムマイティＸ！マキシマムガシャット！ハイパームテキ！』
エグゼイド「ハイパー大「させるか！」ぐぁ！」
ムテキガシャットが！仕方ない！
『マキシマムパワーＸ！』
エグゼイドはレベル９９になりマキシマムアーマーで???に攻撃を仕掛ける！
エグゼイド「おらぁ！」
???「はっ！」
く！避けられた！ぐ！
アナザーエグゼイド「お前は邪魔だ！」
???「なら？」
『ファイナルアタックライド！エエエエグゼイド！』
２人はジャンプをしてキックの態勢に入る！

エグゼイド「簡単にはいかない！」
『ガチョーン！キメワザ！ガチャーン！マキシマーム！クリティカルブレイク！』
エグゼイドもジャンプしキックをするのだが跳ね返され変身が解けてしまう！
永夢「あ！く！」
一体何者なんだ！それにしても……強い！
???「やはり天才ゲーマー永夢と言ってもこの程度なのね「お前は何者なんだ！」通りすがりの仮面ライダー、覚えといてね♪」
そしてそのまま2人は行こうとしたけど
???「じゃあね♪「ま！待て！」ん？」
永夢「な！祥平君！無茶をしちゃいけない！「それでも！……やらなきゃいけない……んだ！」……」
へぇ？何者なのかしらね？
祥平「これ以上！やら……せ！……ない！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
俺は無茶をして変身をし謎の仮面ライダーに攻撃をする！
???「へぇ？貴方が仮面ライダージオウ？「それがなんだ！」貴方じゃ勝てないわよ！」
ホルダーが剣になりジオウはダメージを喰らうがまだ立ち上がる！
ジオウ「ぐ！まだだ……まだ！終わらねぇ！」
???「しつこい！」
『ファイナルアタックライド！エエエエグゼイド！』
ジオウ「うわぁぁぁぁぁ！」
諸にファイナルアタックライドを直撃しジオウはやられてしまい倒れる。そこに勇太達が来ていた。
勇太「高田！おい！しっかりしろ！」
高田？いやそんな筈は？……
七宮「ねぇ！魔王！しっかりしてよ！」
魔王……え？

???「まさか…いやありえない……だって「よくも魔王を！」魔王ってまさか！」
六花は???に近付くのだが勇太がそれを止める！
勇太「止めろ六花！」
六花「離せ勇太！魔王を！凡生谷達の大切な人を！」ポロポロ
六花の目から涙が出ていたが俺は六花を抱き締める。
森夏「許せない！「凡生…谷…さん…」高田君！大丈夫！」
祥平「なんと……か！ぐ！」
このままじゃ！どうすれば！
???「……」
『アタックライド！リプログラミング！』
いきなり1枚のカードを取り出してバックルに入れて高田にいきなりホルダーを銃にして撃った！
祥平「え？……苦しいのが……なくなった？」
七宮「魔王！気分はどうなの！」
祥平「さっきよりはマシになった……「良かった！」お！し！七宮さん！」
いきなり七宮は高田に抱き付く！
七宮「魔王が元気になって良かったよ！」
森夏「ちょっと七宮！離れなさいよ！」
凡生谷が高田から七宮を引き離すのは良いんだが
永夢「貴女は敵なんですか？「まぁ、私はこの辺で、だけど」え？」
謎の仮面ライダーは姿を消し残ったのはアナザーエグゼイドだけであった。
アナザーエグゼイド「お前達！」
こいつはもしかしてアナザーライダーか！なら！
祥平「皆は下がってて！『ジオウ！』変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
ジオウになりアナザーエグゼイドを蹴り飛ばすが更に現れたのはアナザーエグゼイドの手下か？
『ジカンギレード！ケン！』

ジオウ「おら！」
連続で斬って行くが全く効いてない！
ジオウ「うおっと！こいつら！もう！「ぼさっとするな！」ゲイツ！」
今まで現れなかったゲイツがようやく出てきた！
勇太「今まで何してたんだよ！」
ゲイツ「謎の仮面ライダーに不意討ちでやられた。だがもう遅れはとらんぞ！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！』
ゲイツも変身しアナザーエグゼイドの手下達を倒して行くがやはり効いてない。
ジオウ「どうすれば良いんだよ！もう！」
何か魔王が倒せる方法は……あ！あれだよ！
六花「宝生さん、魔王と同じデバイスを持ってない？」
六花ちゃんが僕に彼が持ってる似たデバイスがあるかを聞いて来たけど、うんこれだよね？
森夏「宝生さん2つも持ってたんですか？」
永夢「うん、気付いた時にはポケットに入ってたんだ。祥平君これを！」
永夢は2つのライドウォッチをジオウに投げる！
ジオウ「はっ！おっと！これは……永夢さんこれって！」
永夢「それは君に渡す！それに君達の運命は君達で決めるんだ！」
そうか……運命を変えるか……なら！やってやるよ！
アナザーエグゼイド「させないぞ！」
ゲイツ「それはこちらもだ！」
ゲイツ……ありがとう！
『エグゼイド！』
エグゼイドライドウォッチをジクウドライバーに入れて回転させる！
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！アーマータイム！レベルアップ！エグゼーイド！』

ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウエグゼイドアーマー。また1つライダーの力を継承した瞬間だ」
永夢さんが俺の隣に歩き近付いて来てこう言った。
永夢「ノーコンティニューで！」
ジオウ「何か…やれる気がしてくる！」
俺はアナザーエグゼイドに腕のガシャコンブレイカーで攻撃をする！
アナザーエグゼイド「うが！」ヒット！
ジオウ「おら！」
まだ追い撃ちを喰らわす！
アナザーエグゼイド「貴様ぁ！ぐ！」ヒット！
そろそろ終わらせるか！
永夢「キメワザを決めろ！キメワザ！」
永夢さんの動き、多分仮面ライダーの時に変身した時のだよな？
まぁ！行くか！
『フィニッシュタイム！エグゼイド！』
ジオウ「これで終わりだ！」
『クリティカルタイムブレーク！』
そのままジャンプしガシャコンブレイカーでそのままタックルする！
アナザーエグゼイド「俺は！こんな！うがーーー！」
アナザーエグゼイドはそのまま爆発しその中の人間が現れると思ったのだが
ジオウ「え？いない！……どうなってんだ「魔王ー！」七宮さん！おわ！」
ジオウから変身が解けて起きようとしたいがめっちゃやらわかい物が……あれ？めっちゃ殺意がするんだけど？
祥平「あー、凡生谷さん……あはは、その木刀どこから持って来たのですか？」
木刀持った凡生谷さんがめっちゃ怖いよ！

六花「魔王の運命は凡生谷にやられる運命だった…」
祥平「待って！凡生谷さん落ち着いてよ！」
森夏「そんなの落ち着ける訳ないでしょーーー！」
祥平「ぎゃーーー！」
そのまま木刀で叩かれそのままめっちゃ痛めた。
祥平「～～～～！」
うわぁ、めっちゃもがいてるな、ん？宝生先生？
永夢「大変そうだけど、頑張ってね、それじゃあ、僕は戻るね。」
永夢先生はそのまま帰って行くが高田はめっちゃ痛そう。
七宮「ねぇ、魔王大丈夫？」
祥平「う、うん、何とか……」
うー、私はこんな事をしたい訳じゃないのに！もう！
ウォズ「我が魔王は意外にモテるもんなんだね」
森夏「～～～／／／／！もうウォズさん！「私は何も君に言った訳ではないよ？」う！／／／／」
え？どういう事？凡生谷さんが何か俺と関係……「魔王はこの魔法魔王少女ソフィアちゃんのパートナーだよ！」え？七宮さん？
森夏「な！」
七宮「それじゃあ！魔王早速行くよー！」
七宮さんに立ち上がらせられてそのまま引っ張られてしまう。
勇太「……凡生谷？」
六花「大丈夫？「七宮なんかに！……」え？」
森夏「渡さないわよ！」
凡生谷から強力な魔力を感じる！これは凄い！
ＥＮＤ

第6話向き合う覚悟！前編

いきなり回りの動きが止まった。
???「やれやれ、まさかこの時代のジオウが此処まで強くなるなんて「そりゃそうよウール」なんだよオーラ」
オーラ「この時代のジオウは多分、厄介になるね。」
まぁ、確かにジオウは厄介になるね。なら……
駅付近
祥平「お！おい！どこまで引っ張るの！」
七宮「うん、ごめん、これもモリサマーの為なんだよ」
凡生谷さんの為？どういう事なんだ？
祥平「まぁ、それだったらちょっとこのまま行きたい場所があるから行くか？」
七宮「うん行きたいと言いたいけど、私も今日は今から別の用事があるからこの辺で！じゃあね！」
七宮さんは走ってそのまま何処かに行き、俺もとある場所に向かう前にあれもだ。
祥平「花とお線香を買ってから行くか。」
んでその2つを買い向かう事にした。
～数分後～
祥平「久し振りに来たな……しんみりはなしだ！」
お墓前
祥平「随分久し振りに来たよ、姉さん。良し始めるか。」
そう俺は家族のお墓参りに来ていたのだ。まぁ、そんなに慌ててはない。あれから何年たったのだろうか？……姉さんがいなくなって俺の心は一回折れてしまい。あの時はまじで自殺もしようとしたけど、そんなある日にあの人に出会ったんだもんな。そう凡生谷さんだ、けどあの時はモリサマーだから、まぁ、モリサマーにしとくか。あの時、最初は頭がおかしい奴だと思ったけどそん時は毎回毎回、妖精とか愛とか言ってたな……だけどそんな自分は変わっていったな。モリサマーと関わってから怒ったり、笑ったりする用になった。本当

に感謝はしていたが俺はそこから魔王とかに目指そうと考えがついたのだが、数日して俺は母親と父親に捨てられた。手紙ではこう書いてあった、『あの子が死んだのはお前見たいな駄目な子のせいだ！お前は疫病神だ！俺と母さんはこの家から出ていく！お前はもう家の子ではないから好きにしていろ……』と俺はショックが大き過ぎて大泣きをした。そしてその次の日から学校もいかなくなり、それから今に至る……凡生谷さんには悪い事をしたと今でも思ってるけど…見たくない奴を見てしまうなんてな

祥平「さてと……姉さん、また来るね「お前…」ん？……！…あんた達は」

そこにいたのは祥平を捨てた父親と母親がいた。

祥平「……」

今すぐにでもぶん殴りたい！だけどそんな事しても意味がない事は分かってる！分かってるのに！

祥平の父親「どうしているんだ「姉さんの墓参りだ、それ意外あるとでも？」ふん、お前みたいな疫病神はまだ生きてるとはな」

この糞野郎……駄目だ、冷静になれ、俺を捨てた人達なんて！

祥平「どうするかは俺の勝手だ、あんたらを見るのはもう嫌なんだよ。」

俺は墓参りを終えて帰ろうとしようとしたが母さんが俺の手を掴む。

祥平「なんだよ…「あの時は本当にごめんなさい」！、謝るんじゃねぇよ！俺はあんたらのせいで……くそ！」

俺の心は全く整理出来ない状態まで焦ってるんだろうな、だから尚更許せないんだよ！

祥平の母親「……「早くしろ」このままで本当に良いの？あなたは？」

祥平の父親「あんな奴はほっとけ！もう俺達の子ではないんだから！「へぇ？それなら彼を倒す力を僕が上げようか？」誰だ？」

いきなり現れた、男の回りは時が止まっていて、そんな事を言ってきた。

ウール「君にとってあいつをどうしたい？」
祥平の父親「そんなもん、娘の仇を取りたい。あの疫病神を倒す力があるなら！「契約成立だね♪」ぐあ！あ！あああああ！」
『ファイズ！』
祥平の父親はアナザーファイズになり、祥平の行った方向に向かった！そして時は動き出した。
祥平の母親「あれ？あなた！何処に！」
まさか！
祥平「はぁ…はぁ…「高田君大丈夫？」凡生谷さん……いやなんでもない」
森夏「でもなんか辛そう「いいから！」え、ごめんなさい……」
俺は凡生谷さんに当たっても意味がないのは知ってるのに！くそ！
アナザーファイズ「見付けたぞ！」
いきなり蹴りが入り防ぐのが出来なかった！
祥平「ぐ！アナザーライダー！なんでこんな所に！」
森夏「大丈夫！「黙って隠れてろ！変身！」高田君……」
なんかいつもより、酷い顔をしてる……
ジオウ「はぁ！」
俺はジカンギレードで攻撃しそのまま蹴りもする！
アナザーファイズ「ぐ！「くそが！」ふ！甘いぞ！」
ジカンギレードを防ぎ弾かれ、そのまま諸に蹴りを喰らってしまう！
ジオウ「ぐは！だったら！」
『ビルド！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
ビルドアーマーになりドリルで攻撃するが避けられている！
ジオウ「くそ！当たれよ！この！はぁ…はぁ…あああああああ！」
『フィニッシュタイム！ビルド！』
ジオウ「ああ！おらぁぁぁ！」
『ボルテック！タイムブレーク！』

そのまま怒りに任せアナザーファイズに直撃し爆発するが立ち上がっていた！
ジオウ「な！」
アナザーファイズ「お前は弱い！」
アナザーファイズのポインターを喰らい動けなくなってしまった！
ジオウ「これは！なん！「はぁぁぁぁ！」！、うわぁぁぁぁぁ！」
ジオウから変身が解けてしまい気絶をしてしまった祥平はまだアナザーファイズに狙われる！
森夏「高田君！」
そのまま、また同じ事をし蹴りで止めをさそうとしたが
ゲイツ「はぁ！」
アナザーファイズ「ぐぁ！」
森夏「明光院君！「ジオウを連れて逃げろ！」うん！」
ゲイツはまたジオウを助けたがアナザーファイズをどう倒すかを考えていた。
ゲイツ「ふっ！はっ！」
パンチとキックでダメージは与えられるがやはり余り効果はなかったと気付く
ゲイツ「こいつは厄介だな、ん？これはビルドライドウォッチ？……少し借りるぞ！」
『ビルド！』
ゲイツはビルドライドウォッチを入れてアーマータイムをする！
『ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
仮面ライダーゲイツビルドアーマーになりアナザーファイズに攻撃を続ける！
ゲイツ「はぁ！」
右手のドリルで攻撃をし怯ます事は出来ていた。
アナザーファイズ「ぐ！撤退だ！」
……逃げられたか、俺はひとまずジオウの所に向かう。

駅付近のベンチ
祥平「……「おい大丈夫なのか？」うっさい…」
こいつ昨日とは何か違う？
ゲイツ「取り敢えずこいつが落ちてたぞ」
俺はビルドライドウォッチを返すが
祥平「悪いけどゲイツが持っててくれ……「ジオウ何があったんだ本当に？」だからうっさいし答えない…」
森夏「ねぇ、話してよ」
もう黙ってくれよ…今は誰とも関わりたくないんだよ！
祥平「もうほっといてくれよ！」
ジオウは走って何処かに向かって走って行くが一体何があったと言うんだ？
森夏「……高田君…」
もう悩んでいられない……決めた！
ＥＮＤ
ウォズ「我が魔王は親に出会い、精神が落ち着かないで何処かに走って行く。そして我が魔王はその過去に向き合えるのか？」

第7話向き合う覚悟！後編／５５５

あれから1週間が過ぎた。高田もあれから学校に来なくなっていた。

勇太「はぁ…大丈夫なんだよな？「勇太…」ん？どうした六花？」

六花「大丈夫だ。魔王はいや高田は絶対に戻って来る運命だ！」

どういう理屈なんだよ、だけど確かに俺達が戻って来るのを信じていればきっと！

高田家

祥平「……」

俺は……凡生谷さん達に八つ当たりしても……くっそ！あの野郎！……「何をうじうじしている？」！、なんだよ、ゲイツか…

祥平「なに？「お前はそうやっててうじうじする気か？」喧嘩売ってんのか？」

こいつやっぱりいつもと違うのは珍しいな、だったら…

ゲイツ「確かにお前をここで倒せば、未来は変わる」

祥平「だから何？さっさとやれば「だがな！」いて！何すんだよ！」いきなり胸ぐら掴まれた。俺ってどんだけそんな態勢あるの？

ゲイツ「お前はあの時、あいつらの前で言った筈だろ！優しい魔王になりたいと！そして困った奴等を全て守れる魔王になると！それは嘘だったのか！」

！……そうだ、俺はそう言ったのに忘れてた。自分が辛い事を他人に八つ当たりしても何も解決なんて……！

祥平「ゲイツありがとう……」

俺は走って極東魔術昼寝結社の夏の部室に向かう

ゲイツ「ふん、世話が焼ける魔王だな……」

極東魔術昼寝結社の夏の部室

祥平「確か……「来たか疫病神」あんたが何で此処を知ってる？」

俺は家族に捨てられたから知らないと思っていたのだがこいつは此処にいた。

祥平の父親「お前を倒して娘が喜ぶんだ「そんなの間違ってる！」間

違ってるだと？」
俺は言いたい事を言う！
祥平「姉さんはそんな事を願ってない！俺を殺したとしても姉さんは喜ばない！それに姉さんはとても悲しむ！「お前に何がわかる！」分からない！だけど今、やろうとしてるのは間違ってる！」
こいつだけは許せん！絶対に殺す！
祥平の父親「お前を殺すと言っただろ！うぉぉぉぉ！」
『ファイズ！』
な！アナザーファイズ！こいつがかよ……仕方ない…目を覚ませる！
『ジオウ！』
祥平「……俺はなる！優しい魔王に！そして困ってる人達を助けられるそんな魔王に！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
俺はジオウになりアナザーファイズとのぶつかりが始まる！
ジオウ「はぁ！」
パンチをするが弾かれそのまま蹴りを喰らう！
アナザーファイズ「この程度か！」
俺はパンチを喰らい外に追い出されるがこれで大丈夫だ！ぐあ！
ジオウ「ぐ！この程度で俺は倒れない！そんなんじゃ皆を守れない！」
アナザーファイズ「まだそんな下らない夢を見てるのか！」
そのままパンチを喰らうが俺の夢は下らないさ！だけど！
ジオウ「俺の夢を笑う奴もいた！下らないとも！だけど！」
俺は富樫君、小鳥遊さん、、凸守さん、凡生谷さん、ウォズそしてゲイツはそんな俺の夢を馬鹿にはしてたけど！
ジオウ「あいつらは俺の夢を笑ったりはしなかった！だから俺は魔王をやめない！」
『エグゼイド！アーマータイム！レベルアップ！エグゼーイド！』
ジオウ「この力も俺に託してくれた物だ！支配する物じゃない！守る力だ！」

腕のガシャコンブレイカーでアナザーファイズに攻撃をしダメージはあるが今、倒す方法がない！
ジオウ「どうすれば良いんだ？」
アナザーファイズ「お前じゃ無駄なんだよ！」
ぐっ！この蹴りはやばいな！早くなんとかしないと！ぐぁ！
ジオウ「なんとか……ん？永夢さんから貰ったもう1つのウォッチ……だったら使って見るか！」
『ムテキゲーマー！アーマータイム！黄金のエグゼイド！ハイパームテキ！ハイパームテキー！』
肩にはハイパームテキガシャットで顔の所の文字はムテキゲーマーと書かれている。身体のパーツはムテキゲーマーのアーマーで頭もムテキゲーマーが取り付けられている。
ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来にしろしめす時の王者。その名は仮面ライダージオウムテキゲーマーアーマー。また1つライダーの力を継承した瞬間」
ジオウ「ノーコンティニューで！クリアやれる気がする！はぁ！」
俺はパンチとキックを喰らわせるが倒せないのは分かるがなんとか耐えないと！
ジオウ「はぁ！」
ムテキゲーマーと同じ消え方し、後ろに現れてパンチとキックの連続で動きを止める！
アナザーファイズ「くっそぉぉぉ！」
ジオウ「確かにあんたの言う通りだ！俺は疫病神だ！だが！そんな俺を受け入れてくれたのは皆なんだ！俺は今が最高に幸せなんだ！」
『フィニッシュタイム！エグゼイド！』
ドライバーを回転させそのままジャンプをする！
『ハイパークリティカル！タイムブレーク！』
ジオウ「はぁぁぁぁ！」
アナザーファイズに直撃し元の人間に戻った！
ジオウ「取り敢えずはこれで終わったのか？」
だがそう思ったら時間は止まった。

ウール「駄目だよ、こんな所で終わっちゃ駄目だよ？」
『ファイズ！』
祥平の父親「うあああああ！」
身体ライドウォッチなのか？あれは？それをまた入れアナザーファイズになった！
ジオウ「なんだと！ぐ！」
さっきよりパワーが上がってるのか！
アナザーファイズ「ふん！」
強力なパンチを喰らい校舎の中まで飛ばされた！
ジオウ「ぐ！」
なんだ、今の音！俺や皆はそれを見に来たら高田がいた！
六花「魔王！大丈夫か！」
六花が高田を心配するがてかアナザーライダー！
ジオウ「小鳥遊さん！離れてて！危ないから！「うおおおお！」まだ！来る！だったら！」
『ジカンギレード！ケン！』
何とか生徒に危害を加えない用にしないと！けど難しい！
ジオウ「皆！避難をしてくれ！「殺すーー！」させないぞ！」
防ぎながら避難をするまで何とか耐えるがいつまで持つのか？
アナザーファイズ「殺す！」
もう頭がそれしか考えてないのかよ！「高田君！」凡生谷さん！
ジオウ「危ないから避難してくれ！「これを！」え？」
凡生谷さんはライドウォッチを投げ渡してくれたがこれは？
ゲイツ「そいつはカイザライドウォッチだ！」
カイザ？大丈夫なのか？分からないがやってやる！
ジオウ「良しなら！使わせて貰うぜ！」
『カイザ！アーマータイム！コンプリート！カイザー！』
ゲイツ「変身！」
『アーマータイム！コンプリート！ファイズー！』
２人が新たなアーマーになりそのままキックをする！
アナザーファイズ「貴様達ーー！」

めっちゃうるさいな！ん？ゲイツ？
ゲイツ「ジオウ……行けるか？」
ジオウ「ああ！当たり前だよ！」
２人は拳を突き上げそのままそれぞれ武器でアナザーファイズにダメージを与えて行く！
ゲイツ「今度はこれで行くぞ！」
ジオウ「ＯＫ！」
２人『はぁぁぁぁ！』
そのまま同時のキックでアナザーファイズを蹴り飛ばし、ウォッチのスイッチを押す！
『フィニッシュタイム！ファイズ！』
『フィニッシュタイム！カイザ！』
そしてドライバーを回転をさせジャンプをする！
『エクシード！タイムバースト！』
『エクシード！タイムブレーク！』
２人『はぁぁぁぁ！』
アナザーファイズ「ぐ！ぐあああああ！」
遂にアナザーファイズを倒し、元の人間に戻るがジオウから変身を解いた祥平はそのまま後ろを振り向く。
祥平「もうあんたは俺に関わる事はないと思うが母さんと仲良く暮らせよ。……父さん…」
俺はそのまま校舎を出ていく……
ゲイツ「おい、凡生谷、ジオウの所に行ってやれ」
森夏「え？でも「こいつは俺に任せろ」分かったわ…」
私は明光院君に言われ、高田君の後を追い掛ける。
河川敷
祥平「……」
良い風だな……ん？凡生谷さんがこっちに来てる？
森夏「ふぅ、追い付いた……ねぇ、さっきの人ってお父さんだったんだよね？どうしてそんな呆気ないの？」
祥平「……うん、凡生谷さんには話しても良いかもな、実は……」

俺の過去の事を話したが中学の時に来なくなった理由は納得してくれた。
森夏「……」
祥平「だから、今更だけど……俺と関わら、に、凡生谷さん！」
いきなり俺の顔に凡生谷さんの胸が！てか良し良しは「今だけは甘えなさい……」凡生谷さん？
森夏「昔からそんな状態だったなんて辛かったんだよね？うん……今だけはあんたの愚痴は全て聞いて上げるわ……」
優しく撫でられて俺はもう限界だった。
祥平「凡生……谷……さん……ごめん、今だけ……あんたの…好意……に甘……える……辛かったよ！寂しかった！俺が何をしたんだよ！父親に疫病神って言われて捨てられて！なんで！なんで！ああああああああ！」ポロポロ
そして数時間後
森夏「落ち着いた？」
祥平「面目無い「けどこれからは何かあったら頼りなさいよ！」あ、ああ、そうするよ」
良かった、高田君が打ち解けてくれて……あれ？私、確か……！／／／
祥平「どうした？顔が赤いけど？「な！なんでもない！／／／」なら良いけど？」
あーー！なんかさっきのが凄く恥ずかしくなって来た！うーーー！けど……私は彼の側で見守りたい……うん！富樫君達もこんな気持ちだったのね……怖いけど、いつまでもうじうじ出来ない！
森夏「た！高田君！」
祥平「は！はい！」
え？なにいきなり俺、怒られるのか？え？……もしかしてさっきの事か!?
森夏「高田君の事が好きです！付き合って下さい！」
だよね～そりゃあ怒る……え？
祥平「え？ごめん、なんて言ったの？「だから……好きなの！付き

合ってって言ったの！」……え！えええええ！」
嘘でしょ……凡生谷さんが俺を好きだと！
祥平「ほ、本気か？「だったら言わないわよ！さっさと答えてよ！」
それは悪かった……うん、よろしくな！」
そんな笑顔を見てよろしくなって言われた瞬間、私は涙を流していたけど心から凄く喜んでいた。
森夏「こちらこそ！」
???
ウォズ「我が魔王とモリサマー君、おめでとう。そして我が魔王は仮面ライダーカイザの力を奪い着々と成長をしていくのだが……そんな！こんな事が起きるのか！」
ＥＮＤ

第８話相手の力を奪って継承する!?その名は仮面ライダーロスト！

朝

祥平「ん？もう朝か？」

そうか昨日から凡生谷さんと付き合ったんだもんな？……なんか緊張してきたな、今まで誰とも付き合った事ないからどうすれば良いの！

祥平「でも考えても仕方ないな、飯食って学校行かないとな。」

俺はそう思い、準備して着替えるんだけど……なんかライドウォッチが１つ増えてるんだけど？

祥平「ん？こんなライドウォッチあったっけ？……おっと！急がないと！」

俺はパン１枚を咥えて家を出るのだが

祥平「乗り遅れた！……なんか前にもあったなこんな感じで「あれ高田、おはよう」富樫君、おはよう」

勇太「もしかして」

祥平「乗り遅れた」

２人『ははははは！』

俺達は大笑いした。最初の時もそんな感じだったからな。

勇太「いやぁ、懐かしいな、高田と最初に会った時の事を」

祥平「俺もだよ。まさかこんな久し振りにデジャブを感じるなんてな」

俺達がそう喋っていたらこっちに小鳥遊さんと同じ制服着ている子が近付いて来た。

???「えーとその制服もしかして同じ学校の人ですか？」

答えようとしたらいきなり六花がひょっこり出てきた。

六花「いかにも！」

勇太「お前いつの間に！」

六花「勇太を驚かせようと思って早く来ていた」ドヤァ

うわぁ～分かりやすいどや顔だな、小鳥遊さんは……何か本当に懐かしく感じるな。
祥平「あれ？凡生谷さんも乗り遅れたの？」
俺は凡生谷さんだと思って聞くが
???「え？違いますよ！私は今日転校するのでその凡生谷さんって方とは違いますよ？」
祥平「え？ごめんなさい！凄い似てたから凡生谷さんと間違えるなんて後で知られたら怒られる。……でもやっぱり懐かしいな、俺も前まで転校生だったんだよね」
まぁ、それで色々あったけどね。「そりゃあ、色々あったもんねぇ♪」え？……凡生谷！
森夏「何してたの♪」
祥平「ねぇ、凡生谷さん、良い笑顔だけど怖いですよ？ほーら、スマイルスマイル……「そうねぇ♪じゃあ、ナスでもどうかしら♪」止めて下さい！死んじゃう！そんなの食べたら！」
手に持ってる紫色の物体はしまってくれないかなー♪
森夏「問答無用！」
あ！やばい！逃げるぞ！
祥平「いやだーー！」
俺は全速前進しようとしたが掴まった。
???「あの…大丈夫ですか？」
心配するのは良いけど、凄い殺気があるんだよな。今後は気を付けようっと
森夏「あ、そうだ、富樫君」
勇太「なんだ？「私と高田君、昨日で付き合いました！」へぇ、おめでとう……は？付き合いました？は？え？えええええ！」
そりゃあ、驚くよな、てか恥ずかしいから止めて！
???「え？高田……！、見付けたわ！遂に！」
え？いきなり変わったんだけど！
???「貴方を探し続けて６年……やっとだわ！」
『ジクウドライバー！』

祥平「え？」
ジクウドライバーを着けてウォッチを取り出して来たよ？これってまさか？
『ロスト！』
???「変…身♪」
『ライダータイム！仮面ライダーロスト！』
六花「また闇の者が現れた！」
嘘でしょ！俺はどんだけ命狙われてんだよ！てか黒いジオウ！どういう事なの！
祥平「もう！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
ロスト「やっとよ！やっと……魔王の身体を隅々まで調べさせてね♪」
それだけはご勘弁を！
ジオウ「冗談じゃねぇよ！「そうよ！」そうだ！凡生谷さん言ってやれ！」
俺は信じてる！こんな変態見たいな奴にどなる事を！
森夏「彼の身体は私が隅々まで調べるんだから！」
いや！待て！違うそうじゃない！それは間違ってる！うぉっと！
ロスト「悪いけど……手に入れたくなったのよ♪このまま何処まで持つのかしらね♪」
『ジカンギレード！ケン！』
俺はジカンギレードで防ぐがこいつ思った以上に強い！なら！
『カイザ！アーマータイム！コンプリート！カイザー！』
ジオウ「はぁ！」
ジカンギレードを逆さに持って攻撃するがやっぱり防がれるな！くそ！
ロスト「へぇ？カイザね？なーら！」
『マグネットステイツ！アーマータイム！ＮＳ！マグネット！』
肩にはＮＳマグフォンがありアーマーもマグネットステイツの色に変わっている。腕は何か磁石のＵを半分にして両腕につけてる。

顔にはカタカナでマグネットと書いてある。
なんだあれ？うぉっ！引き寄せられてる！
ロスト「磁石の力で貴方をそのまま引き寄せれば良いだけなんだよね♪」
くっ！このままじゃ！
ジオウ「こ！の！」
『ジュウ！フィニッシュタイム！カイザ！スレスレシューティング！』
ロスト、目掛けて撃ちなんとか解放された！
ジオウ「危なかった！「そんな抵抗してくれるなら逆に後でが楽しみよ♪」まじかよ！気持ち悪い！」
ならとことんやれる所までやってやるよ！
ジオウ「今度はこいだ！……あれ？ビルドウォッチがない！あれ！……あ！そうだった！ゲイツが持ったままだった！」
それならこのまま、えい♪
ジオウ「うぉ！また磁力でか！」
どうしよう！このままじゃ！
『フィニッシュタイム！ゲイツギワギワシューティング！』
ロスト「く！何者！」
そこに現れたのはゲイツだった！
ゲイツ「ジオウ無事か？」
ジオウ「ゲイツ、ありがとう」
俺はお礼を言うけど無視したままビルドウォッチを投げて来た。
ゲイツ「礼などいらんぞ？俺がお前を倒すんだからな！」
ですよねぇ～だけど助かったのは間違いないからな！
ロスト「仮面ライダーゲイツ……流石に分が悪いから手を引いて上げるわ！だけど覚えときなさい！ジオウは私が手に入れるから♪」
そのまま変身を解くが嫌な奴に目をつけられたな、てか変態だろ！
あれは！
勇太「取り敢えず電車に乗ろう、遅刻は不味いし」
俺達はあの女を警戒しながら電車に乗り学校にも行くが特に何も

なかった。いや、敷いて言うなら俺達と同じ2―4のクラスに転校生だった。因みにゲイツもだ。
部室
祥平「はぁ、どうすっか……」
森夏「まぁ、あの子は多分やばいわよね、だけど絶対に渡さない。それに……」
ん？なんからしくないな？
祥平「どうしたの？」
凡生谷は顔を赤くして俺の隣に座って言う。
森夏「嬉しいの…」
嬉しい？いや確かに付き合ってるから一緒にいられるのは嬉しいが？
森夏「本当はさ、小鳥遊さんが羨ましかったの」
祥平「小鳥遊さんが羨ましかった？」
意外だな、そんな事、言うなんて
森夏「富樫君と付き合ってて、見ててさ、めっちゃ悔しかったの。中二病を止めた私は頑張ったけどさ……小鳥遊さんはそんなの関係なく、富樫君と付き合うのを見てたらさ、私もやっぱり憧れてたんだよね。それでまさか高田君と付き合うとは思わなかったのよ。」
凡生谷も本当は寂しかったのかな？
祥平「うん、確かにな、あの時の凡生谷……いやもう名字で呼ぶのはここまでにしよう。……し、森夏はさあの時と変わっててびっくりしたよ。」
う…確かに昔の私はあれだけど、今はそれを受け入れる人が私にも出来たのは嬉しいと喜んでばかりではないわ！私も高田君の支えにならないと！
祥平「そう言えば富樫君と小鳥遊さんがまだ来てないけど？「2人は来ないよー♪」！、お前！」
朝も見たまんま森夏と同じ姿で驚くが
???「お前じゃないよ？私は天道サユリだよ？朝も自己紹介したでしょ♪」

こいつの笑顔は怪しさがマックスなんだよな、それに嫌な感じもする。
祥平「それで何か用があるの？」
いきなりこっちに近付き話すが髪を今、縛るのかい。
サユリ「そう！それでさぁ～身体の隅々「駄目よ！」おっと……へぇ？やっぱり付き合ってるんだね♪けどね、魔王…オーマジオウがどうしても必要だから諦めないから！今日は勘弁して上げるよ♪……次からないけどね…それと君は見た時から可愛いから絶対に手に入れるから……バイバーイ！」
そのまま部室を出て行き、俺は少し恐怖を感じた。あいつ、天道さんに何されるのか分からない、森夏？
森夏「大丈夫、私が守るから……絶対に…」
祥平「……ありがとう。俺も絶対に守る…」
俺達は互いに手を掴んだまま静かに部室で過ごした。
???
ウォズ「いきなり現れた、仮面ライダーロスト、天道サユリ。彼女の力はまだ分からないままだが、我が魔王を狙っているのだがこの先、果たして我が魔王は「そろそろ仕掛けるからね♪」！、君は！いや何故いるのだ！」
ＥＮＤ

第9話もう1人の王！

自室

さてと…このウォッチを起動してみるか。

祥平「えい！……あれ？おっかしいな？使えないのか？それに今までのウォッチと形が違うしな？」

多分、使える日がある筈だ！きっと……うん多分、それに今日は学校休み出しのんびりするか。と思ったらインターホンの音？誰だ？

祥平「はーい！今出まーす！」

俺は玄関のちっちゃい窓から見るけど、あり？森夏だ？私服、可愛いんだが……（凡生谷の私服は始めて富樫勇太家に行った時の私服になります。）

祥平「ほい？どしたの？「なんか喋り方おかしくない？」え？……ご！ごめん！凄い久し振りに平和だなぁ～と思ってたらつい、あはは」

そう言えば高田君が転校してきてから色々あったもんね、まぁ、今日はその事に関してで来たのと私が一緒にいたいだけだから！今日こそ！

祥平「えーと、それじゃあ、なにする？」

森夏「それだったら昔の……」

一瞬固まってるけど昔の事だよね？逆に止めた方が

森夏「中学の時の話しでもする！あはははは！」

なんか変なテンションになってるけど森夏大丈夫なの！

祥平「一回落ち着いて！ね！ほら水！」

そ！そうよね！何をあああ慌ててるのよ！「あ！ごめん、間違えて俺の飲みかけ渡しちゃった！」ぶぅーーーーー！

祥平「うわぁーー！大丈夫！タオル持って来るから！」

俺は急いでタオルを取りに行った。

森夏「～～～～！、いきなり失敗したわ……」

いいえ！凡生谷森夏！落ち着きなさい！私は今日！……あれよね！高田君の唇……！／／／意識するとやっぱり恥ずかしいわ！

祥平「……」
どうしよう、入ろうとしたけど森夏がめっちゃ凄い動いて逆に入りにくいんだけど……いやでも！俺も男だ！森夏に迷惑掛けないように！
高田君に迷惑掛けないように！
まずは手を繋ぐ事から！
祥平「良し……おーい、持って来たよ……」
俺は森夏にタオルを渡す。
森夏「あ、ありがとう……」
どうしよう、凄く緊張するわ！富樫君と小鳥遊さんの気持ちが少し分かった気がするかもね…
祥平「後はふくからちょっと避けて貰えると助かにゅ……」
……うわぁぁぁぁ！死にてぇぇぇぇぇ！なんだよ！今の！にゅってなんなの！馬鹿なの！死ぬの！
森夏「え？にゅ？……」
どうしよう……めっちゃ抱き付きたい！なにこれ！可愛い…撫でたいなぁ……
祥平「ん……森夏？えーと……／／／」ビクッ
うわぁ～～なんかこのまま撫でてたいかも……と言うか、我慢出来ない！抱き付きたい！
祥平「あの森夏さん？何でしょうか？「もう抱き付きたいけど良い？」え？……マジ？」
森夏「マジよ！」
えー、嘘でしょ？これ多分、あかん奴になるよ！いきなり森夏のキャラ崩壊し過ぎだ！て言うかこの作品にもキャラ崩壊は書いてあったか！いや流石にメタイ！てかまじでか……
森夏「えい！」
祥平「え？ちょっと！バランスが！うわ！」
２人は思い切り転けたが凡生谷が祥平を押し倒してる状態だった。
森夏「いたた、ごめん！だいじょ……」
これはなに？逆の押し倒し！……チャンスなのかな？……

祥平「いてて、森夏は怪我…な…い……」
どうしよう……これ俺の人生の中でもこれはやばい。心臓がめっちゃ破裂しそう、けど……怖いな…
森夏「！、どうしたの？震えてるけど？「ごめん、ちょっと怖くなって」それなら退く、きゃ！」
引っ張られる用に抱き付かれた！え！えええええ！どうしたのよ！らしくないわよ！
祥平「ちょっとこのままにさせて……」
まだ震えてる……そうよね、親に捨てられて平気な訳がないわよね……
森夏「……うん、分かったわ。存分に甘えなさい。」
俺は森夏に抱き付いたまま数時間経過した。
祥平「～～～～／／／」
森夏「もう大丈夫？「なんかまたやっちまった…」良いのよ、それにた……祥平だって親に捨てられて辛かったんでしょ？」
う、痛い所だけど、確かに辛かったな。あの時はガチで死のうとも考えたもんな。
森夏「もう1人で悩まないで私や富樫君、そして皆に相談して！いつでも相談は乗るからね！」
祥平「森夏……本当にありがとう。ん？電話？はい高田です。富樫君どうした？うん…うん…え！アナザーライダーが！分かった！準備したら行く！」
アナザーライダーが現れるとはな！良し！行くか！
森夏「ちょっと！ライドウォッチ忘れてるわよ！」
2～3個森夏が投げて渡してくれた！
祥平「おう！助かるよ……んじゃ、おっと！お前は誰だ！」
いきなり玄関前にいたのは門矢司と同じ私服で首からカメラを下げているが防止で顔は見えない。
???「私？私は通りすがりの仮面ライダーよ、覚えなさい。変身」
『カメンライド！ディケイド！』
マゼンダのバックルって事は前にアナザーエグゼイドの時の仮面

ライダー！
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
ライドブッガーとジカンギレードがぶつかり合い俺は踏ん張ってるがやはり強い！
ジオウ「お前の目的はなんなんだ！「それは自分で見付けてみなさい！」ぐあ！くそ！早くしないと富樫君達が！」
『ビルド！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
攻撃するが避けられてしまう！
ディケイド「は！」
そして大きくジャンプしキックをしてくる！
ジオウ「あぐ！」
森夏「祥平！「来ちゃ駄目だ！」でも！」
ジオウ「心配するな、俺は森夏の前からは二度と消えないって言ったんだ！だから負ける訳にはもういかないんだ！」
祥平……
ディケイド「だったら徹底的に叩きのめす！」
『カメンライド！響鬼！』
な！また違う仮面ライダーに！
ディケイド響鬼「それじゃあ行くよ！」
くっ！なんだ、その武器！炎が飛んで来るよ！
ジオウ「あっつ！にゃろー！」
『カイザ！アーマータイム！コンプリート！カイザー！』
ジカンギレードを逆さに持って炎は弾いて斬ろうとしたが避けられた！
ディケイド響鬼「おしまいだよ！」
『ファイナルアタックライド！ヒヒヒ響鬼！』
うぉ！なんだこれ動けない！
ディケイド響鬼「それじゃあ……ふん！」
うぐ！やば！リズム良く叩かれ最後の一撃まで喰らう！

ジオウ「ぐ！うわぁぁぁぁ！」
爆発の衝撃で吹っ飛び変身が解けてしまう。
森夏「祥平！」
祥平「やっぱりつ！強い！」
そしてマゼンダの戦士に姿を変えて止めをさすのかと思ったがウォッチ1つを持って聞いて来た。
ディケイド「このウォッチがなんなのか、試したの？」
祥平「かえ！せ！」
俺は立とうとしたいがダメージがまだ残ってて上手く立てなかった。
ディケイド「こいつは貰うわ、じゃあね♪」
そのまま何かの壁に入って消えた！……
祥平「強かったな……けど無事が一番だな「大丈夫？」森夏、うん、大丈夫だよ。それに早く富樫君達の所に行かないとな！」
なんか、無茶しなければ良いんだけど……
一方富樫達の方ではゲイツがアナザーライダーの相手になって戦っている！
ゲイツ「はぁ！」
アナザー???「ぐぁ！無駄だ！私は！不死身だぁぁぁぁ！」
こいつ！流石に厄介だな、試しに使うとするか。
『ゲンム！アーマータイム！レベルアップ！ゲンムー！』
六花「勇太、あれ魔王が使っていたエグゼイドに似ている！」
勇太「確かに似てるがこれであのアナザーライダーを倒す事が出来る筈だ！」
と誰もがそれを思っていた中、祥平と森夏がようやく来た。
祥平「ごめん！遅れた！「今、ゲイツが何とか倒せそうだ。」そうかそれならこの事件はあっという間だな。」
本当にそうなのかしら？それに今、明光院君のあれって確かエグゼイドに似てるけど、紫色？それに腕にはあのハンマーがついてない……もしかして違うライダーとか？
『フィニッシュタイム！ゲンム！クリティカルタイムバースト！』

アナザーライダーの回りを高速に移動して最大火力の一撃でアナザーライダーを倒した！
勇太「やった！」
富樫君は喜ぶが俺はその光景に驚いた！
祥平「な！復活した！」
アナザー???「私は不死身の王だ！貴様じゃ倒せないのだよ！ぶぅーん！」
アナザー???はゲイツに反撃をしていく！
森夏「もしかして明光院君のあれじゃないって事？もしかして別のライダーの力が必要？」
森夏はそう言うが実際に今までもそんな感じでアナザーライダーを倒して来たからもしかしたらそうなのかもしれない。だがどうやってだ？
祥平「取り敢えず！ゲイツの助けに入る！ぐ！」
さっきの怪我がまだ痛むがそんな事言ってられるか！
『ジオウ！エグゼイド！』
祥平「変身！」
『アーマータイム！レベルアップ！エグゼイード！』
ジオウ「はぁ！」ヒット
腕のガシャコンブレイカーで叩き吹っ飛ばす！
アナザー???「が！」
ゲイツ「ジオウ！」
ジオウ「ちょっと遅くなった！んじゃ行きますか！」
２人でアナザー???に攻撃し倒すのだがまた復活をした！
ジオウ「また復活した！」
ゲイツ「なら1度撤退だ。今のままではこちらが不利になる。」
ゲイツの言う通りだ。今の俺達では倒せない事が分かったがそのライドウォッチも探さないといけないもんな。
ゲイツ「ふたてに別れて後で合流だ！「了解！」はっ！」
ふたてに別れて撤退するがアナザー???は追い掛けようとしたが何処かに走っていった。

森夏「何処かに行った……「逃げた?」うんもう良いわよ、2人とも!」
草むらから変身解除した、2人が出てきたのだが
ゲイツ「あいつはどうやれば……」
祥平「俺さ、あのアナザーライダーの人の所に行ってみようと思う。」
いきなりの発言でゲイツが怒り始めた。
ゲイツ「どういうつもりだ!「その人がどんな王様なのか勉強するんだよ。」貴様、オーマジオウを目指すって事で良いんだな?」
祥平「ちょっと待って!そう言う訳ではないよ!「問答無用だ!」ちょっ!」
ゲイツのパンチやキックが来るが俺はまだ怪我を痛む。くっそ!もう!
祥平「話し合いで分かって欲しかったんだけどな、仕方ないか、変身!」
ゲイツ「変身!」
2人は変身しゲイツが攻撃するがジオウは防御する!
ジオウ「ゲイツ!止めるんだ!俺達が戦う理由はないだろ!「俺には元々あるんだ!お前をオーマジオウにしない為に殺しに来たと!」!、だったら容赦はしない」
『ビルド!アーマータイム!ベストマッチ!ビールドー!』
ビルドアーマーになった俺は今だけは少し鬼になるぞ、ゲイツ
ゲイツ「はぁ!は!だぁ!」
パンチやキックをするがジオウに全くダメージが入ってるのか分からなかった。
ジオウ「は!」
ドリルの攻撃でゲイツを吹っ飛ばすが……
ジオウ「勝利の法則は決まった……気がする」
『フィニッシュタイム!ビルド!』
ジオウ「は!」
『ボルテック!タイムブレーク!』

ゲイツ「ぐぁぁぁ！」
そのままゲイツに止めをさし、ゲイツは変身が解けて倒れる。
ゲイツ「がぁ！あ！」
???『ゲイツ！』
『タイムマジーン！』
白黒の乗り物がゲイツを連れてどっかに行ってしまう……
祥平「……「祥平大丈夫？」森夏、うんなんとか……」
勇太「取り敢えず、その怪我を治療が先だな。」
俺はそのまま家に森夏と戻る。
???
ウォズ「我が魔王はアナザーオーズ、壇黎斗王がこの時代の王と名乗り、我が魔王はそこで王の勉強をすると言ったが果たして次なるレジェンドに会うのは誰なのか？」
祥平達の帰り道
祥平「あれ？誰だろう？「あ、君が永夢君が言ってた人かな？」え？永夢さんの知り合い？」
???「俺は火野映司。これを渡しに来たんだ。」
え？ライドウォッチ！しかも２つ！
映司「君なら任せられそうだ……だからその力を間違った方で使わないで…」
そう言ってライドウォッチを渡され、そのまま行ってしまった。力の使い方か……
ＥＮＤ

第１０話力と王様の意味／タカ！・トラ！・バッタ！・２０１０

高田家
祥平「力の使い方を間違えるなか……」
森夏「いきなり現れてなんなの！あの人！」
いや怒る所、そこじゃない気がする。けど一体何かを伝えたかったのか、分からない。それよりアナザーオーズになった人って何者なんだ？
森夏「取り敢えず！その怪我が先よ！」
なんか森夏が怖いよ……
祥平「森夏、ちょっと落ち着いて、ね？」
う！頭を撫でるなんて卑怯よ……もう…
そしてそのまま治療をして、改めて向かう。
ダンファウンデンションの外
祥平「富樫君達から聞いたが此処なんだよな？「本当に１人で行くの？」うん、森夏は俺の帰りを待ってて欲しい。俺はこの件からはどうしてもあの王様が何したいのか１つ掴みたいんだ。」
森夏「……止める理由は無さそうね。なら頑張って「させないよ♪」うわ、なんでいるの！」
こいつなんでいるんだ！
サユリ「悪いけど仮面ライダーオーズのウォッチを奪うわ♪変…身♪」
『ライダータイム！仮面ライダーロスト！ジカンデスサイズ！カーマー！』
緑色のデカイ鎌を持って攻撃してくるが森夏を守る用に防ぐ！
祥平「森夏！下がってて！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
サユリの攻撃を防ぐが鎌の攻撃が普通にいってぇ！なら！離れての攻撃だ！

『ジュウ!・タイムチャージ!・ゼロ!・スレスレ撃ち!』
連続で撃つのだがめっちゃ走って来る!・まじかよ!
ジオウ「ぐあ!」
鎌の振りが追い付かないまま変身解除まで追い込まれた!
森夏「祥平!」
このままじゃ祥平がやられる!
???「はぁ!」
いきなりローブを被った人物がロストを蹴る!
ロスト「く!何者!」
そのまま喋り始めたが何者なんだ?
???「私?私は過去に死んだと言われてたけど、生きて来た、けどある日、弟が……魔王、仮面ライダージオウになり私は止めに止めようとしたけど……駄目だった。だけど……本当に目指そうとしてるならもう……邪魔をするのを止めた。」
え?え?そ!そんな馬鹿な……そんな筈ない!なのになんで!
???「今までごめんね、祥平、高田優美(たかだゆみ)。遅くなってごめんね、ただいま♪」
その黒髪のロングヘアーで笑顔を見たら俺は無意識に姉さんに抱き付いた!
祥平「姉さん……姉さん……!、姉さん!良かった!生きてたんだ!本当に!あああああ!」ポロポロ
こんなに大きくなっても変わらないわね……それでこの仮面ライダーが弟に攻撃とは……本気でやるかな。
優美「祥平?もう大丈夫?「うん、何とか……」それなら一緒に戦ってくれる?」
祥平「え?でも「お姉ちゃん命令!」は!はい!」
俺と姉さんはドライバーを付ける。
『ジオウ!』
『カメンライド…』
2人『変身!』
『ライダータイム!仮面ライダージオウ!』

『ディケイド！』
姉弟で仮面ライダーに変身をし、武器を互いに持ってロストに反撃を開始！
ジオウ「はぁ！」
やっぱり防がれたか！だけど！
ロスト「甘いよ？「そっちがね！」く！」
やばい、ジオウだけならまだしも！ディケイドがいるとめんどくさい！
ディケイド「祥平！勝利の法則で行くよ！」
成る程なら！ビルドだな！
『ビルド！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
『カメンライド！ビルド！鋼のムーンサルト！ラビットタンク！』
これはかなり厄介になりそう！
ディケイドビルド「はぁ！」
ライドブッガーソードモードでつつく用に攻撃し、俺が後ろからドリルで追い討ちをかける！
ロスト「ぐ！オーズライドウォッチを渡しなさい！」
ジオウ「渡すか！これは俺に託してくれた人なんだ！力を無理やり奪うなんて間違ってる！」
祥平……あの時より覚悟が変わったね……それなら貴方は優しい魔王になれるわ。
ディケイドビルド「それなら今度は同時に行くわよ！」
ジオウ「分かった！」
２人で同時に責めロストは押されていく。
森夏「凄い！これなら！「お前は私の妃にする！」え？」
いきなり現れたのはアナザーオーズだった！
ジオウ「はぁ！「きゃあああ！」！、森夏！」
やばい油断した！森夏を助けないと！
ディケイドビルド「成る程ね……祥平行きなさい！私がこいつの相手をするから！」
姉さん…ありがとう！

ジオウ「急がないと！「ジオウ！逃がさんぞ！」げ！ゲイツ！」
ゲイツ「今度は覚悟していろ！変身！」
『ライダータイム！仮面ライダーゲイツ！アーマータイム！レベルアップ！ゲンムー！』
ちょっ！まじかよ！く！早く森夏を助けないといけないのに！
ジオウ「ゲイツ！お願いだから止めてくれ！「ふん！命乞いか！」ああ！そうだ！アナザーオーズに森夏がさらわれたんだ！だから頼む！俺は森夏を助けないといけないんだ！」
なに？凡生谷が？それにこいつ土下座までして……
ゲイツ「仕方ない、今回だけは止めてやろう……だが次はないぞ？」
ジオウ「ゲイツ……ありがとう！」
俺は走ってアナザーオーズのダンファウンデンションの中に入って行く！待ってろ森夏！絶対に助けるから！
最上階
アナザーオーズ「君みたいな強気がありそうな女は見て気に入ったさ、さあ！私の「お断り！」なに？」
森夏「そんな自分勝手で相手の事をしりもしないで馬鹿にする奴はお断りよ！」
なら？無理矢理にでも！「はぁ！」ぐあ！
アナザーオーズ「誰だ！」
そこに現れたのは私が好きな人が助けに来てくれた。
ジオウ「大丈夫か！森夏！…おっと……もう大丈夫だよ。」
森夏は震えて泣いていた。あのアナザーライダーは許せない！俺自身も許せない！森夏を傷付けた事を！
森夏「うん……うん！」
ジオウ「待っててくれな……」
俺は森夏を安全な場所に逃がし、俺はアナザーオーズに聞く。
ジオウ「なぁ、あんたはどんな王様になろうとしてるんだ？」
アナザーオーズ「どんな王様だと？私は頂点を目指しているのだ！愚民どもなんて私の言う事を聞いてれば良いんだ！」
こいつ自分勝手だな、それならどうにかしたいが多分無理だ。

ジオウ「なら、あんたじゃ王様は無理だ！」
アナザーオーズ「何を言っている！今でも現に私が王ではないか！
「違う！」やはり貴様は排除だ！」
やって見せる……間違った方向で王様なんて言わせない！
ジオウ「絶対に止めさせる！貴方の身勝手で俺の大切な人を傷付けさせない！そして民も傷付けさせない！」
そう祥平はそれで良いのよ、貴方は絶対に優しい魔王になれるわ！
ジオウ「はぁ！」
アナザーオーズ「うぉらぁ！」
同時のキックでお互い後ろに転ぶが直ぐにアナザーオーズが仕掛けて来た！
ジオウ「やられるかよ！」
その勢いを利用してそのまま勢い良く飛ぶ！
アナザーオーズ「ぐぁぁぁ！」
良し！この勢いでまだ行ける！
ジオウ「は！だりゃ！おりゃ！」
パンチとキックでアナザーオーズを吹っ飛ばすがやっぱりこれを使わないといけないのか？……映二さん、使わせて貰います！
『オーズ！アーマータイム！タカ！トラ！バッタ！オーズー！』
ウォズ「ハッピーバースデー！祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来にしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウオーズアーマー。また1つ王の力を継承した瞬間」
なんかいきなり現れてびっくりしたけど、なんか安心するな。良し！行くか！はぁ！
ジオウ「行くぞ！」
アナザーオーズ「ぶぅーん！」
そのまま2人はトラクローが同時にダメージは入るがジオウは耐えながらジャンプしキックをかます！
アナザーオーズ「ぐ！が！何故だ！私が王だぁぁぁぁ！」
ジオウ「違う！お前じゃない！」
何をぉぉぉぉ！

アナザーオーズ「だったら誰だぁぁぁぁ！」
ジオウ「俺だ！と言いたいけど違う！森夏や富樫君や小鳥遊さんや一色君、くみん先輩、七宮！そして色んな人々がそれを決めるんだぁぁぁぁ！」
トラクローで上に上げるように攻撃をしアナザーオーズは倒れる！
『フィニッシュタイム！オーズ！』
ジオウ「これで終わりだ！」
『スキャニング！タイムブレーク！』
大きくジャンプしメダル3枚が重なりそのままキックで決め、爆発する！
ジオウ「ふぅ……」
俺は変身を解除し、アナザーオーズになっていた人に手を伸ばす。
黎斗「なんのつもりだ！」
祥平「俺はあんたの王様になりたい気持ちは分かるけど他人を傷付けるのは間違ってる。だけどその思いは嫌いじゃないよ。それじゃあ、行きます」
俺はそのまま森夏の所に戻る。
森夏「祥平……」
祥平「うん、戻ろう……」
俺達はそのまま帰ろうとした。
???
ウォズ「アナザーオーズを倒した我が魔王は仮面ライダーオーズの力を奪いまた1つ、手に入れる。だが我が魔王は少し厄介な事件に巻き込まれる。」
ＥＮＤ

第11話六花の姉現れるそして七宮の思い

部室

勇太「えーと、高田、その人は？」

富樫君が聞いて来たがうん、なんで姉さんがこの部室にいたんだろうか？

優美「私は祥平の姉、高田優美。よろしくね♪」

祥平「そろそろ離れてよ「ごめん、それは無理」うわ、めっちゃ真顔で言われても困るんだけど！」

優美「えー？そんな事言うの？」

くっそ！何も言えねぇ！絶対昨日のあれ言うつもりかよ！もう！

六花「魔王のプリーステスもかなり厄介な気配を感じる！」

勇太「こら失礼な事言ってんじゃない！」

軽いチョップが小鳥遊さんの頭を叩く。

六花「あう…勇太！何をする！」

勇太「お前が失礼な事言うのが悪い」

うぅ…勇太がやはりプリーステスに似ている。

祥平「そろそろ……ほい！」

俺は下から抜け出し森夏の後ろに隠れる。

優美「そんな子の後ろに隠れないで」

めっちゃ手がくねくね動いてて怖いわ！

森夏「えーと、祥平のお姉さん「優美で良いよ」それでは優美さん、祥平が少し嫌がってるので止めて上げて頂けるのは」

優美「ごめんねぇ♪けど私は今ね……ハグをしたい！」

とてもじゃないけど祥平のお姉さんが凄い顔をしてるよ！

祥平「森夏、悪いけど姉さんの相手をお願いする！」

そのまま俺は走って逃げる！

森夏「え！ちょっと！……行っちゃった……」

へぇ～？この子祥平と何か関係あるのかな？全くそう言う事、聞いてないから少し話して見ようかな？

優美「ねぇ？凡生谷さんだっけ？」

森夏「はい……「ちょっとお話ししない？」えーと、なんのお話しでしょうか～あはは…」
優美「決まってるでしょ♪……祥平の事よ」
い！凄い真顔で言ってて怖いよ！祥平助けてよぉ～！
駅付近
祥平「ふぅ、たく、姉さんは相変わらずだったな……」
けど、俺はそう言ってるけど心の奥底から嬉しいと思ってるもんな。「もしかして君は……魔王と言う人か？」え？誰？
???「……」
めっちゃ見られて恥ずかしいんだけど、この人何者なの！
???「……六花を知ってるかい？」
え？六花って小鳥遊さんの事だよね？……まさか？
祥平「もしかして小鳥遊さんのお姉さん？」
俺は怯みながら聞くがいきなりお玉を取り出して俺の頭を叩く！
祥平「いてっ！つぅ～～！何するんですか！」
俺は涙目になりながら言うが目がまじで怖い……
十花「君が六花をあんな風にしたのかと思ってね。だからそのおかしな事を止めさせようとしたいが君はやった方が良さそうだと。後……君が最低最悪な魔王になるとも聞いて」
あれ～？俺が何かしたのですか？そんな事なにも知らないんですけど！てか、え？最低最悪な魔王って！うわ！
十花「逃がさないぞ？」
お玉構えるって何者なの！
祥平「待って下さいよ！俺は小鳥遊さんと知り合ったのは最近です！ひっ！」
お玉がかすったよ！怖い！怖いから助けて！
十花「次は……ないぞ？」
俺、死んだよ！これはどうやって逃げるの！くそ～～！こうなったら……逃げる！
祥平「うぉーーー！」
十花「！、逃がさない！」

やばい人に絡まれるとは大変だよ！どうすれば良いんだよ！もう！

学校付近

祥平「はぁ…はぁ…」

やべぇ、なんなのあの人！あれってなんなの？

十花「見付けた……」

祥平「ウェーーーイ！」

こ！こえーよ！この人なにもんなの！

十花「それじゃあ、これで…！」

ライドブッガーソードモードでお玉を弾いたのは姉さんだった！

てか皆！

勇太「大丈夫か？高田？」

祥平「何とか」

私の弟に手を出すとかちょっと許せないんだよねぇ～？

優美「勝手に人の弟に手を出すとは何すんのかしらね！」

えーー！姉さん！生身に武器でやるのは駄目だって！てかお玉で防ぐ小鳥遊さんのお姉さんも普通にやば！

優美「へぇ？やるわね？」

十花「そちらもだな」

２人は見合うが俺と小鳥遊さんが止めに入る！

六花「お姉ちゃん！止めて！一回止まって！」

祥平「姉さんもストップして！」

俺達は止めるが目が睨まれる！

優美「祥平？私はね、貴方に攻撃してくる物は全て排除するから♪」

あれぇ～？姉さんの笑顔がこっわ！

六花「お、お姉ちゃんも「だが魔王が最低最悪な魔王になると聞いた。」え？魔王が……違う！高田は優しい魔王になると言ってた！」

十花「そんなの信じたくはなかったが未来から来た奴が言っていた……」

未来から来た人が祥平が最低最悪の魔王になるって！そんなの信じたくない！

祥平「俺がってそんな「だから悪いが」！、姉さん！」
ライドブッガーでお玉を抑える姉さんは弾く！
優美「祥平は逃げなさい！私が時間を稼ぐから！」
姉さん……ごめん！
十花「！、待て！「そっちがね！」く！」
十花さんは1度撤退した。一体何故だ？高田の事は魔王なんて十花さんはそんな事で真に受けないと思っていたが一体誰が……それにアナザーライダーとかも謎過ぎる。何故か俺達の前には仮面ライダービルド、仮面ライダーエグゼイド、仮面ライダーオーズ、そして高田のお姉さんが仮面ライダーディケイド、明光院ゲイツが仮面ライダーゲイツそして高田が仮面ライダージオウ。そしてその最悪な未来の事はゲイツ、ウォズ、十花さん、高田のお姉さんだけだったが俺達もさっきの十花さんの話しを聞く限り嘘をついてる感じはしないが……
勇太「何か裏でもあるのか？」
六花「勇太どうしたの？そんな難しい顔をして」
勇太「いや……何でもない。」
俺は六花の頭を撫でて誤魔化すがなんか嫌な予感がする……高田無事でいろよ。
その頃祥平は無我夢中でアパートの近くを歩いていた。
祥平「どうしよう、電車で逃げたけど、此処って確か……懐かしい。この場所は富樫君いや中学をまだ通ってた時に七宮と勇太と遊んでたな……」
俺はちょっと懐かしんで思い出していたが七宮を見掛けた。
祥平「七宮だ。おーい七宮ー！」
七宮はぼーとしながら歩いてるけど大丈夫なのか？
七宮「はぁ…どうしよう……」
私の中には魔王とは違うウォッチが入れられたのを知ってる……私は勇者と魔王を応援したいけど……我慢出来ない！「七宮！」え？魔王……え！魔王がなんでいるの！
祥平「あれからどうしたんだよ？元気にしてたのか？」

七宮「魔王……うん、私は元気だよ！それとモリサマーとはどうなの！」
七宮は笑顔で聞くがその笑顔は何か無理をしてるのか、その時の俺は思ってない。
祥平「ああ、今、付き合ってるよ。七宮とか皆のお陰だよ。ありがとな」
モリサマーと……そうだよね。あはは……は、何でだろうな？私は祝いたいのに、何か凄く憎い？
祥平「七…宮？」
何か考え込んでるけど大丈夫なのか？
七宮「……魔王、ごめんね。」
七宮の姿が怪人に変わり始めた！
『ウィザード！』
祥平「七……宮？……なんの冗談なんだよ？」
俺は戸惑いが止まらなかった。どうして七宮がアナザーライダーになったのかを
アナザーウィザード「今から私と勝負して貰うよ！」
いきなり川の水が俺を襲って来るがそれをギリギリ避けるがなんで七宮が！
祥平「止めてくれ！七宮とは戦いたくない！「はぁ！」く！うわ！」
今度は風が俺を竜巻見たいに吸い込み、そのまま川に落とされる！
祥平「がは！…はぁ…はぁ…」
アナザーウィザード「早く変身しないとやられちゃうよ？」
……嫌だ！七宮が何か悪い事してないのに！どうすれば！
祥平「七宮！なんで俺と勝負で……アナザーライダーの力を持ってんだよ！」
アナザーウィザード「私は教えて貰ったの、魔王が最低最悪の魔王になるって、それを回避するには別の人が魔王になるしかないって……だから魔王を排除すれば最悪な未来を変えられるって教えて貰ったの」
七宮……本当に戦わないといけないのか？「見付けたぞ、魔王」！、

なんでもういるんだよ！
祥平「小鳥遊さんのお姉さん……」
十花「悪いが私が高田祥平を倒せば、最低な未来は変えられる……六花の未来は私が守る…」
『ガイム！』
な！小鳥遊さんのお姉さんもアナザーライダーかよ！……俺は戦えない！この２人は最悪な未来を変えるってどうしてなんだよ！
祥平「やるしか……ないのかよ……変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
同時に雨も降り始めて来た。俺は悪意のない人とは戦いたくない……
オーラ「これでジオウも終わりね…」
ウール「本当に長かったと思うよ？」
木の茂みから見ている２人のタイムジャッカーは今回でジオウを確実に倒す気であった！
???
ウォズ「遂にタイムジャッカーは本気で我が魔王を抹殺しようとするが我が魔王は果たしてどう対象をするのか？」
ＥＮＤ

第１２話花道でオンパレード２０１３／ショータイム２０１２

ジオウ「……「そっちから来ないなら行くよ！」！、止めてくれ！七宮！」
俺は七宮を抑えて説得しようとするが
アナザーガイム「がら空きだ」
でかい刀が俺を襲う！
ジオウ「ぐあ！」
やっぱり……出来ない。俺はどうすれば良いの？
アナザーウィザード「これはどうかな！」
な！鎖が俺を縛る！動けない！
アナザーガイム「すまないがこのままやられて貰うぞ」
く！どうすれば良いんだ！この２人を傷付けたくないのに！
アナザーガイム「は！」
また刀で攻撃を喰らう、ジオウは鎖のせいで動けないままでいる！
ジオウ「ぐ！２人とも止めてくれ！」
アナザーウィザード「甘いよ！は！」
やばい凍らさせてるのか？やばいこのままだと！
ジオウ「こ！これでどう！だ！」
『ムテキゲーマー！』
アーマーが現れて鎖を斬ってくれ、そのままムテキアーマーになる！
ジオウ「七宮！十花さん！貴女達に言った奴らが何者なのかは分からないけど！もう止めてくれ！」
アナザーガイム「それなら魔王を止めるんだな！」
ぐ！この人の攻撃はあのお玉でやばいと思ったけど！本気でやばい！
アナザーウィザード「この魔法でも喰らって終わってね！」
……好き勝手に言いやがって！俺の目指す魔王は！魔王は！優し

い魔王なんだ！
ジオウ「七宮！十花さん！貴女達は俺の未来を悪い方向に言ってるけど、本当にそうだって言い切れるんですか！」
俺は思った事を言ったが七宮が答えた。
アナザーウィザード「知ってる、だけど魔王はこれから酷い光景を見る事になっちゃうんだよ！」
く！やっぱり駄目なのか？七宮と十花さんを説得出来ないのかよ、く……そ…
アナザーウィザード「これで！」
アナザーガイム「終わりだ…」
２人の大技がジオウに襲う！
ジオウ「うわぁぁぁぁぁぁ！」
諸に喰らい変身が解除されぼろぼろで倒れる。
祥平「が！ぐ！はぁ…はぁ…」
魔王……これで終わりだよ……さようなら。
祥平「七…宮…本当にそれで！……良いのかよ！」
アナザーウィザード「けどこれしか…未来を変えられないって！魔王を止めないと未来が絶望だって！だから私はそんな未来を変える！」
ここまでなのかよ、俺は七宮を十花さんを止められないのか？こんな所で終わるのか？……「そんな事で諦めるのか！ジオウ！」この声はゲイツ？
ゲイツ「はぁ！」
ジカンザックスオノモードでアナザーウィザード、アナザーガイムに攻撃をする！
ゲイツ「……ジオウ！あいつらに言われたままで貴様は魔王を止めるのか!?」
ゲイツ……解ってるよ！だけど！
祥平「俺だって嫌だよ！魔王になるって言ったよ！「ならそれで良いだろうが！」え…」
ゲイツ「俺は確かに最低最悪な未来を変える為にお前を倒しに来た

がお前の覚悟はその程度か！」
俺の覚悟……覚悟か。確かに言われて真に受けている
祥平「俺は……俺は！」
悩むに悩むが声が聞こえた！
森夏「悩むなーー！自分で決めた事は最後まで貫き通せーーー！」
祥平「森夏……だな！考えるの止めた！変身！」
俺はジオウに変身し、ジカンギレードを持って攻撃を防ぐ！
ジオウ「森夏の言う通りだ！俺は優しい魔王になるって決めたんだ！最後までその思いは貫き通す！」
『ガイム！』
俺は起動しなかったライドウォッチが使えるか駆けたが使えるのか！なら！
『アーマータイム！ソイヤッ！ガーイームー！』
ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウガイムアーマー。また1つライダーの力を継承した瞬間だ」
アナザーウィザード「魔王……うん！やっぱり魔王は魔王だね！「なら良いのか？」うん、私のこの力を無くして」
なら、こいつで終わらせるか！
『フィニッシュタイム！ウィザードギワギワシューティング！』
アナザーウィザード「ぐ！うわぁぁぁぁぁ！」
ゲイツはアナザーウィザード、七宮を倒して残ったのはアナザーガイム、十花さんだけになった。
アナザーガイム「貴様！」
ジオウ「さあ！花道！オンパレードだあ！」
大橙丸を2本持ちアナザーガイムの剣で防ぎ、連続で攻撃をする！
アナザーガイム「な！何故！攻撃を！」
ジオウ「俺はそうしないで相手の事を聞いて、最悪な魔王になると言われてやられようとした。」
さっき私が魔王に言った事だ、それで魔王を倒しても本当かどうか今更思った。そんなの幸せになるなんて……ない！

ジオウ「けど夢を諦める事にはならない！だから俺は優しい魔王になる事を止めない！そして十花さんを元に戻す！はぁ！」
そのまま押して行き、連続で斬って行き、更に回転する！
ジオウ「あ！ミカン斬り！」
アナザーガイム「く！」
アナザーガイムはそのまま倒れウォッチのスイッチを押す！
『フィニッシュタイム！ガイム！』
アナザーガイム「こんな所で……負けないぞ！」
すみませんが俺にだって負けられない物があるんです！
『スカッシュ！タイムブレーク！』
ジオウ「細切れにするぜ！はぁ！」
そのまま斬られ爆発したが森夏が突っ込んだ。
森夏「それ輪切りでしょ！」
アナザーガイムから元に戻る十花さんは気絶をしているが俺の未来をそんな風になってるって誰が教えたんだ？それから1週間がたったのだが十花さんはイタリアに戻ったらしい、まさか1度こっちに来てたと小鳥遊さんが言っていたのだが更に2日後だった。
勇太「えぇ！六花が！」
祥平「イタリアに！」
???
ウォズ「アナザーウィザード、七宮智音君とアナザーガイム、小鳥遊十花君を何とか倒した我が魔王は更に魔王を目指す事に決心を固めるのだが小鳥遊六花君がイタリアに行く事になってしまう。果たして我が魔王はどうするのか？」
ＥＮＤ

第13話勇太と六花の逃避行そして追い掛ける者達

七宮の家で皆で集まり話しをしている。まさか小鳥遊さんがイタリアに行ってしまう事となり荷物ももうなかった。どうすんだこれ？

七宮家

祥平「これは本格的にやばいよね？小鳥遊さんが遠くに……」

俺もこればかりはどうしようもないと思ってる。このまま黙ったまま連れてかれるのは納得もいかない……

凸守「マスターが遠くに行くなんて！この凸守悲しいデス……ダークフレイムマスターはこのままで良いのデスか！」

良くないと言いたいが家族が言う事だし、何より俺も悩んでるが……全然思い付かない！

森夏「それなら駆け落ちとかはどう？」

駆け落ち？そんな事して……いやそうか！

勇太「駆け落ちって、そんな簡単に言うけどな「いやその意思を見せれば良いと思う。」それ、大丈夫なのかよ」

富樫君は不安な顔をしてるけど、多分大丈夫な筈よ。

祥平「大丈夫だよ。俺に考えがあるから任せてくれ」

そして俺達は明日に備えて準備をする為、帰ろうとしたけど森夏が少し不安な顔をしている。

祥平「どうしたの？」

森夏「いや、あの十花さんだからばれるかが怖いのよ。」

うーん、確かにあの時のアナザーガイムでも怖かったしな、それにそんな事で俺は勇太達を見捨ててたまるかっての！

勇太「良し、準備して、俺と六花は明日の朝から出る。それで良いんだよな？」

勇太の言葉で皆、頷き、行動を始め次の日を迎えるのだが、朝に十花さんが訪ねて来たが俺達は知らないと言うのだが、何かレコーダーを取り出した。その会話を聞いたらそれは昨日の俺達の会話だった！

森夏「あはは……」
めっちゃ乾いた声で笑うが森夏大丈夫か？
凸守「ううー…」
凸守さんは泣いちゃってるよ。
十花「もし此所に富樫勇太と六花を連れて来い。もし連れて来なかったら、これをネットに流す。」
ん？あの写真……森夏の昔の写真！
森夏「あ…あ…あーーーー！」
うわぁ、さっきより顔が真っ青だよ、ん？更に写真あるのか？
2人『な！何で！あるの！デス！』
いきなり声を合わせて叫んでるけど何を見たの？
祥平「え？「見ないで！」うわ！手を退けてよ！見えない！」
森夏の手が邪魔で見えないよ！ヘルプ！
十花「それと高田祥平。」
呼ぶけど！目が！目がー！
祥平「ちょっと待って下さい！森夏！離して！さっきのは見てないから！」
そう言ったら手を離してくれたけど十花さんは俺に何かあるのか？
十花「君はどうする？私は君に迷惑をかけてしまったからな、どうするか聞きたい」
どうするって、最初からもう決めてる！
祥平「すみませんが俺は2人を見守ります。もし強制的にって言うなら「成る程な、なら！」ぐ！なにを！」
俺は十花さんに押し倒されて抑えられた！手が動けない！
十花「丹生谷森夏、彼のドライバーとウォッチがあるか探してくれ、何処かにあるはずだ。この服の中にか？」
その言葉で皆固まる。てか森夏はやらないよね！
森夏「え……え！／／／」
何で赤くなるの！待ってそんな事をされたら不味い！てか抑えられて動けないよ！

十花「君のそれが今は邪魔になる、丹生谷森夏が無理なら私がやる」
え！ちょっと！手が動けないよ！助けて！
優美「はい、ストップ！」
いきなり姉さんが十花さんに蹴りを当てようとしてるけど避けたよ！
祥平「姉さん助かる、そして十花さんが普通に凄すぎてびっくりするわ」
十花「まぁ、この姉の邪魔が入ってしまっては無理そうだな」
いや、だったら諦めて下さいよ。
凸守「この２人が凄すぎてやばいデスけど！私は行くデス！マスターとダークフレイムマスターを連れて帰るデス！」
あ！走って行っちゃったよ！てか止めないと！、森夏？
祥平「何故止める？」
俺の前に森夏が立っていた。
森夏「悪いけど……今は私の為に祥平の邪魔をする」
う！そ！だ！ろ！森夏まであっち側かよ！でも確かに過去の写真は嫌なんだろうな。
祥平「それでも俺は２人を守らせて貰う！」
俺は森夏の両手を抑えて、ディープキスをし、気絶させた。めっちゃ恥ずかしい！／／／／
森夏「はにゃ～／／／／」
森夏は顔を赤くして倒れる。
優美「あらら、祥平がそんな大胆にやるなんてね」
祥平「うるさいよ、姉さん後はお願いする」
そう言って祥平は走って行くけど、十花を止めれば良いんだよね？
十花「予想外だった、彼なら抵抗しないと思ったのだが」
優美「家の弟をなめないでよね！」
ドヤ顔で言ってる家に外では大変な事になっていた。
祥平「外に出たのは良いけど、この空なんだ？」
なんでさっきまで明るかったのに急に暗くなったんだ？ん？勇太から？

祥平「勇太どうした？」
俺は電話に出て聞く。
勇太『あれ？名前で呼んでるけど、いやそれより！此方で大変なんだ！うわ！』
なんか騒がしいけど、なんだこの声？……凸守さんか？
勇太『あいつらの中二病が現実で使えてるんだよ！それで何故かもう1人の六花と凸守と似た奴が現れたんだ！うわ！』
祥平「は！そんなのおかしいだろ！それにもう1人の小鳥遊さんと凸守さんがってどういう訳だよ！んなのあの2人の設定なんだろ！」
勇太『だーかーらー！それで今、六花と凸守が戦闘中なんだよ！やべ！きるぞ！』
あいつきりやがった……この空はもしかして？あれだよな？七宮や森夏がやってたあのフィールドが現実になったのか？いやおかしいぞ？
ウォズ「我が魔王、どうしたのだい？」
相変わらず後ろから現れるなウォズは。でもナイスタイミングだ！
祥平「ウォズ！丁度良かった！この空は何で変わってるの！」
俺は急いで聞く！
ウォズ「この空は我が魔王の波動に似ている。だが何故それが？」
祥平「そうなの？いやだとしたら……急がないと！」
俺は走ってその場所に向かおうとしたが白い服を着た女性が現れた。
???「貴方は高田祥平？」
祥平「そうだけど？「早くこれに乗って！」え？これってあの時の！」
???「いいから！」
俺は無理矢理乗せられてそのまま発進された。
『タイムマジーン！』
優美「あれは？……そろそろ頃合いだね……さてと」
私はそのまま、あの乗り物の上に乗る。そしてスカイタワー空中の

所についたがそこで小鳥遊さん達がいた！
祥平「なんだ！あの魔方陣は！」
そこにいたのは小鳥遊さん達が戦ってる！
???「ジオウ、貴方があれを止めないと大変な事になるわ」
え？あの別の小鳥遊さん達を止めないと大変な事になるってどういう訳？
祥平「取り敢えず「止めないとね」え！姉さん！いつの間に！てか！どうやって！」
優美「取り敢えず、あのツインテの子は私に任せて」
それでもやっぱりやりにくそうだな
『ジオウ！オーズ！』
『カメンライド！』
２人『変身！』
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！アーマータイム！タカ！トラ！バッタ！オーズ！』
『ディケイド！』
俺と姉さんは変身し、勇太達の所に飛ぶ！
ジオウ「勇太！小鳥遊さん！大丈夫か！」
勇太「ああ！だけど六花と凸守が同じだから混ざれない……」
そうか、普通に考えたらそうだよな。けど、もし間違えて本物に当たったら……恐ろしいな……それなら１つ手がある
ジオウ「小鳥遊さーーーん！勇太の中二病でのあだ名はなんだーーー！」
六花「え？魔王……勇太はダークフレイムマスターだーーーー！」
先に答えたがあっちの小鳥遊さんは？
六花？「え？何それ？」
あっちが別の小鳥遊さんって事か！けど……
ジオウ「攻撃なんて出来ない……「遅い！」くっ！」
巨大な剣っぽいので攻撃をしてくるもう１人の小鳥遊がまだ連続で来る！
六花？「ふ！」

やべ！防ぐのが間に合わない！
ジオウ「ぐ！」
凸守？「喰らえデス！ミョルニルハンマー！」
げ！まだ来るのかよ！
ジオウ「だったら！」
『フィニッシュタイム！オーズ！』
そのままドライバーを回転させる！
『スキャニングタイムブレーク！』
ミョルニルハンマーにキックを当てるがミョルニルハンマーのブーストで俺はそのまま身体全体に叩き付けられる！
ジオウ「が！は！」
俺はそのまま変身解除に追い込まれる。
ディケイド「祥平！油断したら、いつの間に！」
あの速さ、戦い慣れてる！油断は出来ないわね！
ディケイド「富樫君！小鳥遊さん！祥平をお願い！凸守ちゃんは私と一緒にこの２人を！」
凸守「え？でも、これ戦うのデスか？」
凸守はまだ混乱していてまともには戦える状態ではなかった。
凸守？「ふん、そっちの凸守はその程度デスかね！」
また来る！もう！
『ファイナルアタックライド！ディディディディディケイド！』
ディケイド「はぁぁぁ！」
ライドブッガーソードで抑えるのだがそのままディケイドは弾き飛ばされた！
六花？「やっと見付けた……祥平」
別の六花が高田の事を名前で呼んでいた！
勇太「な！高田を知ってるのか！」
六花「勇太、どうする？」
俺達が守られてばっかだった！六花達がやれたんだ……やるしかない！
祥平「ゆ……うた！俺はまだ！ぐ！」

勇太「安心しろ！このダークフレイムマスターに任せろ！爆ぜろリアル！弾けろシナプス！バニッシュ・メント・ディスワールド！」

勇太の服装が変わった！って事はダークフレイムマスター！

???

ウォズ「かくして、現れたもう1人の小鳥遊六花と凸守早苗は何故、我が魔王を知っているのか？この謎は次回にだ」

ＥＮＤ

第１４話想いは繋がるそしてジオウの新たな力

六花？「？、一体何が？」
勇太「ふふふ…貴様の相手はこのダークフレイムマスターだ！闇の炎に抱かれて……消えろ！」
右手から紫の炎を六花？に当てるが巨大な剣で防がれる！
六花？「確かに普通ではないけど……この邪王真眼に敵わない！」
そのまま振り下ろして来るが勇太はそれを避ける！
勇太「ちっ！はぁ！」
紫の炎を連鎖して撃つがまた防がれ、そのまま吹っ飛ばされる！
六花「勇太！」
このまま勇太をやらせるかよ！
祥平「く！この！まま！に出来るかよ！はぁ…はぁ…変…身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ジュウ！』
ジオウ「止めろぉぉぉぉ！」
俺は剣に撃ち、あっちの小鳥遊さんはこっちを振り向く！
六花？「大丈夫……邪魔な奴は倒すから祥平は待ってて…「だからさせないんだよ！」……仕方ない…サユリ！」
な！サユリだと！
サユリ「はいはい、んじゃ、魔王覚悟してね？」
『ライダータイム！仮面ライダーロスト！ジカンデスサイズ！ラーンス！』
なんでこいつがあっちの小鳥遊さんの言う事を聞いてんだ？
ジオウ「どういうつもりだ？」
ロスト「悪いけど……六花の為にやられて貰う！」
来る！ぐ！
ロスト「どうしたの？この程度じゃないよね！」
ランスモードで貫く用に攻撃するがそれを諸に喰らう！
ジオウ「待ってくれ！話しを聞かせてくれよ！」
俺はジカンギレードで防ぎながら説得しようとするが

ロスト「貴方じゃないと……救えない。六花の心を救えるのは」
六花の心？そっちの小鳥遊さんに何があったんだ？
ジオウ「本当に何が起きたんだ？サユリ、お前の目的ってもしかして、あの小鳥遊さんの心を救う事か？「黙りなさい！」ぐ！」
俺はまた攻撃を喰らうが諦めない。あいつらの話しをちゃんと分かれば……
ロスト「それなら無理矢理にでも連れて行く！」
『クローズ！アーマータイム！ウェイクアップバーニング！クローズ！』
肩にはクローズドラゴンのパーツであり顔にはカタカナでクローズと書かれている。
な！なんだ！あのウォッチは！見たことがない！「動くな！」な！皆！
六花？「もし動けばこいつらは消えてしまうぞ？」
後ろを振り向いたら、勇太や姉さん、凸守さん、小鳥遊さんがいつの間にか捕まっていた！
ジオウ「止めろ！皆を離せ！「だったら私の言う通りにして！」……分かった。」
俺はジカンギレードを構えるのを止め、地面に置く。
六花？「このまま、私達と一緒に来て貰う」
理由もなしにか？いやだけど何かがある筈だ……今は従おう。
祥平「分かったけど、皆を解放してくれ、今は言う通りにするから」
……やはり、祥平は自分の事より、皆の事を助けたいと思ってる。
???『あああああ！』
大きな咆哮があり、上から何か来ていた！
祥平「な、なんだよ、あれ……」
優美「あれは仮面ライダークローズビルドの姿、って事はあれはアナザークローズビルド！」
ビルドは分かるけど、クローズってさっきの奴か？
ロスト「そんな！もう来たの！」
祥平「どういう事だ！あれ！」

俺は指を差しながら聞くが一瞬だった。俺は吹っ飛ばされ、魔方陣から落ちそうだった！
祥平「あ！ぐ！『貴方は排除だ…』な！ぐ！あが！」
祥平を落とそうとしてる！不味い！
優美「変身！」
『カメンライド！ディケイド！』
ディケイドになる優美はアナザークローズビルドに攻撃をするが防がれる！
アナザークローズビルド『邪魔をするなぁぁぁ！』
そのまま、強力なパンチを喰らってしまう！
ディケイド「な！く！」
そのまま吹っ飛ばされて倒れる！
祥平「姉さん！おい足を退けろ！ぐ！」
このままじゃ祥平が！「祥平に何するーー！」え？この声は！
六花異世界「はぁ！」
アナザークローズビルドを蹴りで吹っ飛ばしちゃったよ！
六花異世界「祥平！」
小鳥遊さん……ありがとう。俺は小鳥遊さんの手を掴み、何とか登る。
祥平「助かったよ、さてと「お願いがある」え？」
服を掴んで何か言ってる？どうしたんだ？
六花異世界「あの怪人から祥平を助けて！私は祥平がいたから幸せだった！祥平がいなかったら！私は1人ぼっちに……「分かった……」え？」ポロポロ
俺は優しく抱き締めてあげ、真っ直ぐ顔を見て言う。
祥平「小鳥遊さんが大切な人が別の俺なら尚更だ！助けるよ！だから……信じて！」
俺は小鳥遊さんの頭を優しく撫でてジオウに変身する。
ジオウ「サユリ！手伝ってくれ！」
ロスト「なんで私が「サユリお願い！」六花……仕方ないね、分かったわ！」

まさかこんな形で一緒に戦う事になるなんてね。
ジオウ「行くぞ！」
ロスト「えぇ！」
俺達は互いの武器でアナザークローズビルドに攻撃を仕掛ける！
アナザークローズビルド『無駄よ！』
ぐ！こいつの力は強い！だが！
ジオウ「負けられない！小鳥遊さんの為に！助ける！必ず！」
『ビルド！アーマータイム！ベストマッチ！ビールドー！』
ジオウ「はぁ！」
ロスト「てりゃあ！」
同時に攻撃し、アナザークローズビルドにダメージを与えるが流石に簡単ではないのかよ！
ジオウ「俺達は諦めない！」
ドリルで攻撃をする！
アナザークローズビルド『が！馬鹿な！』
ロスト「いい加減に祥平を返して貰うわよ！はぁ！」
ランスモードで貫く用に攻撃を連続でする！
アナザークローズビルド『ぐ！が！』
！、もう1人の俺が出そうだ！これなら！
ジオウ「小鳥遊さん！今だ！あんたが引っ張るんだ！」
六花異世界「うん！」
手を伸ばしてあっちの俺を引っ張り出すがまだ駄目か！
ジオウ「この！」
ドリルで攻撃しアナザークローズビルドからもう1人の俺を何とか救出出来た。
祥平異世界「いてて……あれ、ここは？「祥平！」え？六花？……え？……！、あいつは！」
もう1人の俺を助けたからなんか様子がおかしい？
アナザークローズビルド『ぐ！よくも！』
やべ！来る！ぐ！
ジオウ「あいつを倒すウォッチもないし、どうすれば！ぐ！」

こいつをどうすれば！ぐ！
ディケイド「……祥平！これを使って！」
姉さんはウォッチを投げて来たがこれって！
ジオウ「あの時、使えなかった、もう1つのウォッチ……」
姉さん……サンキュー！
『ディディディディケイド！』
俺はウォッチを起動させるが
アナザークローズビルド『させるかぁーー！』
アナザークローズビルドがこっちに走って向かって来る！
ジオウ「く！邪魔をするな！おらぁ！」
俺はアナザークローズビルドを吹っ飛ばし、ドライバーを回転させる！
『アーマータイム！カメンライド！ワォ！ディケイ！ディケイ！ディケイドー！』
ジオウは新たなアーマーになった。
ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ、時空を超え、過去と未来をしろしめす時の王者。その名も仮面ライダージオウディケイドアーマー。また1つライダーの力を受け継いだ瞬間。」
そのまま本を閉じて黙って見ている。ウォズは相変わらずなのね。
ジオウ「はぁ！」
俺はパンチをして、追い込もうとするがジャンプ力も厄介なスピードだ。
ジオウ「く！、ん？もしかしてもう1つウォッチが使えるのか？だったら。」
『ゴースト！』
俺はそのままウォッチをはめる。
『ファイナルフォームタイム！ゴゴゴゴゴースト！』
身体がグレイトフルになり文字もゴーストグレイトフルに変わる。
更に武器も現れる。
『ライドヘイセイバー！』
ジオウ「はぁ！」

新たな武器、ライドヘイセイバーで攻撃をするがやっぱり多少効いてないがさっきよりはいけるな！
ジオウ「はぁ！」
斬ってダメージを与えるがまだ立ち上がるのかよ！
アナザークローズビルド『返せ！』
パンチとキックのラッシュがやばい！ぐ！
ジオウ「これでどうだ？」
『ヘイ！ビルド！ヘイ！エグゼイド！』
ライドヘイセイバーの針を回してアナザークローズビルドの攻撃を防ぎ発動させる。
『エグゼイド！デュアルタイムブレーク！』
アナザークローズビルド『ぐ！うが！』ＨＩＴ！ＨＩＴ！ＨＩＴ！
３回連続で斬りビルドウォッチを取り出す。
ジオウ「今度はこれでどうだ！」
『ビルド！ファイナルフォームタイム！ビビビビルド！』
六花「また変わったぞ！」
勇太「あのままなら倒せるかもな！」
優美「けど、それだけじゃないでしょ、別世界の小鳥遊六花さん？」
ディケイドから変身を解除していた優美は異世界の六花に問い掛ける。
六花異世界「うん、実はあのアナザークローズビルドは凡生谷なんだ。」
勇太「な！凡生谷だと！」
それは厄介わね、なら祥平に伝えないとね。
ジオウ「く！「祥平！」姉さん？どうしたの！」
優美「そのアナザークローズビルドは別世界の凡生谷森夏だって！」
な！森夏なのか……一体どうしてこんな状態に？
アナザークローズビルド『は！』
パンチをしてくるが俺はそれを防ぎ説得しようとした！
ジオウ「ぐ！別世界の森夏！止めるんだ！」

アナザークローズビルド『！、うるさい！今更、止められないんだ！』
ぐ！力が強すぎだが！諦めるかよ！
ジオウ「一体どうしてこんな事をするんだ！『うるさい！うるさい！』が！」
……悔しいけど！倒すしかないか…
アナザークローズビルド『消えろ！消えろ！祥平は私の！あああああ！』
く！これはやばいな「魔王！ぼさっとしないで！」サユリ……だな！
ジオウ「森夏！目を覚ますんだ！そんな事をしても本当の幸せはない！」
説得は諦めないでするが攻撃を仕掛けて来た。
アナザークローズビルド『貴方に何が分かるの！1人にされた私の気持ちを！』
重い蹴りを喰らい吹っ飛ばされ落ちそうだった！
ジオウ「やべ！落ちそう！ぐぐぐ～！うわ！」
バランスが崩れて落ちてしまう。
優美「祥平！」
六花「魔王！」
凸守「やばいデス！落ちたらひとたまりもありませんデス！」
誰もが駄目かと思っていたが
『タイムマジーン！』
赤いタイムマジーン？ゲイツ君か？
ジオウ「助かったぁ～！「祥平！」え？森夏！」
操縦席から出て来たのは森夏だった！
森夏「大丈夫だった？」
ジオウ「ああ、大丈夫だよ。森夏が助けてくれたからまだ大丈夫だ。それにあの森夏を止めないとな……」
え？あれって私なの！て言うかどうしてあーなったの！
ジオウ「森夏は下がってくれ、危ないから「いや私も一緒に説得す

る！」え？」
森夏「よく分からない状態だけど、同じ私なら助けたいと思うわ。」
森夏……本当に最高だな！
アナザークローズビルド『なんで！なんでなの！「そんな事も分からないの！」なに？』
森夏「自分の事ばっか考えて！相手の事を考えないのは本当の愛じゃないわ！」
ジオウ「その人と本当に気持ちが１つなった時に好きだって気持ちは更に嬉しくなるんだ！」
なにも知らないでなにが本当の愛じゃないわ！なの！ふざけないでよ！
ジオウ「森夏はそうやって相手を無理矢理！手に入れて！笑えるのか！」
ライドヘイセイバーの針を１つ動かす。
『ヘイ！ゴースト！ゴーストデュアルタイムブレーク！』
オレンジ色に光り、そのまま斜めで斬る！
アナザークローズビルド『うぐ！私は！私は！』
これ普通にやばいな。何とかして元に戻したいが「祥平、ウォッチが！」え？ウォッチ？
ロスト「え？クローズウォッチも光ってる？え！」
クローズウォッチがジオウの方に飛んで行く！
ジオウ「え！ビルドウォッチまでも！」
ビルドフォームからディケイドアーマーに戻り、ビルドウォッチがクローズウォッチとぶつかり、急に光りが強くなった！そして現れたのは新たなウォッチだった。
『クローズビルド！』
ジオウ「これはビルドとクローズのウォッチが１つになったのか？」
俺はそれを手に持ち、アナザークローズビルドの森夏の方に向く。
アナザークローズビルド『貴方達は潰す！私の邪魔をしないでよ！』

もうその苦しみから解放してみせる！俺はクローズビルドウォッチを起動させた。
『クローズビルド！』
ディケイドウォッチを外してクローズビルドウォッチをはめるがいつもと何か違っていた。
森夏「え！ちょっと！これ巻き込まれてるけど！どういう事！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
森夏「駄目です！」
ジオウ「え？」
そして前と後ろで森夏がジオウの中に入ってしまった！
『アーマータイム！ラビット！ドラゴン！クローズビールドー！』
ウォズ「祝え！全ライダーの力を受け継ぎ「うっさい！」……」
優美はウォズの祝えとの言葉を止めさせ、本を奪って閉じる。そして返すがウォズは黙ったままだった。
ジオウ『ん？うーん？これってもしかして……合体しちゃったーー！』
肩アーマーには左には赤いフルボトルで右にはクローズドラゴンが取り付けられていて胸アーマーにはクローズビルドのパーツがついている。腕はクローズビルドのままで腰からにはマントがつけられていて顔にはカタカナでクローズビルドと描かれている。顔の針からは左にウサギで右にドラゴンがあり、おでこ中央はクローズビルドのパーツをそのままつけられている。
森夏『どういう事よ！祥平！説明してよ！』
祥平『いや！これはもう、凄い事が起きちゃってるのは分かるけど！今は森夏を止めるぞ！森夏！』
森夏『なんかややこしいわよ！』
と言いつつアナザークローズビルドに向かって走って行く！
祥平『森夏！合わせて行くよ！』
森夏『分かったわ！』
ジオウ『はぁ！』
く！何が！相手の気持ちよ！ふざけないで！私は本気で彼を愛し

ているの！
アナザークローズビルド『貴方達に分かる訳！「分かる！」嘘よ！』
森夏『嘘じゃないわ！中学の時に学校来なくなって！私はもう祥平に会えないと思ったけど！高校２年で私のクラスに転校してきた時は驚いたと同時に喜びもあった！だけど！祥平は祥平で変わってなくて！私の勘違いで七宮には迷惑掛けたけど！私は凄い幸せなんだ！』
パンチを与えてアナザークローズビルドは倒れかけるがまだ立ち上がる！
アナザークローズビルド『そんなのどうでもいい！祥平さえいれば！「それが間違いだって言ってんだよ！」え？』
俺は押さえながら喋る！
祥平『確かにそこの俺がいれば！あんたは幸せかもしれない！だがな！それで心から笑顔で笑えなかったら！そんなの辛いだけだ！本当の幸せじゃない！』
アナザークローズビルドに強力な蹴りで吹っ飛ばしてウォッチのスイッチを押す！
『フィニッシュタイム！クローズビルド！』
森夏『今の私達は！』
祥平『最高に！』
ジオウ『負ける気がしない！』
アナザークローズビルド『あ！ああ！』
『ラブ＆ピース！タイムブレーク！』
∞な形の方程式に挟まれるアナザークローズビルドは逃げられなかった。
ジオウ『はぁぁぁぁぁ！』
その方程式にジャンプで乗り、キックを決めた！
アナザークローズビルド『きゃぁぁぁぁぁ！』
そのままアナザークローズビルドを貫通して爆発し、元の森夏に戻りウォッチも出て来てパリーンと割れた。そしてそのまま俺達も変身を強制解除されウォッチも元に戻っていた。そして別世界の森夏

達は元の世界に戻り、サユリは残るとの事らしい。そして小鳥遊さんのイタリアに行く理由は十花さんの結婚式だったらしい。

祥平「不器用なんだね、十花さんは」

勇太「やっぱり姉妹だなって思う」

こんな感じで俺達のへんてこな逃避行だったがあっけなく終わったが小鳥遊さんと勇太は前より良い感じになってた事は内緒だ。そして俺達にとんでもない事が起こるなんて思ってなかった。

???

ウォズ「かくして時空を超えた出会いで絆は深まる我が魔王。だがそんな中、かなり厄介な事件に巻き込まれてしまう、我が魔王達はどうなるのか？」

ＥＮＤ

第15話謎の異世界そして集められた仮面ライダー達

十花さんが結婚してあれから3日たった頃、皆で日本に戻るが俺はいきなり現れたアナザーライダーと戦っていた。

ジオウ「はぁ！」

ジカンギレードで斬り、倒れるがまだ元気なのね？

アナザー???「ぐ！この！」

こっちに来るが俺はそのままジャンプして避けてジカンギレードをジュウモードに変えて攻撃する！

『ジュウ！』

ジオウ「よっ！は！」

そのまま乱れ撃つ！

アナザー???「ぐおぁぁぁ！」

アナザーライダーは倒れて体勢を崩した！今なら！

ジオウ「このまま元に戻す！」

『フィニッシュタイム！』

俺はジャンプしてドライバーを回転させる。

『タイムブレーク！』

ジオウ「おりゃあああ！」

アナザーライダーにキックをするが耐えられていた！

アナザー???「こんな所で！」

ジオウ「こいつ！固い！」

その瞬間、両方弾かれ吹っ飛ぶ！

ジオウ「ぐあ！」

アナザー???「うが！」

いてぇ、てか早くなんとかしないと！ん？なんだあの狭間！

ジオウ「え！す！吸い込まれる！あーーれーー！」

そしてアナザーライダーもそこから姿を消していた。

???

祥平「……あれ？此処は何処だ？」
俺は回りを見渡すが見た事ない。初めて見る物ばかりではなさそうだ。「おりゃあああ！」え？今の声は？、俺はその声がする場所に向かった。
祥平「！、あれは！」
俺はそこで見たのはピンク色で目のある仮面ライダーを見付けた！
エグゼイド「これでフィニッシュだ！」
『ガッシューン！ガシャット！キメワザ！』
そのままキメワザホルダーのスイッチを押してそのままジャンプをする！
『マイティクリティカルストライク！』
あっちの鎧？ミカン？え？何あれ！
鎧武「ただでやられるかよ！」
『ソイヤッ！オレンジスパーキング！』
２人のキックがぶつかり弾かれた！
エグゼイド「おわ！」
鎧武「うお！」
不味い！止めないと！
エグゼイド「まだ戦いは終わってない！「ちょっと待って！」え？君は？」
俺は２人の戦いを止めに入る。
祥平「貴方達も仮面ライダーですよね！」
鎧武「ん？そうだが？」
俺は少し安心したのだがこの後に攻撃されるとはこの時の俺は思わなかった。
祥平「良かった、実は俺も同じ仮面ライダーで、この世界に吸い込まれて何がなんだか、うわ！なんでいきなり！」
いきなり攻撃してきたが俺は避けるが何がどうなってんだ！
エグゼイド「それならお前も敵！」
うお！あぶな！何すんの！この人達は！

鎧武「おら！」
ギリギリで避けてジクウドライバーを取り出してつける！
祥平「もう！少しは話しを聞いてくれても！よっ！」
俺は攻撃を避けてウォッチを起動させる！
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
俺は防ぎながら説得しようにも話し聞かなそうだしな、どうすればいいんだ、よ！
ジオウ「一旦止めてくれ！ちゃんと話しを！「はぁ！」ぐ！この分からず屋達目！」
俺はディケイドウォッチを取り出そうとしたがなかった！
ジオウ「え？嘘！ない！ウォッチが！ぐあ！」
2人の攻撃を諸に喰らって俺は倒れ掛ける。
エグゼイド「これで倒したら次はあんただ。」
鎧武「当たり前だ。」
やべぇ、このままじゃやられる。
2人『はぁぁぁぁぁ！』
『マイティクリティカルストライク！』
『オレンジスパーキング！』
ジオウ「うわぁぁぁぁ！」
2人の技を俺は避ける事が出来ず吹っ飛ばされ、崖から落ちてしまう。
エグゼイド「これでまずは1人だな、次はあんただ！、行くぜ！」
鎧武「こっちの台詞だ！行くぜ！」
また2人のライダーは戦い始めたが崖から落ちた祥平は変身が解けていて川で浮いて流されている。
???「ん？あれは……人？大変！助けなきゃ！」
祥平が流されているのを見て助けに入った女性は川に入り、祥平を引っ張り上げる。
祥平「……かは！、はぁ…はぁ……「大丈夫？」えっと、誰です

か？」
俺は金髪ロングのメガネを掛けた、女性に聞くが……本当にこの世界なんなんだよ。
???「私は……！、それはライドウォッチ！それにドライバー！もしかして貴方！仮面ライダー！」
いきなり両手を握り締め近付く！
祥平「え？そうだけど？「やったぁー！」え？」
なんか両手を握られて喜ぶけど、なに！
???「これで聖杯ライダー大戦に参戦出来るわ、この戦いを……」
ん？なんか妙な言い方だな聖杯ライダー大戦ってなんだ？
祥平「えっと、それより、貴女はなんなの？」
???「え？私？私は高田アリナです。よろしくお願いします。」
俺も自己紹介を終えて、一旦、俺はびしょ濡れの服をどうにかしたい
祥平「はっくしょん！あー、不味いな、この時期は寒いからな」
アリナ「クチュン…」
てか、この制服、やっぱり森夏と同じ制服だ。それだと俺達と同じ学校なのか？それとまじで風邪引きそうだから着替えたい。
祥平「よし、取り敢えず服をどうにかしたい「それならあっちの方に服屋があるので」よし、それならそこに行ってから色々聞かせて欲しい」
服屋
俺はアリナさんと服屋に行って着替えた。てか店の人いないのか？アリナさんも今、来たな。むぅー何でかな？ここまでして森夏の私服に似すぎだろ。まぁ、それより聞かないといけないのが1つだ。
（祥平の服はソウゴと同じ物です。その上から黒いコートを着ている。）
祥平「えーとアリナさんちょっと説明が欲しい。聖杯ライダー大戦ってなんなんだ？」
そうこれが気になるワードだ。それに何でこの……俺？の女性は何で喜んでたんだ？

アリナ「聖杯ライダー大戦、これは１０年前から始まった戦いです。この世界では仮面ライダーを使って、最後の１人まで生き残って聖杯を手に入れます。そしてその戦いに負けた仮面ライダーは消滅します」

最後の１人まで生き残って戦い、聖杯を手に入れるが負けた仮面ライダーは消滅……そんなのおかしい、それにさっきの仮面ライダーはエグゼイドだ。何故だ？宝生先生は医者だ。争う事はしない筈なのに何故？

祥平「なぁ、この世界で呼ばれた仮面ライダー達の記憶ってどうなってるの？」

アリナ「仮面ライダー達の記憶はないです。戦う時に邪魔な感情になるのでこの世界に送られた仮面ライダーは前の世界の記憶はないです。」

そうなると強制的に自分の世界での記憶は書き換えられて、この世界での戦いの道具に記憶が変えられてるってのか？だけど何で俺は大丈夫なんだ？記憶は残ったままだが？

アリナ「だけど、私はそんな仮面ライダーを見たくない！」

驚きの言葉に俺は驚いた。

祥平「え？」

アリナ「私はその為に聖杯ライダー大戦に参加をする為に頑張ったけど、私はいつも失敗して仮面ライダーを呼び出せなかった、けど私はそれでも諦めないで努力した結果が今に至りました。お願いします、私に力をかして下さい！この戦いを止めたいんです！お願いします！」

頭を深く下げて、この聖杯ライダー大戦を止めたいと言っているのは本気で伝わる。だが本当にそれで良いのか？

祥平「アリナさん、１つ条件がある」

アリナ「良いですけど？出来る限りの事で」

祥平「俺は出来るだけ戦いを避けたい。無意味な戦いはしたくないし、同じ仮面ライダーを殺すなんてしたくない。「みーつけたぞ！高田ぁー！」！、なんだあいつ！」

いきなり現れた青髪のワカメ頭が呼んでる。それと後ろにいる仮面ライダーはさっきの！
アリナ「シンジ！なんでここに！」
シンジ「お前がここに入ってくのを見たからな！お前も仮面ライダーいたんだな？」
これはもしかして……やばいかもしれない
アリナ「相変わらずうるさいわね」
てか、こいつの顔を見てると吐き気がする。
シンジ「もし死にたくないなら！僕の物になって「断らせて貰うぞ、青年よ！」な！なんだよ！お前！高田の戦う道具なら黙ってろよ！」
道具？俺達は道具なんかじゃない！
祥平「違う！俺は道具じゃない！俺は優しい魔王を目指す！高田祥平だ！」
やっぱりこの人……兄さんに似てる？何処か何か似てる……
シンジ「なんで勝手に動いてるんだよ！そいつ！道具じゃないのかよ！」
シンジは驚いているけど、私は自分の意識を持っている仮面ライダーをずっと待ってたんだ！この下らない戦いを止める為に！
アリナ「私はそれを待ってた！もうこの人と契約もした！」
うん！契約したな！……ん？契約って何？
祥平「待って、契約ってした？」
俺はそれに対して質問するけど
アリナ「後で教えるから今は目の前のが来ると考えた。方が良いです」
え？どういう事？うわ！もう攻撃するのかよ！
鎧武「お前はさっきのだな。生きてたか」
この仮面ライダーも本当の記憶じゃない記憶を……
祥平「まぁーね、あんたは何者？」
鎧武「俺は仮面ライダー鎧武だ。さぁ、始めるぞ！」
やっぱりやるしかないのかよ、しゃあない！
『ジオウ！』

祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
シンジ「な！お前のその仮面ライダーって！」
私はそれに更に驚きを隠せなかった。そう彼があの仮面ライダージオウに変身した。あの最強の魔王の仮面ライダージオウだったから、私はとんでもない人とパートナーにしたかもしれない……
ジオウ「あんまり、殺したくはないからな」
俺は構えて言うがまじで今はその方法は不明だから困るな。
鎧武「お前を殺せば良いんだよな？行くぜ！」
ぐ！かなり厄介に力が強い！だけど！倒す事はしたくない、どうすれば！
ジオウ「く！あんた！思い出せよ！仮面ライダーなんだろ！ぐは！」
相手の攻撃を喰らい、転がる！
鎧武「確かに仮面ライダーだ。だが、今はマスター命令でな、お前は倒さないといけないからな！」
くそ！このままじゃ！やられる！「ジオウ！これを使って！」え？アリナ？
ジオウ「これってライドウォッチ！どうしてこれを！」
アリナ「仮面ライダーを呼ぶにはそのアイテムが必要だったんです！貴方なら使える筈です！」
そうか、なら使わせて貰うぞ！、俺はそのウォッチを起動させようとしたが
ジオウ「あれ？なんでだ！どうして使えないんだ！ぐあ！」
俺はそのままダメージを喰らう！
鎧武「これで終わりだ。」
もう、駄目なのか？こんな所で……
???「セイヤーー！」
いきなり叫び声がし、振り向いたら上から赤、黄色、緑の三色ライダーが現れた。
鎧武「ぐ！」

鎧武に攻撃し、こっちを向いて来た。敵か？
???「大丈夫？」
ジオウ「貴方は？」
???「俺はオーズ、仮面ライダーオーズ。変身する前の名前は火野映司だ。よろしくね」
火野映司さんって！あの時ライドウォッチをくれた人だ！
ＥＮＤ

第１６話記憶が残っているライダーそして謎のアナザー戦士!・その名はアナザーサーヴァント!・

オーズ「久し振りだね、あれを渡して以来かな?」
映司さんは俺に手を伸ばし、それを握り締め立ち上がる。
ジオウ「なんで記憶が?」
俺はそう思って聞くが、まずはあの仮面ライダーだな
オーズ「一先ず、此処は逃げたいけど、あの仮面ライダーを何とかしないとね」
めっちゃ冷静だなこの人、だけどそれなら助かるな
ジオウ「なら一緒に「待ちなさいよ!オーズ!」え?・誰?・」
走って来たのは赤い服でスカートを着ている女子が映司さんに声を掛けるが誰?
???「今は撤退が安全でしょ?」
オーズ「分かってるよ、俺もそれはしたいけど、多分あのライダーはそう簡単じゃないと思う。凛ちゃん、コアメダル良い?コンボで撤退するから」
映司さんはそう言って凛さんって人からコアメダルと言う物を渡した。
凛「良い!絶対に逃げるのが優先よ!」
オーズ「ああ!」
映司さんはコアメダルを入れ換えてスキャンした。
『クワガタ!・カマキリ!・バッタ!・ガータガタガタギリバ!・ガタキリバ!』
オーズの姿は緑一色になり、分身した!・いっぱいいすぎだろ!・
オーズ「ここは一旦任せて、撤退して!」
そう言って、俺達はその場から離れていく。
???
ジオウ「はぁ…はぁ…ここまで来れば」
俺はそう言って変身を解除する。

祥平「ふぅ、えーと貴女は？「え！ちょっ！た！高田君！」え？なんで知ってるの？」
凛「知ってるも何も！貴方！死んだ筈だったのに！どうして！生きてるの！」
え？死んだ？どういう事だ？もしかしてまた別世界の俺がいたのか？こりゃあ大変だな。
祥平「てか、死んでるってどういう事か、教えて欲しいんだけど？」
凛「……私が知ってる訳じゃないのよ、詳しく知ってるのはアリナだけなの」
え？アリナさんだけが知ってる？それって一体……！、あ！こいつ！
アナザー???「お前は！」
祥平「お前はあの時のアナザーライダー！今度はここで倒させて貰うぞ！変身！」
俺はジオウになり、アナザーライダーに攻撃するがやはりウォッチがほとんど使えないのは辛いな！
ジオウ「く！強いな、なら！」
『ジュウ！』
ジオウ「は！」
俺は撃ちまくるが剣で防がれた！嘘だろ！もう！
ジオウ「ぐあ！」
くそ！どうすれば……え？逃げたのか？
ジオウ「一体どうしたんだ？」
俺は変身を解除し、考えてたら映司さんが来た。
映司「こっちは何とか逃げ切れたよ。それよりさっきのは？」
祥平「俺にも分かりません。あのアナザーライダーが何の仮面ライダーなのかが」
俺はあのアナザーライダーが何者なのか、分からないが一体……それに元の世界に帰れるのかが分からない。森夏達は無事だよな？
その頃、森夏達の方では
ゲイツ「くそ！何なんだこいつは！」

『ユーミー!』
ジカンザックスユミモードにして黒い影の奴を攻撃するが倒せないのか!
ゲイツ「ならこいつだ!」
『ドライブ!アーマータイム!ドラーイブ!ドラーイブ!』
加速して攻撃するがやはり倒せないのか?
森夏「これって大丈夫なの!」
それに祥平はなんでいきなり消えたのよ!
ディケイド「分からない!祥平が消えたのと何か関係があるのかもしれないわね!」
ライドブッガーソードモードでやるがやはり倒れない!
ディケイド「鬱陶しいわね!なら!」
『カメンライド!ゴースト!レッツゴー!覚悟!ゴゴゴゴゴースト!』
ガンガンセイバーを持ち攻撃をするがやっぱり駄目だった!
アナザー???「お前達は邪魔だ!」
そう言って黒い魔剣を上に向けて黒いオーラが溜める!
ディケイド「このままやられる訳には!」
『ファイナルアタックライド!ゴゴゴゴゴースト!』
『フィニッシュタイム!タイムバースト!』
2人のライダーキックがアナザー???は爆発するが復活をする!
ディケイド「またなの!」
ゲイツ「こいつは厄介だな」
確かに厄介だけど、祥平は何処に行ったの!
???
祥平「ふぅ……それで映司さんはどうやって来たんですか?」
俺は映司さんにどう来たのか質問する。
映司「あの怪人に襲われて吸い込まれたらいつの間にか、この世界にいたんだ。」
祥平「そうですか……」
やっぱりあのアナザーライダーなのか?それに此処はまじで何処なんだ?

凛「それよりアリナがあの仮面ライダージオウを召喚するとはね。」
そう言えばあの時に渡されたウォッチは何で使えなかったんだ？何か特殊なウォッチなのか？
アリナ「最初は無理でしたがいきなり現れてたので召喚とはちょっと違います。」
凛「やっぱり同じなのね」
同じって、そうか映司さんも吸い込まれたって言ってたから……え？じゃあ、あの仮面ライダー達は何処から来たんだ？
アリナ「その言い方だと、凛さんは火野映司さんを助けたって事ですか？」
映司「そうだね、あの時は変身できなかったけど、凛ちゃんが持ってたコアメダルあったから何とかな変身出来たけど、今はこれだけだね。」
そう言った、映司さんはコアメダルを7枚出した。
映司「俺が使うコアメダルによってはコンボは身体に負担もあるからあまり使わないけど、もしの時には使って何とかする。」
身体に負担って、じゃあ、あの時の緑一色のってコンボ！
祥平「あの時に使った緑色のってコンボ使って大丈夫なんですか？」
映司「俺は大丈夫だよ、ただ長く使うと倒れるのが難点なんだよね」
映司さんが変身に使うコアメダルはコンボによってそうなのか？だけど俺は使えるウォッチもないが武器で何とかしないとな……！
アリナ「何ですかあれ！」
いきなり現れた黒い鎧に金髪の仮面を着けている化物が黒い剣を持っていた。
映司「凛ちゃん！あれって何！」
凛「あれはサーヴァントよ！」
祥平「サーヴァント？でも怪人だろあれ！」
確かにそうだけど、私はこの世界の人間じゃないからね、貴方達と同じ別世界から来たからね。この聖杯ライダー大戦もあいつが原因かもしれないし……

祥平「取り敢えずこの場はしのがなきゃな」
『ジオウ！』
映司「２人とも下がってて！」
２人『変身！』
『ライダータイム！仮面ライダー！ジオウ！』
『タカ！トラ！バッタ！タ・ト・バ！タトバ！タ・ト・バ！』
俺達は変身しサーヴァント？に攻撃をする！
アナザー???「エクスカリバー…モルガン…」
いきなり黒いレーザーを撃ってきた！やべ！
ジオウ「けど……避ける訳にはいかねぇ！」
『フィニッシュタイム！ジオウ！ギリギリスラッシュ！』
俺は黒いレーザーを打ち返そうとするが余りにも凄すぎて！ぐ！
ジオウ「ぐ！２人とも！安全な所に逃げて！映司さん！２人を頼む！」
やべぇ！こいつの力が強すぎる！
オーズ「でも！「早く！」……分かった、でも無茶はしないで！」
俺は２人を連れて安全な場所に移動した。祥平君、無茶はしないでくれよ！
ジオウ「さてと……行くぞ！アナザーサーヴァント！」
俺は凛さんが言っていたサーヴァントにアナザーサーヴァントと呼び、ジカンギレードケンモードを持ち、向かって行く！
アナザーサーヴァント「貴様は邪魔だ！魔王よ！」
ぐ！一撃が重い！剣でこの威力はやばいだろ！
ジオウ「ぐは！」
下から上に上げる用に斜めに斬られて倒れるがジュウモードにして撃つ！
アナザーサーヴァント「は！」
やべ！ジカンギレードが！ぐは！
ジオウ「いってぇ～」
アナザーサーヴァントはゆっくり歩いてジオウに近付く。
アナザーサーヴァント「死ね！……了解だ。良かったな、命拾いし

て」
剣を振り下ろして俺はやられると思ったがそのまま消えた。
ジオウ「助かったのか？」
???
ウォズ「かくして我が魔王は絶対に存在しないアナザーサーヴァントにどう対象するのか？そしてそこで出会う英雄が我が魔王の前に現れる。」
??????
「あれが仮面ライダージオウ。高田祥平……そして、我がマスターになる者か？……」
ＥＮＤ

第17話約束された勝利の剣／２００４

アナザーサーヴァントは姿を消した……一体なんだったんだ？
ジオウ「撤退した……あいつ、強かったな……」
それと早く元の世界に戻る方法を探さないとな「無事でしたか？」
アリナさん？
映司「あの敵は？」
ジオウ「撤退…しました。」
彼は変身を解除して暗い顔をしてそう言った。何があったんだ？
凛「それより、あのサーヴァントが現れたって事はかなりやばいわよ」
凛ちゃんは携帯を取り出してなんかのリストを開いた。そしたらとんでもない事が分かった。
映司「仮面ライダー達がほとんどやられてる！」
祥平「俺と映司さんだけ…それっていきなり過ぎませんか？」
確かにだ。だけど俺達仮面ライダーを消すのって財団X？もしくはショッカー達か？いやでも……
祥平「映司さん、何か来ます。」
俺は指を差し、映司さんに教えた。
映司「あれは……！、さっきの怪人！それに仮面ライダー達皆！」
そこに現れたのは仮面ライダークウガから歴代のレジェンドライダー達とアナザーサーヴァントがこっちに近付いて来た！
アナザーサーヴァント「お前達は此処でやられてもらう。元の世界などに返さない！永遠に聖杯ライダー大戦で戦って貰う！」
そんなの勝手すぎるだろ！悪いがやられてたまるかよ！
映司「俺達仮面ライダーは戦いの道具じゃない！」
祥平「人々の自由の為に戦う者だ！」
２人『変身！』
俺と映司さんは仮面ライダーになり、アナザーサーヴァントに向かって行くのだが仮面ライダー達が邪魔をして来る！
ジオウ「永夢先生！目を覚まして下さい！ぐ！」

俺はそのまま上に向かって蹴り上げられて他のライダー達の攻撃を喰らう。
エグゼイド「まだまだ終わってないぞ！」
武器でやって来るが俺はジカンギレードケンモードで防ぐが後ろからも喰らう！
ブレイド「これでも喰らえ！」
『スラッシュ！』
カードを読み込み、武器にそのエネルギーがいき、そのまま来る！
ブレイド「らぁ！」
ジオウ「ぐあああああ！」
俺は上から斬られて吹っ飛ぶ！
オーズ「祥平君！ぐ！止めて下さい！皆さん！」
説得するがダブルのパンチが来た！
ダブル「はぁ！」
オーズ「うわあああああ！」
オーズから変身が解けてしまった！
ジオウ「映司さん！このぉ！退いて下さい！」
『フィニッシュタイム！』
俺はそのまま走って行く！
『ジオウ！ギリギリスラーッシュ！』
そしてそのまま仮面ライダー達を連続で斬って行くがまだ残ってる仮面ライダー達の攻撃が激しかった！
『ファイナルベント！』
『エクシードチャージ！』
『キック！サンダー！マッハ！ライトニングソニック！』
『1・2・3！「ライダーキック…」ライダーキック！』
『ウェイクアップ！』
『ファイナルアタックライド…ディディディディケイド！』
『ジョーカーマキシマムドライブ！』
『ロケット！ドリル！リミットブレイク！』
『チョウイイネ！キックストライク！サイコー！』

『ソイヤッ！オレンジスカッシュ！』
『ヒッサーツ！フルスロットル！スピード！』
『ダイカイガン！オレ！オメガドライブ！』
『ガシャット！キメワザ！マイティクリティカルストライク！』
皆『はぁぁぁ！』
このままで終わりなのか……くそ、ごめんな、森夏。俺、死ぬかもしれない。今までありがが『フルチャージ！』『レディゴー！ボルテックフィニッシュ！』え？
２人『はぁぁぁ！』
２人の仮面ライダーが相手の平成仮面ライダー達を蹴り飛ばした！
祥平「え？貴方達は？」
後ろを振り向いたら久し振りだった。
???「俺を忘れるとはな、あの時以来だな。」
赤と青の仮面ライダーはビルドだった！凄い久し振りだ！それよりこっちは？
???「俺達は初めてだな。まぁ、仮面ライダー電王だ。それよりこいつらは俺達に任せろ！おい！オーズ！まだやれるか！」
全くいつも通りだね！だけど！やれるに決まってる！
映司「当たり前ですよ！変身！」
『タカ！クジャク！コンドル！タージャードルー！』
映司さんは赤いコアメダル３枚の組み合わせで変身した！
オーズ「祥平君はあのアナザーサーヴァントを！」
電王「俺達はこいつら相手だ！行くぜ！行くぜ！」
ビルド「はぁぁぁ！」
３人は仮面ライダー達を相手にして俺はアナザーサーヴァントに向かって行く！
オーズ「は！翔太郎君！フィリップ君！皆！今すぐ、元に戻すからね！」
タジャスピナーを開いてコアメダルを装填し、スキャンした！
『タカ！クジャク！コンドル！ギン！ギン！ギン！ギン！ギガスキャン！』

オーズ「はぁぁぁ！せいやーー！」
ダブル、フォーゼ、ウィザード、鎧武、ドライブに向かって不死鳥の用になり、突進を喰らわせた！
電王「おら！てめぇら！それでも仮面ライダーか！」
デンガッシャーソードでクウガ、アギト、龍騎、ファイズ、ブレイドを斬り、パスを出す！
電王「俺の必殺技パート3！ストレート横斬りぃーー！」
更に後ろから来ていた残ってる仮面ライダー響鬼、カブト、キバ、ディケイドに必殺技を喰らわせて吹っ飛ばす！
ビルド「はぁ！エグゼイド！思い出せ！あんたは俺に言っただろ！ノーコンティニューで世界を守れって！それがどうして敵に操られてんだよ！」
そのまま蹴り飛ばしフルボトルを一本を降る！
『レディゴー！』
ゴリラフルボトルを装填し構える！
ビルド「あんたの運命はあんたのもんだろ！」
『ボルテックブレイク！』
上から下に斬る用に振り下ろしてエグゼイドは吹っ飛ばすがゴーストが残っていた！
ゴースト「はぁ！」
ガンガンセイバーを防ぐが蹴りで吹っ飛ばされる！
ビルド「ぐ！なら……こいつだ！ビルドアップ！」
『しゅわっと弾ける！ラビットタンクスパークリング！イエイ！イエー！』
ビルド「行くぞ！」
ラビットタンクスパークリングフォームになりゴーストにパンチとキックをする！
ビルド「ゴースト！あんたも誰かの命が消えるのを見たくないだろ！思い出せよ！命の大切さをしった仮面ライダーなんだろ！うぉーらぁーー！」
強力なパンチでゴーストを吹っ飛ばし、気絶をさせた。

ビルド「後はお前次第だ……仮面ライダージオウ、いや高田祥平……」
アナザーサーヴァントと交戦中のジオウはやはり苦戦をしていた！
アナザーサーヴァント「どうした？もう終わりか？」
そこで倒れていたのはジオウだった！
ジオウ「あ！ぐ！まだ…終わって……ない！」
『フィニッシュタイム！』
ジオウ「はぁ！」
大きくジャンプしドライバーを回転させる！
『タイムブレーク！』
ジオウ「おりゃーー！」
タイムブレークを決めるが手で押さえられていた！
アナザーサーヴァント「ん？この程度か！」
黒いエクスカリバーがジオウを追い詰める！
ジオウ「ぐあ！……あ…」
こんな所で終わらせたくない……だけどこんなんじゃ…森夏に笑われる！
ジオウ「負けるか！俺は絶対に元の世界に戻る！だからこんな所で負けられない！」
『ジュウ！』
ジカンギレードをジュウモードにして攻撃をまたする！
アナザーサーヴァント「そんな小細工が通用すると思うな！」
黒いエクスカリバーで払い除けるがそれが狙いなんだよ！
『ケン！フィニッシュタイム！』
ジオウライドウォッチをジカンギレードに装填してそのままケンモードにして向かって行く！
アナザーサーヴァント「な！」
これでどうだーー！
『ジオウ！ギリギリスラッシュ！』
そのまま身体のど真ん中を貫いてアナザーサーヴァントは倒れる

！
アナザーサーヴァント「ぐ！ば！馬鹿な！ぐあああああ！」
良しこれで倒せ「ふ！」ぐは！
ジオウ「な！何でだ！倒した筈！……！、そうか！同じ力を持つウォッチじゃないと倒せない！ぐ！」
黒いエクスカリバーで俺の肩を刺しやがった！くそ！
アナザーサーヴァント「お前は此処で終わる！」
このままで終わらせられない！
ジオウ「終わらせねぇよ！」
ジカンギレードケンモードで防ぐが左肩が上手く使えないから力が入らない！ぐ！このままじゃ……『貴方はなんの為に戦いますか？』え？声？
???
???『もう一度聞きます。貴方はなんの為に戦いますか？』
俺は……俺は！仲間を！皆を！救う為なら俺はこの命をかけて守りたい物がある！
???『そうですか……それならアリナから渡されたウォッチを……』
え？これを？
???『はい……はぁぁぁ』
ウォッチが光った！これって……
『アルトリア！』
???『これからは貴方をマスターと呼ばせて頂きます。』
そして視界が元に戻った！ぐ！
ジオウ「退くんだぁぁぁ！」
『フィニッシュタイム！タイムブレーク！』
そのままキックでアナザーサーヴァントを吹っ飛ばす！
アナザーサーヴァント「だから倒せないって分かってるんだろ！」
そうだが！このウォッチを使わせて頂きます！
『アルトリア！』
アナザーサーヴァント「な！それは！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！アーマータイム！行きます

！アルトリアー！』
後ろ腰ベルトからはマントが出ていて、胸アーマーはアルトリアの鎧の銀になっている。肩のアーマーには聖剣エクスカリバーが取り付けられていて顔にはアルトリアと針の真ん中からには頭のあれです。
ジオウ「これは……負ける気がしない！」
ジカンギレードを右手に持ち、アナザーサーヴァントにダメージを与える。
アナザーサーヴァント「ぐ！何故その力を持っている！」
身体から光の粒子が出ていた。
ジオウ「この力は託されたんだ。守る為に振るう力だ！」
俺は更に斬り、更に貫く用に攻撃をし、アナザーサーヴァントは怯んだ。
『フィニッシュタイム！アルトリア！』
アナザーサーヴァント「させるかーー！」
そのまま黒いエクスカリバーを手に持ってこっちに来るが俺はドライバーを回転させる！
『エクスカリバー！タイムブレーク！』
ジオウ「これで終わりだ！はぁぁぁ！」
上から振り下ろして、アナザーサーヴァントを真っ二つにして爆発した。
ジオウ「これで終わったのか？」
俺の身体は光り始めた。もしかしてもうこのまま帰るのか？
……アリナさん、凛さん短い間だったけどありがとね。君達の事は忘れない、必ず。そしてそのまま俺は目を覚ました。
元の世界
森夏「祥平！」
うおっと、森夏？って事は元の世界に戻ったらしいな。「大変なの！」え？何？
森夏「これ見て！」
え？小さな子供？ん？この特徴的な髪型は六花さん！

祥平「え！何で六花さんが子供になってるの！てか勇太や姉さんも！」
森夏「実はこれ見て」
俺は森夏からスマホの画面を見るがなんだこいつ？てるてる坊主？それにしては変な顔だな？
???「頂戴……」
！、こいつって森夏が見せた写真の黒いてるてる坊主！
???「お前の頂……戴！」
いきなりかよ！ちっ！
祥平「何者なのか知らないが皆を元に戻して貰うぞ！」
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
俺はジカンギレードを持って、黒いてるてる坊主に攻撃をするが弾き落とされる！
ジオウ「が！…は！…」
不味い！あれは！
森夏「祥平！」
あれはさっきの！不味い！
???「お前の輝く記憶貰う！」
口から光線を撃って来たが森夏が前に出て来た！
ジオウ「森夏ーーー！」
駄目かと思ったがてるてる坊主を吹っ飛ばした！
???「また暴れてるなんて、一体どうしたの！ミデン！」
いきなり現れたピンクの服と髪の女の子があのてるてる坊主にミデンと言った彼女は何者なんだ？
???
ウォズ「かくして、我が魔王の前に現れた女性はミデンと言うてるてる坊主を知っているのだが果たして彼女は何者なのか？」
ＥＮＤ

第１８話闇の支配そして倒せない敵！

あの女の子は何者なんだ？
ジオウ「森夏！大丈夫か？」
森夏「うん、何とか、それよりあの子は一体何者なの？」
分からないがあの敵を知ってるんだろうな。聞いて見ないと分からないな。
ミデン「またお前かぁ！喰らえ！」
またプリキュア達の技を使うの！
ミデン「ストライクベント！」
腕に赤い龍が取り付き火を吐いた！
ジオウ「あれって……まさか！」
俺は油断をしてしまった。あの手に着けてた物を見た事があるからだ！
ミデン「お前の記憶を寄越せ！」
ぐ！この腕力！やべぇだろ……そっちがその気なら！
『アルトリア！アーマータイム！行きます！アルトリアー！』
え？何あのウォッチ！こっちでいなくなったと思ったら……別の世界を救ったのかな？相変わらずだね、祥平は……
ジオウ「はぁ！」
凄い！剣を降っただけでミデンを弾いた！って逃げられた！
ジオウ「おい！君！」
あ、呼ばれてる！
???「何でしょうか？」
ジオウ「一体あれは何？もう行っちゃったけど？」
あぁー！そうだったー！でもあの変な穴を通って来た訳でもないけど、この世界の人達に迷惑は掛けられないし、どうしたら……え？変身解除した！
祥平「ふぅ、それより姉さん達がやられるなんて、あの黒いてるてる坊主は何者なの？」
俺はそう聞いたのだがなんか言いにくいのかな？

???「実はあのてるてる坊主、ミデンは私達プリキュアの記憶を奪ってました。けど、最初は事情をしらなくて皆の記憶を取り戻す事を考えてました。ですが、ミデンはずっと使われなかったカメラだったんです。」
森夏「ちょっと待って！それってあれはお化けとして出て来たの？」
うーん、ややこしくなるが多分それで良いのかな？
???「はい、多分そうです。あ！遅くなりましたが自己紹介を！」
そう言えばそうだった、すっかり忘れてた。
祥平「俺は高田祥平。さっき変身してたのは仮面ライダージオウ。よろしく」
森夏「私は凡生谷森夏。よろしくね」
???「私はこの姿ではキュアエールで本当の姿での名前は野乃はなです！よろしくお願いします！」
そう言って姿が制服姿に戻ってって、え？もしかしてこの子も変身だったのあれ！世界って広いなぁー……
祥平「それよりあのミデンはあの時に仮面ライダーの力を使ったんだけど、もしかしてその仮面ライダーからの力を奪ったって事になるの？」
はな「はい、私の仲間もそんな風に小さくされました。」
そうなるとやっぱり凄い厄介だな、仮面ライダー達の力を元に戻さないとな。
その頃、他の仮面ライダー達も記憶を奪われてしまったとウォズが教えてくれた。
高田家
祥平「仮面ライダー達が全滅するなんて……」
あの世界での仮面ライダー達は一緒に戦えなかったけど今回はまた仮面ライダー達が巻き込まれるなんて！
森夏「大丈夫……祥平は1人じゃないから」
森夏……
はな「ミデンやその仮面ライダー達も救いましょうよ！」

はなさん……だな！俺らしくないな！「えっと君が高田祥平君かな？」え？誰？

???「僕は野上良太郎。この騒ぎを駆け付けたんだ。」

ウォズ「黒いてるてる坊主の正体はカメラのお化けミデンであったが仮面ライダー達がほとんど全滅したと思ったがあの野上良太郎が現れた。」

ＥＮＤ

第１９話寂しさの解り合い２０１８

高田家
良太郎「君が高田祥平君？」
いきなり現れた男は俺を知ってるのか？
良太郎「僕は野上良太郎。実はあの黒いてるてる坊主を調べていて大変な事が解ってここに来たんだ。」
野上良太郎？え？黒いてるてる坊主を調べに来たのか！
祥平「大変な事って何ですか？それに何で俺の名前を知ってるんですか？」
俺は２つその事を聞く。
良太郎「そこは順に追って話すよ、まず名前についてはこの人に聞いたんだ。」
この人に聞いたって、俺、そんなに有名なの？
???「お前が魔王か？」
え？いつの間に！
はな「え？この人誰！それに何処から来たんですか！」
はなさんが驚くのも無理ないと思うが驚きすぎでしょ。
良太郎「この人は門矢士さん。」
良太郎さんが紹介してるがこの人写真撮ってるし
士「お前が魔王になる男なのか？」
祥平「え？はい、そうですが…」
俺はそう答えるがいきなりそんな事を言われた。
士「お前じゃあ、無理だな。」
祥平「は？」
森夏「どういう事よ！祥平が魔王になれないって！」
士「言葉の通りだ。」
やはりこいつじゃあ、まだ無理そうか？だが俺の計画にはどうしても必要な事があるからな
良太郎「士さん、それより」
士「ああ、あのミデンとか言う奴はお前と似た黒いウォッチを入れ

られ、俺達仮面ライダーの記憶を奪おうとしたが、俺と野上良太郎は他のライダー達に助けられて、今こうしてお前に伝えに来たんだ。」
黒いウォッチ？まさかアナザーライダーなのか？いやだが、あれは一体なにで？
はな「あ！そう言えば！あの時、このカメラが消えたんです！」
はなさんはスマホを取り出して写真を見せる。
祥平「これは？」
はな「あの黒いてるてる坊主ですけど、元はこのカメラから生まれたんです！それでミデンがカメラに戻ってから1週間たったらいつの間にか消えてました。」
森夏「それだったら！あのミデンを倒して皆を元に戻せれば！「それは不可能だよ」ウォズさん？」
いきなり現れたな、ウォズの言葉はどういう事だ？
ウォズ「あのミデンとか言う者をどう倒すと言うのだい？それに我が魔王よ。野上良太郎そして門矢士。君達が協力して倒せば何とかはな「駄目だよ！そんなの！」……」
いきなりはなさんがウォズに怒鳴った。
はな「ミデンは確かに貴方達にとっては倒す敵なのは分かるけど！ミデンだって本当はこんな事しない！」
……確かにそうかもしれないが一体どうすれば
ミデン「みーつーけーたー！」
な！いつの間に！
はな「ミデン！もうこんな事をするのを止めて！」
説得しようとしてるのか……
ミデン「うるさいな！僕には記憶があれば良いんだ！使われなくて！寂しかった僕の気持ちなんか！お前に分かるもんか！」
な！不味い！ここで暴れられたら！何だ！この光は！
謎の空間
祥平「場所が変わった？」
周囲を見渡すとはなさんは変身してミデンを止める為に戦っていた！

士「それよりあのミデンを止めるんだろ？」
良太郎「そうですね、モモタロス行くよ。」
２人はベルトを出して腰に巻き付けるが俺は付けなかった。
森夏「祥平どうしたの？」
祥平「ミデンが言っていた。使われなくて……寂しかった僕の気持ちなんかって言葉は何か他人とは思えない。士さん！良太郎さん！待って下さい！」
俺は２人の変身を止める。
士「何だ？倒すんだろ？」
良太郎「どうしたの？」
俺は２人の前に出て振り向いて言う。
祥平「あのミデンと話しをさせて下さい。俺にはどうしてもあの言葉と気持ち、俺にも分かるんです！だから俺はミデンと話し合いをしたいです！お願いします！」
こいつただ、魔王になる奴だと聞いたがもしかしたら可能性はありそうだな、試して見るか。
士「だったら俺達はここで待ってやる。だが駄目だったらあのミデンを倒させて貰うぞ？」
士さん……
良太郎「僕達は凡生谷さんを安全な場所に運ぶから任せるよ」
良太郎さん……ありがとうございます！
祥平「それならこれを」
バイクと書いてあるウォッチを変形させ、そのまま乗ってミデンの所に向かう！
ミデン「ああ！来た！」
キュアエールになってるはなは吹き飛び体勢を整える！
キュアエール「なんで変身しないで生身で！」
バイクで進んで行くがミデンがこっちに来やがった！
祥平「ミデン！止めるんだ！他人の記憶を奪っても何もならないぞ！」
俺はそのまま左に曲がるがミデンはそれを追い掛ける！

ミデン「お前の輝きを寄越せーー！アドベント！」
げ！ドラゴンを出しやがった！
ドラグレッター『がぁぁぁぁぁ！』
火の玉を吐き出して攻撃をしてくる！
祥平「やべ！」
火の玉を避けられねぇ！くそ！
キュアエール「はぁぁぁ！」
火の玉を蹴りで吹き飛ばした私は祥平さんの前に立つ！
祥平「はなさん！」
キュアエール「私もミデンを助けたい！だから！手伝いをさせて下さい！」
はなさん……君は優しいな、でも今だけは……
祥平「だけど、俺に任せてくれないか？ミデンの1人だった気持ちは俺にも分かるんだ。悲しい思いも捨てられた事も！俺はミデンを他人だと思えない！」
俺はジクウドライバーとジオウウォッチを取り出す。
ミデン「魔王の力……それを「ミデン！」なんだい？」
俺はバイクから降りてジクウドライバーを着ける。
祥平「俺はお前の寂しい気持ちは分かる！だけど！人の記憶を奪っても本当の自分には慣れない！だから！ミデンの笑顔を取り戻す！」
『ジオウ！』
ジオウウォッチをドライバーに入れて俺はジクウドライバーを回転させる。
祥平「変身！」
『ライダータイム！』
ミデン「させない！鬼火！」
炎の玉が来るが俺はそこから動かなかった。
森夏「祥平！」
煙で見えないけど絶対に祥平は死なない！
『仮面ライダージオウ！』
煙の中から出てきたのはジオウになった祥平だった。頑張って祥

平……。
ジオウ「はぁぁぁ！」
『ジカンギレード！ケン！』
俺は火の玉を弾きながらミデンに近付いて行く！
ミデン「これならどうだ！サンダー！」
手から電撃をこっちに狙って来るがそれを避けて行くが結構厄介だ！
ジオウ「うおっと！」
電撃とか卑怯だろ！いで！
ジオウ「だったら！」
『ジュウ！』
ジカンギレードをジュウモードにしてミデンの手を狙って射つが当たらねぇ！
ジオウ「もう！これはどうだ！」
『ケン！フィニッシュタイム！鎧武！ギリギリスラッシュ！』
ジカンギレードをケンモードに鎧武ウォッチをはめて、ミデンに攻撃をする！
ミデン「ぐあ！良くもやったなぁー！」
どす黒いオーラ出してんな！何とかして正気に戻す！「まだ！来ます！」な！しまっ！
ミデン「くたばれぇー！」
間に合わない！くそ！
???「おりゃあー！」
いきなり叫ぶ人は炎の右足でミデンを蹴り飛ばした！
ミデン「ぐあ！」
そのままミデンは地面に倒れてしまい、赤い戦士はこっちを振り向くが俺は聞く。
ジオウ「貴方は？」
こっちに歩いて来た。
???「俺かい？俺は五代雄介。そして君と同じ仮面ライダーだ。君が魔王って人かい？」

ジオウ「え！何で知ってるの！」
クウガ「ちょっと噂を聞いて来てみたんだ、さぁ、ミデンの笑顔を取り戻そう。」
そう言って雄介さんは親指を立ててサムズアップをする……
ジオウ「やりましょう！」
後ろから士さんと良太郎さんがベルトを手に持ちながら来る。そしてはなさんも一緒に来ていた。
良太郎「僕達、仮面ライダーは誰かの助けがあれば助ける。何があろうとも」
士「俺も付き合ってやるよ」
そう言って２人はベルトを付ける！
良太郎「モモタロス行くよ！変身！」
『ソードフォーム！』
士「変身！」
『カメンライド！ディケイド！』
２人は仮面ライダーに変身をし俺の隣に並ぶ
キュアエール「ミデンを元に戻すよ！フレー！フレー！皆！フレー！フレー！私！」
その掛け声でミデンの所に走り向かう！
ミデン「僕の邪魔をするなーーー！ステージセレクト！」
な！場所が変わった！それにステージセレクトってゲームに関しての事だよな？それならあれだ！
『エグゼイド！アーマータイム！レベルアップ！エグゼイド！』
ジオウ「ノーコンティニューで行ける気がする！はぁ！」
俺はジャンプし攻撃をするがやはり強い！
電王「俺達は最初から最後までクライマックスだぜ！あだ！」
回りの石が壊れてそのまま電王にぶつかり倒れてた。
ディケイド「はぁ！」
ライドブッガー銃モードでミデンを撃つ！
キュアエール「ミデン！もう止めようよ！貴方はもう私達と解り合えた筈だよね！それなのに！何で！」

私はミデンのパンチを避けて話しをする！
ミデン「それが！どうしたーーー！」
またドラグレッターが現れた！不味い！
ジオウ「！、はなさん！危ない！」
『フィニッシュタイム！エグゼイド！』
俺はジャンプして火の玉に突っ込む！
『クリティカルタイムブレーク！』
ジオウ「はぁぁ！」
何とかしたがミデン……お前を止めて見せる！
クウガ「超変身！」
赤かれ緑色のクウガに変わり右手に弓矢見たいな武器を手に持っていた。
クウガ「おりゃぁぁ！」
そのまま射つがミデンはすぐに反応した！
ミデン「ガードベント！」
あれを防がれるか……
ジオウ「ミデン……ん？何か形が変わってないか？」
てるてる坊主から人の形に変わり始めたがそれには皆、驚いた！
キュアエール「あれって……」
ジオウ「俺なのか！」
ミデンは俺の姿になり完全に俺であった。
祥平「お前は俺を倒せないさ♪お前は忘れてるからな！」
え？何をだ？俺が何を忘れてんだ？
電王「よく分からねぇがあいつをぶっ倒せば良いんだろ！行くぜ！」
電王が攻撃するが防いでるのか！
祥平「無駄だよ♪電王、俺を倒すのには俺自身しかないんだからさ……だからちょっと邪魔だよ！音撃破！爆裂強化の型！」
右手の響鬼と同じ物を電王に取り付けリズム良く叩きそのまま吹っ飛ばされた！
ジオウ「良太郎さん！ミデン！止めるんだ！「違うよ？」何だと？」

祥平「確かにミデンであるが……まぁ、知らないで死んで貰うから……ね！ストライクベント！」
龍騎と同じストライクベントでそのまま俺を射ってきた！
ジオウ「それでも！」
『ディディディディケイド！カメンライド！ワオ！ディケイドー！』
ジオウ「はぁぁ！」
『ライドヘイセイバー！龍騎！デュアルタイムブレーク！』
俺はライドヘイセイバーで龍騎の力で弾きミデンの方に向く！
ジオウ「ミデン……終わらせよう、こんな事しても俺は悲しいだけだ。誰かの記憶を奪って自分の物にするのは間違ってる、そんなの自分の本当の思い出じゃない！そんなんじゃ輝けない！」
祥平「……うるさい！うるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさいうるさーーーーい！お前だって寂しい思いをした事あるんだろ！自分の存在を否定されたお前なら分かるんだよな！」
ミデンは俺の過去を知ってるのか……
ジオウ「確かにな、だけど、それでもミデンは1度、はなさんに助けられたんだろ？そらでちゃんと使われたんだろ？」
祥平「それはそうだ、大事に使われてたよ！でも怖かったんだよ！また！1人ぼっちになるんじゃないかって！人間は歳をとって行き残された僕はどうなると思う！また1人になっちゃうんだよ！またあんな思いをしたくないよ！」ポロポロ
ミデン……お前の苦しみは分かる、心が痛いよな？また皆に迷惑をかけちゃって辛いよな？誰かと一緒にいたいんだよな？……ミデン！お前を苦しみから助ける！
電王「黙って聞いてればよぉ！『モモタロス、僕自信にやらせて』ん？良太郎？」
良太郎『お願い、モモタロス……』
たく、しょうがねぇなぁ！
電王「だったら全力で頑張れよ？」
『ライナーフォーム！』

ソードフォームから電王の最終フォームライナーフォームに変わりデンカメンソードを持つ。
ジオウ「行くぞ！ミデン！もうこの戦いを終わらせて見せる！はぁぁ！」
俺はライドヘイセイバーを持って進む！
クウガ「はぁ！」
雄介さんは緑色のクウガでサポートしてくれた！
祥平「なら！「遅い！」ぐ！」
ライドブッガーソードモードで右斜めを斬るように攻撃を当てた！
ディケイド「こいつだ」
『カメンライド！ダブル！』
ディケイド「さぁ、行くぜ？」
ディケイドダブルはメタルシャフトを持ちミデンに追い討ちをかけた！
祥平「トリガー！」
右手に青色の銃が現れディケイドダブルを射つ！
ディケイド「く！そんな事も出来るのか！だったら！」
『カメンライド！響鬼！』
祥平「こっちもこれだね？音撃棒……烈火！」
今度は何だあれは！うぉ！
ジオウ「あれ以上は不味い……ミデン！俺が相手だ！」
『ビルド！ファイナルフォームタイム！ビビビビルド！』
ディケイドアーマービルドフォームになり構えるがミデンを止めるにはこれしかない！
一方それを見ている森夏と小さい六花達は小さなミデンに襲われていた！
森夏視点
森夏「こんなのどうすれば……」
もう駄目なんだね、私はここで死んじゃうの？そんなの嫌だけど、私には何も守れる力はない。

森夏「何も出来ないの？「それなら任せな」え？」
小型のミデンを一掃し、こっちに歩いて来た。
???「大丈夫か？」
フードで顔が見えないけど誰？
森夏「貴方は誰？」
私はそう聞くけど……。
???「まぁ、あんまり言えないがこれだけは言っとく、味方だ」
そう言うけど怪しすぎるでしょ？
???「んじゃ、この子らの記憶は戻しといたから、じゃあな！」
え？それってどういう事？
勇太「あれ？ここは何処だ？」
え？富樫君！それに小鳥遊さんも！祥平……お願い、負けないで！
そしてミデンを救って！
視点祥平達の方
ジオウ「ぐあ！」
ディケイドアーマービルドフォームから元のジオウに戻ってしまった！
電王「不味い！」
ディケイド「ちっ！」
クウガ「危ない！」
３人がジオウの前に立つ！
祥平「これで終わりだぁーー！ジョーカーエクストリーム！」
このままじゃ！皆さんが……そんなの駄目だ！ミデンを人殺しをさせちゃいけない！絶対にやらせない！
ジオウ「！、これは!?今はこれに駆けるしかない！」
俺はいきなり現れたウォッチを起動しジクウドライバーに着けて回転させる！
祥平「終わった……終わった！遂に倒した！後は輝きを奪うだけ」
とその時！
『ライダータイム！仮面ライダー！ライダー！ジオーウ！ジオーウ！ジオーウⅡ！』

電王「ジオウの姿が……」
ディケイド「変わっただと？」
クウガ「でも心強い！」
そこに立っていたジオウはジクウドライバーに両方に金と銀のウォッチを着けていた。
祥平「な！何だそれは！僕の記憶には！ぐ！今……何をしたーー！」
いきなりの攻撃で姿が元のミデンに戻った。
ジオウ「ミデン……止めよう、こんな事をしても何も変わらない……」
ミデン「うるさい！お前は寂しい気持ちを知らないから言ってるんだ！」
違う……知ってるから言ってるんだ。誰も必要とされなかったお前の気持ちは痛い程分かる…だから！……もう終わらせよう……
ジオウ「ミデン……ごめんな」
『ジオウサイキョー！』
サイキョーギレードのレバーを上に上げて俺は構える。
ミデン「ふざけるなぁーー！」
お前はアナザーウォッチのせいで……嫌な思いをするかもしれない……ミデン……すまない！
『覇王斬り！』
ジオウ「だぁーーーーーーーーー！」
俺はそのままミデンを真っ二つにしてそのまま倒した。
キュアエール「……ミデン、何で……何で斬ったんですか！」
私はそう言うが良く見たらミデンから黒いウォッチが出て来て壊れた！
キュアエール「ミデン！」
そこには黒いミデンから白いミデンに戻っていたが眠っていた。
ジオウ「良かった…ミデンが無事で」
これで全てが終わった、ミデンを何とか助けられて良かった。でも誰がそんな事を……あれ？いつの間にか俺が使ったウォッチもない。

ディケイド「これで俺の役目は一旦終わりだな、じゃあな、元気でやれよ」
士さん……
電王「君は君の道を進んで行って、後悔のないように」
良太郎さん……
クウガ「君は君の守りたい物、そして笑顔を守るんだぞ！」
雄介さん……
祥平「皆さん…ありがとうございます！」
そのまま3人は時空の壁で帰って行くがはなさんもミデンをおんぶしながらこっちをむく。
キュアエール「きっとまた会えたら会いましょう！」
祥平「ああ！また会えたら会おう！」
俺達はお互い握手をしてそのまま何も言わず振り向いた。俺は森夏の所にはなさんは元の世界に……どたばただったけど、ミデン……頑張ってな！
???
ウォズ「かくして、我が魔王は異世界から来たプリキュアの1人、キュアエールとミデンは帰り事件は解決はしたが……」
ＥＮＤ

第２０話フューチャータイムそして新たなライダー

学校から少し離れた所にあのアナザーライダーがまた現れて俺とゲイツは戦っている。
ジオウ「はぁ！」
俺はジカンギレードケンモードで攻撃をする！
ゲイツ「こいつならどうだ！」
『フィニッシュタイム！』
そのままジカンザックスにゲイツウォッチをはめて構える！
アナザーウィザード「はぁーー！」
走ってこっちに来るがゲイツはそのままユミモードで放つ！
『ゲイツ！ギワギワシューティング！』
そのまま貫いた！
アナザーウィザード「ぐあーー！」
爆発したけど倒せた？
ジオウ「うぉ！まだ生きてる！」
何でアナザーウィザードが現れたのかは不思議だが七宮がまたなったのか？
ゲイツ「ならこいつで終わらせるぞ！」
『ウィザード！アーマータイム！プリーズ！ウィザード！』
ゲイツはウィザードアーマーになったのだが
アナザーウィザード「だったら」
『フォーゼ！』
ゲイツ「姿が！」
ジオウ「変わった……」
『ランチャーオン！』
２人『うわぁぁぁぁ！』
俺達は驚きを隠せなくそのまま別のアナザーライダーの力にやられ、そのまま学校に戻り部活の方に向かった。
祥平「いてぇ、あのアナザーウィザードは白い別のアナザーライダーになって俺達を攻撃して来たけど……ゲイツ、七宮がアナザー

ウィザードを倒したんだよね？」
ゲイツ「ああ、確かに倒した筈だ。だがそれが何故か復活しているのが謎なんだ……」
確かに倒したとは聞いたけど、復活なんてありえるのか？あ、七宮だ。
七宮「にーはおー！魔王ーって、どうしたの！その怪我！」
祥平「実はアナザーウィザードが現れたんだ。」
七宮「え！あれって、あの時、そっちの人がやってくれた筈だよ！私はもうなれないし、それに魔王に攻撃なんてしないよ！」
七宮じゃないとするとまじで誰かがなのか？……
ウォズ「お悩みかい、我が魔王？」
祥平「ウォズ…うん、実は」
ウォズにアナザーウィザードの事を伝えて更に白い別のアナザーライダーの事も伝えた。
ウォズ「アナザーウィザードから別のアナザーライダーに変身した？」
祥平「それって可能なの？」
ウォズ「いや本来ならありえない、だが、それも今、現れてるよ」
俺達は後ろを振り向いたらそこにはアナザーウィザードがいた！
祥平「どうしてここに！」
ゲイツ「そんな事よりやるぞ！変身！」
祥平「分かってる！変身！」
俺達は変身してアナザーウィザードに攻撃をするが魔法がやはり厄介だった。
ジオウ「ウォズ！七宮を安全な場所に逃がして！」
ウォズ「承知した、我が魔王！」
首のマフラーを使いそのまま七宮とウォズは消えていた。
ジオウ「これならやれる！」
『ディディディディケイド！』
ジオウ「おらぁ！」
『アーマータイム！カメンライド！ワォ！ディケイドー！』

ジオウ「行くぞ！」
俺はディケイドアーマーになりライドヘイセイバーを手に持って攻撃をする！
アナザーウィザード「ぐぅ！これを喰らえ！」
鎖！あぶな！
ゲイツ「こいつは早めに倒すぞ！」
『ウィザード！アーマータイム！プリーズ！ウィザード！』
ゲイツはウィザードアーマーになりジカンザックスオノモードで弾いて行く！
ジオウ「はぁ！」
下から右斜めに切り上げ、ゲイツは上から真下に振り下ろす！
アナザーウィザード「が！」
良し！後少し！
ジオウ「フィニッシュだ！」
『フィニッシュタイム！』
ディケイドウォッチをライドヘイセイバーにはめて回転させる！
ゲイツ「ああ！」
『フィニッシュタイム！ウィザード！』
ゲイツは走ってアナザーウィザードの後ろにジャンプをする！
『ストライク！タイムバースト！』
アナザーウィザード「ぐあ！」
そのまま後ろからビッグで大きくした蹴りがアナザーウィザードを吹っ飛ばしジオウの方に飛ばしていた！
ジオウ「はぁぁぁぁ！おりゃぁぁぁ！」
『ディディディディケイド！平成ライダーズ！アルティメットタイムブレーク！』
そのまま吹っ飛んで来たアナザーウィザードを真っ二つにし爆発した。
ゲイツ「今度は倒した筈だ！」
ジオウ「俺もそう思いたい……！、ゲイツ！避けて！」
『ヘイ！ビルド！ビルド！デュアルタイムブレーク！』

俺はライドヘイセイバーのダイヤルの所をビルドにしてそのままミサイルをドリルアタック見たいに消し飛ばしたがまたあのアナザーライダーか！

『フォーゼ！』

ジオウ「あのアナザーライダーって何なの？」

ゲイツ「分からんが来るぞ！」

『チェーンアレーイオン！』

右手から鉄球が2人に飛んで来る！

2人『ぐわぁ！』

これは本当にやばいな……だったら！

『オーズ！ファイナルフォームタイム！オオオオーズ！』

ジオウ「行くぞ！」

ライドヘイセイバーで上から下に振り下ろして斬るがチェーンアレイの鎖で防がれた！

アナザー???「そんなのじゃ倒せない！」

俺はそのまま蹴り飛ばされた。

ジオウ「ぐ！」

ゲイツ「甘く見るなよ！」

『ファイズ！アーマータイム！コンプリート！ファーイズー！』

ファイズアーマーになるゲイツはアナザー???にジカンザックスオノモードで攻撃をする！

アナザー???「このぉ！」

ジオウ「ゲイツ！同時に行くよ！」

ゲイツ「良し！」

『フィニッシュタイム！ファイズ！エクシード！タイムバースト！』

『オオオオーズ！ファイナルアタックタイムブレーク！』

2人はジャンプしアナザーライダーにキックで吹っ飛ばすがまた消えていた。

ジオウ「また逃げられた……」

ゲイツ「これじゃあ、拉致がないぞ」

うーん、でもどうすれば良いんだあのアナザーライダー……取り

敢えず変身解除だな
ウォズ「我が魔王、あの白いアナザーライダーはアナザーフォーゼだ。」
祥平「アナザーフォーゼ？つまりあれは仮面ライダーフォーゼって事？」
ウォズ「その通りだ、そしてあのアナザーフォーゼはアナザーウィザードを同時に倒さないといけない」
同時に？それってどうやって？
ゲイツ「それはどうやれと？それにアナザーフォーゼを倒すウォッチがないだろ？」
祥平「そこ何だよな……その前にアナザーウィザードとアナザーフォーゼになってる人を探して事情を聞こう！」
こいつは相変わらずだな……
ゲイツ「俺はあっちを探す！」
ゲイツはそのまま走って行った……！、ウォズ？
ウォズ「我が魔王に手を出すとは何者だい？」
???「俺はお前を倒す者だ、オーマジオウ」
『ジクウドライバー！』
な！ジクウドライバー！それにあのウォッチって何！
『クロス！』
祥平「まさか！」
???「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダー！クロス！ジカンスラッガー！ロッソ！』
そこにたっていたのはジオウに似ているが目はローマ字でＫＲＯＳＵと書かれていて色は青色になっていてるが肩パーツはＸと書かれていて身体にもＸになっているがそれ以外は一緒である。（武器はルーブスラッガーになりますが名前は変えてます。）
???「クロス…時の勇者仮面ライダークロス……行くぞ！」
祥平「ちょっ！待って！」
いきなりか！なら！

『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダー！ジオウ！ジカンギレード！ケン！』
俺は攻撃を防ぎ話しをしようとしたが
ジオウ「ちょっと話しを聞いてくれよ！」
話しか……聞く気にもならねぇよ！
クロス「はぁ！」
ジオウ「ぐあ！」
そのまま蹴り飛ばされ倒れる！
クロス「ならこいつを使うか…」
『霊夢！』
ん？何だあのウォッチ？
『アーマータイム！博麗の巫！霊夢ー！』
肩パーツには賽銭箱で同体には博麗霊夢と同じ服装のパーツで腰辺りからは赤白いマントが出ていて頭の後ろには博麗霊夢のリボンで顔の文字にはＲＥＩＭＥと書かれている。腕パーツにも巫服のあれである。
クロス「行くぜ！」
ジオウ「え！えぇぇぇぇ！何そのアーマー！ぐぁ！」
何あれ！あんなウォッチ始めて見た！それならこいつで！
『ガイム！アーマータイム！ソイヤッ！ガーイーム！』
ジオウ「巫の相手なら鎧武者ってな！」
お互いは武器のぶつかりが凄すぎて回りが爆発した！
ウォズ「彼の言う時の勇者とはいったい……我が魔王の時空間がおかしくなっているのか？我が魔王のピンチなら私がやるしかない！」
『ビヨンドライバー！』
ジオウ「え？ウォズ何それ？」
ウォズ「もしも我が魔王に何かあったらと思い持って来たんだ。」
まじか！それなら最初からやってほしかったな！

クロス「おいおい、冗談はやめてくれよ…」
『ウォズ！アクション！』
ウォズが持っているウォッチは俺のと違う！
ウォズ「変身…」
『投影！フューチャータイム！凄い！時代！未来！仮面ライダーウォズ！ウォズ！』
ウォズの姿は銀色と黄緑色の仮面ライダーになった！
ウォズ「　祝え！過去と未来を読み解き、ただしき歴史をしるす預言者。その名も仮面ライダーウォズ！新たなる歴史の１ページである！」
ジオウ「それは言うんだな……でも何かいける気がする！」
俺とウォズはクロスに攻撃を仕掛ける！
クロス「ふ！ぐ！」
こいつら……だったらこいつで！
『キリト！アーマータイム！リンクスタート！キリトー！』
頭にキリトの黒髪にロングコートを着た感じになり肩にはナーヴギアで顔の文字にはＫＩＲＩＴＯと書いてある
ジオウ「何だ！あれ！」
ウォズ「もしかしたら……彼が使っているウォッチは我が魔王が使う歴代の仮面ライダー達とは別に歴代のアニメ戦士達の力を使っているかもしれない！」
それってずるくない？ん？でも仮面ライダーじゃないウォッチなら俺も！
アルトリア『マスター私が出ます！』
アルトリア？え？アルトリアが俺の中に入る感じかな？
アルトリア『確かにそんな感じになります！マスターの使う普通のウォッチとは違うのでアーマータイムをして下さい！』
そこまで言うなら分かった！
『アルトリア！』
クロス「な！お前！そのウォッチは！それを渡せ！」
ジオウ「それは断るぜ！」

『アーマータイム！行きます！アルトリアー！』
クロス「アルトリア・ペン・ドラゴン……セイバーのウォッチを何故そんな魔王に託したんだ？」
ジオウＡ「彼からは心強くて優しい性格の持ち主です、貴方はどうしてその力を使っているのですか？」
俺は確かに絆を否定したがある奴の為にやると決めたんだ、だから
クロス「絆を信じてくれる奴の為に戦うって決めたんだ！だからオーマジオウになる今のジオウを倒せば、未来は変わると思って来た！だが……オーマジオウ、お前の存在が邪魔をしている！」
ジオウＡ「マスターは心優しい持ち主です……身勝手な貴方には解りません」
ならウォッチは無理に取らせて貰うしかない！
クロス「だったらパワーでぶつかる！」
『響！アーマータイム！へいき！へっちゃら！響ー！』
顔の文字が英語でＨＩＢＩＫＩになり腕にはロケット形状のガングニールが取り付けられていて足アーマーの所にジャッキが付いていて身体のアーマーは響と同じガングニールのスーツの色になっていて肩にはシンフォギアペンダントが付いている。後ろの肩からマフラーが出ている。
ジオウＡ「それは……成る程、貴方は絆を守る為なんですね」
クロス「そう言う事だからオーマジオウは排除しないと魔王が支配する世界になっちまうんだ！」
祥平『俺が…オーマジオウ？』
ジオウＡ「！、精神が安定しな！」
アルトリアアーマーから元のジオウに戻りウォッチはクロスの方に飛んでしまった！
ウォズ「我が魔王！」
『ジカンデスピアー！ヤリスギー！』
ウォズは武器を取り出してクロスに攻撃を仕掛ける！
クロス「は！」
ロケット形状のガングニールがウォズの身体に強力なパンチをす

る！
ウォズ「ぐ！このパワーは厄介だ」
ジオウ「俺は良い王様になるんだ……魔王にはならない！」
クロス「口では言えるが本当に出来んのかは解らないだろ？」
……確かにそうだが……それでも！
ジオウ「俺はそう決めたんだ！どんなに否定されても！信じてくれる仲間が俺にはいるんだ！」
『ディディディケイド！』
クロス「あれはなんだ？」
ジオウ「ふっ！」
『アーマータイム！カメンライド！ワォ！ディーケーイードー！ライドヘイセイバー』
ジオウはディケイドアーマーにライドヘイセイバーを手に持ってクロスに反撃を始める！
ウォズ「流石は我が魔王だ、私も共に！」
ジカンデスピアーを持ってウォズも一緒に反撃を始める！
クロス「だが！その程度じゃ！ぐぁ！」
ジオウの攻撃を防いで攻撃をするのだがジオウの後ろから瞬時にウォズが現れて攻撃を受けてしまう！
ジオウ「ウォズ！ナイス！」
ウォズ「ありがたき言葉だよ我が魔王」
こいつらのコンビネーションは厄介だが本当にベストマッチしてんな
ジオウ「アルトリアのウォッチを悪いけど返してくれ、そいつは本当に大切な物なんだ」
クロス「……なら1つ質問に答えろ」
ジオウ「なんだ……」
クロス「お前は本当にオーマジオウにはならないんだな？」
俺はもう一度同じ質問をする。
ジオウ「言った通りならない」
そうか……こいつなら大丈夫なんだな

クロス「ほらよ！」
アルトリアウォッチを投げてきたが俺はキャッチをする！
ジオウ「おっと「俺は帰る」え？」
『タイムマジーン！』
そのまま仮面ライダークロスはタイムマジーンに乗る
クロス「お前が最低最悪な魔王にならない事を祈ってるからな、そのまま頑張れよ」
そのままタイムマジーンに乗って帰っていき俺とウォズは変身を解除する。
祥平「ねぇ、ウォズ、さっき変身したのって」
ウォズ「あれは仮面ライダーウォズ、別の未来での私が変身していた仮面ライダーだ。」
え？それって取ったのか？
祥平「もしかして盗んだとか？」
ウォズ「盗んではないよ、託されたんだよ、君みたいな者は見たことないんだ。」
俺みたいなのを見たことない？それってどういう訳だ？
祥平「ウォズ、それってもしかしてこの世界は」
次の瞬間、後ろから凄い気配がして振り向いた！
???「貴様は知らなくて良いぞ、若き私よ」
いきなり現れた金色のライダーが現れた、え？若き私？
祥平「お前は何者だ！」
???「私か？私はオーマジオウ、そして高田祥平でもある」
祥平「な！」
これは厄介な事になったね
オーマジオウ「ウォズよ、お前はゲイツとやらの所に向かうんだな、若き私と話しをする」
ウォズ「承知しました、我が魔王」
ウォズはそのまま姿を消し、オーマジオウと2人になった
オーマジオウ「懐かしいな、若き私を見ていると必死に王になる事をそしてウォッチを集めた事も……」

嘘だ、俺はオーマジオウに何か……なんで…
祥平「何でオーマジオウ何かになったんだよ！」
オーマジオウ「そう言う事も言っていたな、でもこれが現実だ」
信じたくない、俺が！俺が！オーマジオウに！最低最悪の魔王になるなんて！
祥平「ふざけるなぁ！」
『アーマータイム！カメンライド！ワォ！ディーケーイードー！ライドヘイセイバー！』
怒りに任せての変身か、それも懐かしい……だがそれも無意味だ。
ジオウ「こいつで！」
『ヘイ！クウガ！』
ライドヘイセイバーのレバーをクウガの所まで回転させオーマジオウに放つ！
『クウガ！デュアルタイムブレーク！』
ジオウ「おらぁ！」
クウガの古代の紋章をオーマジオウに攻撃をするのだがオーマジオウは1つのウォッチを起動した！
『クウガ！』
オーマジオウ「ふ……はぁ！」
クウガの紋章をオーマジオウが止めてそれを蹴り返した！
ジオウ「うわ！このだったら！これだ！」
『ヘイ！キバ！キバ！デュアルタイムブレーク！』
今度はキバの力で金色のコウモリが現れオーマジオウに向ける！
『キバ！』
オーマジオウは別のウォッチを起動させ金色のコウモリは黒赤いコウモリに変わりジオウの方に攻撃を跳ね返る！
ジオウ「ぐぁぁぁ！」
つ、強い……だけど負けられない！
『ヘイ！龍騎！龍騎！デュアルタイムブレーク！』
ライドヘイセイバーは炎の剣になりジオウは走って近距離で攻撃をしようとする。

『龍騎！』
また別のウォッチを起動し今度は赤いドラゴンが火の玉を射ちジオウは倒れるが立ち上がるのだが赤いドラゴンは体当たりをしてきてジオウはまた倒れる！
ジオウ「ぐ！くそ…強い」
オーマジオウ「若き私よ、今のお前では私を倒すのは不可能だ」
あれが未来の俺だと言うのか……俺はそんなの！
ジオウ「認められるかぁ！」
『フィニッシュタイム！ディケイド！』
ジオウ「これならどうだ！」
『アタック！タイムブレーク！』
ジオウ「はぁぁぁぁぁぁ！」
そのままディケイドと同じディメンションキック見たいなのをオーマジオウに放つ！
オーマジオウ「無駄だ……ふっ！」
な！動けない！時間を止められたのか！
オーマジオウ「言った筈だ、今のままでは勝てんと」
『ダブル！』
緑と黒の竜巻がジオウに直撃し吹っ飛んだ！
ジオウ「うあああああああ！」
その勢いで変身は解けてしまい倒れる
祥平「あ！ぐ！」
やっぱり強いな……くそ、このままオーマジオウになるのかよ、未来の俺は……そんなの嫌だ！
オーマジオウ「これでお前は終わらない筈だ」
過去の若き私はこれで更に成長をする、その為にもこいつを
オーマジオウ「若き私よ、このウォッチを渡そう、これでお前は王に近付く筈だ」
謎のウォッチを1つ俺の前に置き、そのまま消えた。
祥平「このウォッチは……」
俺はそのまま気絶をしてしまうがこのウォッチは何なのか

『クロスジオウ』
END

第２１話青春スイッチオン！２０１１そしてオーバークロス！

高田家
俺は数時間前にオーマジオウにやられて俺は渡されたウォッチを眺めていた。
祥平「……」
オーマジオウ『今のお前では私には勝てない』
祥平「何を考えてんだ！俺は確かに負けた、だけど……最低最悪な魔王に何か絶対にならない」
俺は未来での俺はオーマジオウになっていた事にショックだったけど、絶対に優しい王様になるって再び決心はついたけど……まずはアナザーウィザードとアナザーフォーゼをどうにかしないとな……そう言えば最近アナザーライダーの事ばかりで森夏とあんまり喋ってないな、ちょっと電話でも
祥平「ん？玄関があいた音？姉さんか？」
俺は玄関に向かおうとしたがそこにいたのは黒髪ロングヘアーの白い服を着た女性だけどこの人確か……
???「あの時以来だけど覚えてる？」
そう聞かれたのだが俺は思い出せそうなんだけど……駄目だ、あったと思うんだけど？
祥平「えーと、人違いとかでは？」
???「そんな訳ないわよ！貴方がオーマジオウになる事も知ってるの！それにアナザークローズビルドの時にいたの覚えてないの！」
アナザークローズビルドの時に……ん？確かにいた！この人と同じ……
祥平「あーー！思い出した！タイムマジーンから降りてきた人！」
???「やっと思い出してくれて助かったわ、私はツクヨミ。ゲイツと同じ未来から来たの」
て事は未来人か

ツクヨミ「そして貴方がこれからオーマジオウになる未来が訪れてるの」
ツクヨミさんが俺にオーマジオウになる未来が訪れてると言うけど俺はならない！絶対に！
祥平「オーマジオウに何かにはならない、俺は優しい王様になるって決めてるんだ」
優しい王様？……この人も彼見たいに王様に……
祥平「ん？電話だ、ちょっと出ますので上がって下さいね」
彼は電話を取りに向かうのだけど本当に優しい王様になろうとするの？
祥平「裕太どうした？うん……え！アナザーライダーを見付けた！うん！今すぐ行く！」
俺は電話を切って、そのまま外に出ようとした
ツクヨミ「ちょっと！何処に行くの！」
祥平「アナザーライダーが見付かったからそこに向かう！」
ちょっと！……もう！
裕太達の方
ゲイツ「アナザーウィザードならまだ何とかなるが別のアナザーライダーが厄介過ぎる！」
アナザーフォーゼ「喰らえ！」
『ランチャーオン！』
ゲイツ「ぐあああ！」
右足にランチャーを発射しゲイツは吹っ飛ぶ！
ゲイツ「ぐ！こいつはやばい……」
アナザーフォーゼ「これで終わりだ…」
『チェーンアレーイオン！』
そのまま鉄球がゲイツに止めの一撃が行くのだが
『ジカンギレード！ケン！』
ジオウ「ゲイツ！大丈夫か！おりゃ！」
ジカンギレードで防ぎ弾き返す！
ゲイツ「遅いぞ！」

ジオウ「悪かったが今度は俺が戦うからゲイツは休んでてくれ！はぁ！」
俺はアナザーフォーゼに攻撃をするがこいつの正体がまだ解らない！
ジオウ「あんたは何者なんだ！何が目的なんだ！」
ジカンギレードで防ぐがこいつの攻撃は止まらない！
アナザーフォーゼ「解らないだろう？だが俺は覚えてるぞ？高田祥平！」
ぐ！こいつ……俺を知ってるのか？
ジオウ「だったら教えてくれ！」
アナザーフォーゼ「教えるとでも思ったか？この王様野郎が！」
『スパイクオン！』
右足に刺が現れそのまま諸に蹴られる
ジオウ「ぐ！ならこいつで！」
『オーズ！アーマータイム！タカ！トラ！バッタ！オーズ！』
ジオウ「はぁ！」
右手のトラクローで攻撃をするがあっちも紫色のクローをつけていた！
アナザーフォーゼ「お前のやり方は知っているんだよ！」
『チェーンソーオン！』
ジオウ「ぐ！」
左足にチェーンソーが現れ上から下に振り下ろす用にかかと落としで追い討ちを喰らう！
アナザーフォーゼ「どうした！このままじゃ王様になれないぜ！」
ジオウ「ぐ！」
足のチェーンソーが厄介だな！
ジオウ「それなら！」
『ガイム！アーマータイム！ソイヤッ！ガーイーム！』
アナザーフォーゼ「無駄なんだよ！」
『ハンマーオン！』
な！ハンマーかよ！結構めんどくさいな！ぐ！しかも！お！重い

し！
ジオウ「流石にこのままだと……」
???「ライダーロケットパンチ！」
俺がもう駄目だと思ったその時アナザーフォーゼを吹っ飛ばした！
ジオウ「貴方は？」
???「あんたが王様か？」
え？何で知ってるの!?それより白い仮面ライダー？……もしかして！
???「俺は仮面ライダーフォーゼ！全てのライダーとダチになる男だ！」
更に森夏達も来てた。
森夏「祥平！その人は仮面ライダーフォーゼ！如月玄太郎先生よ！」
え？……
ジオウ「せ！先生！なの！」
フォーゼ「そんな事より！聞いたぜ！お前のでっかい夢は応援するぜ！」
何か……凄い人だな……
ジオウ「それなら先生！一緒に頼みますよ！」
フォーゼ「おう！」
その時、オーマジオウから渡されたウォッチが急に光り出した！
『クロスジオウ！』
ジオウの顔であるがＲＡＩＤＡとシアンブルーで書いてある。
ウォズ「我が魔王よ！継承を！」
いきなり現れたウォズはいつもよりテンション高いので現れた……
ジオウ「ウォズのテンション高いな、だけどそうさせて貰うぜ！」
『クロスジオウ！』
俺はジオウウォッチを外してクロスジオウウォッチを入れてドライバーを回転させる！

『ダブルライダータイム！・仮面ライダー！・ライダー！・クロス！・ジオウ！・クロスジオウ！』
姿はジオウⅡに近いがライダーの文字は英語表記になっていて２本の時計のバンドはXをしている。おでこの所はカタカナでカメンと書いてあり肩にはクロスと表記が書いてある。
ウォズ「祝え！・時空を超えた！・我が魔王と「我が勇者の力が１つになった時！」私の邪魔をするのは誰だい？」
ウォズが祝おうとしたがウォズと同じ服装のロングヘアーの女性がいきなり現れた。
???「今！・まさに！・魔王と勇者の力を解放した！・その名は仮面ライダークロスジオウ。新たな歴史が生まれた１ページであります。」
ジオウ「力が溢れる……何か行ける気がする」
『ジカンギレード！・ケン！』
フォーゼと共に並び、そのままアナザーフォーゼに攻撃を仕掛ける！
アナザーフォーゼ「何なんだ！・それは！」
『ガトリング！・オン！』
フォーゼ「ならこっちはこいつだ！」
『レーダー！・ランチャー！・オン！』
２人は射ちあうがクロスジオウが後ろからアナザーフォーゼを攻撃する！
アナザーフォーゼ「ぐ！・お前ごときに！」
『ハンマー！・オン！』
ハンマーで攻撃をするがクロスジオウはジカンギレードでそれを防ぐ。
ジオウ「確かにお前から俺は弱いかもしれん！・でもな！・俺には信じてくれる仲間がいるんだ！・はぁー！」
そのままハンマーを弾き返し、下からななめに切って吹っ飛ばす！
アナザーフォーゼ「ぐ！・だったら！・これなら！」
『ハンマー！・スパイク！・オン！』
ジオウ「ぐ！」

力強いが……ん？これは？
ジオウ「今の浮かんだ人達は？……それなら！」
俺は頭に浮かんだ人達のアイコンをセレクトする！
『博麗霊夢！』
クロスジオウの前に1人の人物のオーラがクロスジオウの中に入る！
ジオウ「これは！」
霊夢『あんたが別世界の祥平ね？今回だけ力をかして上げるわ！』
ああ！お借りする！
アナザーフォーゼ「こけおどしだろ！喰らえ！」
フォーゼ「させねぇ！」
『チェーンアレイ！オン！』
な！この！
フォーゼ「今だ！」
クロスジオウ「博麗霊夢の力！」
そして霊夢が持っていたスペルカードと棒見たいなのをアナザーフォーゼに向ける！
ジオウ「夢想封印！」
４つの光の玉をアナザーフォーゼに攻撃をする！
アナザーフォーゼ「ぐぉ！」
なんだ！この力は！
ジオウ「今度はこれだ！」
『霧雨魔理沙！』
また別の人がクロスジオウと重なる！
魔理沙『弾幕はパワーで押して行け！』
ジオウ「あいよ！霧雨魔理沙の力！」
今度は魔理沙使っていた物が右手に現れる。
クロスジオウ「マスタースパーク！」
ジカンギレードをジュウモードにしてアナザーフォーゼに最後の一撃で吹っ飛ばす！
アナザーフォーゼ「ば！馬鹿な！この俺が……お前ごとき

にーーー！」
身体中をバチバチしていて立ち上がるがこれで終わらせる！
ジオウ「弦太郎先生！」
フォーゼ「おう！」
『ロケット！ドリル！リミットブレイク！』
『ダブルフィニッシュタイム！オーバークロスタイムブレーク！』
２人のライダーキックでアナザーフォーゼを貫いた！
アナザーフォーゼ「こ！こんな！バカなーーー！」
アナザーフォーゼは爆発し、元の人間に戻りアナザーフォーゼのウォッチは壊れた。
弦太郎「んじゃ、こいつはお前に託すぜ！」
そう言った弦太郎先生はウォッチを投げ渡した！え！
祥平「い！良いんですか！」
弦太郎「お前は良い奴だ、だからその力はお前に託すのに迷いはないぜ？」
そしてそのまま倒れてる人を先生は連れて行った……
祥平「嵐の用な人だったな……」
森夏「正直、危なかったと思うけどね？」
森夏には感謝しかないよな……
???
ウォズ「我が魔王は遂に時の勇者、仮面ライダークロスの力と時の王者、仮面ライダージオウの力を１つにされているウォッチが発動した。果たして次なる物が我が魔王に出会うのか？」
??????
「ここに彼がいる……」
ＥＮＤ

第22話現れた元彼女!そしてもう1人の自分!?

アナザーフォーゼを倒してから2日がたったんだけど、姉さんはちょっと旅に出ると言って、今、住んでるのがゲイツとウォズ、そして昨日から住む用になったツクヨミ。それで俺は学校に行く途中である。

祥平「ウォズまでついて来なくて良いのに」

ウォズ「我が魔王について行くのは当然だよ?それだったらこの2人じゃないのかい?」

後ろを見るとゲイツとツクヨミがいた、あれ?どうして来てるの?

ゲイツ「ジオウの行動でアナザーライダーがいつも現れてるからだ、だからついて行ってるんだ。」

ゲイツはあれから丸くなったよね?最初の頃は俺を殺そうとしてたからなぁ、ツクヨミはまだ来たばかりだから何とも言えない。

森夏「おはよう〜」

勇太「祥平、おはよう」

六花「魔王、おはよう」

祥平「皆、おはよう、森夏はどうしたの?」

いつも通りの朝の挨拶なんだけど、森夏は凄い顔をしてる

勇太「実は寝不足らしい」

祥平「なら良いけど、ん?誰だ!」

俺は後ろを振り向きそのままその人物は走って逃げた!

祥平「おい!待て!」

俺はそのまま追い掛けた!

ウォズ「我が魔王が慌てて行くとは何なのか、行って見よう!」

ウォズ達、皆で祥平の後を追い掛けて行く!

駅付近

祥平「お前、はぁ…はぁ…誰なんだよ……」

???「久し振りだな、アナザーエグゼイドを覚えてるか?」

その声にアナザーエグゼイド!って事はこいつ!

祥平「あの時の俺……」

確かにあの時消えたけど、こいつ何でいきなり…
祥平？「そうだ、俺はあの時、やられたがお前は眩しい存在だよ……けど、もうこれからは闇の世界の時間だ」
『ジクウドライバー！』
な！ジクウドライバーってまさか！
『ジオウ！』
左にジオウライドウォッチを入れる？逆って、まるで鏡見たいだ……
祥平？「お前が思ってる通り、俺は鏡の世界の俺だよ？変身…」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！』
な！本当に写し鏡かよ！……
???
ウール「へぇ？遂にジオウと鏡の世界のジオウがぶつかりあうんだね」
スウォルツ「ではこちらも準備するぞ」
スウォルツはアナザーウォッチをポケットから取り出し起動させた
『リュウガ！』
そのまま鏡の中に放り込むがそこにいたのは1人の男、仮面ライダー龍騎に変身をしていた男、城戸真司だった！
駅付近
『ジカンギレード！ケン！』
ミラージオウ「はぁ！」
いきなりジカンギレードで攻撃をするがそれを避ける！
祥平「！、何が目的なんだ！」
ミラージオウ「俺がお前になる、そして彼女の元に戻る」
そんなの断る！
『ジオウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダージオウ！ジカンギレード！ケン！』
俺はジオウになり攻撃を防ぐが強い！

ミラージオウ「どうした？まさかこの程度か？」
ジオウ「だったら！こいつで！」
ふっ……させるかっての
『ジュウ！』
ミラージオウ「うらぁ！」
な！クロスジオウウォッチが！
ジオウ「ぐ！」
ジカンギレードケンモードで防ぐが強い！
ミラージオウ「終わりか？」
ジオウ「な訳ないだろ！」
俺は蹴りをするが避けられた！
ミラージオウ「終わりだ……」
『フィニッシュタイム！』
そのままジャンプをしてドライバーを回す！
『タイムブレーク！』
しまった！うわぁぁぁ！
祥平「あ！ぐ！」
ミラージオウの技を諸に喰らい変身が解けた！
ミラージオウ「お前じゃ勝てない、だが鏡の世界に連れて行く……」
そのままミラージオウは俺を掲げて鏡の世界に連れてかれた
???
ウォズ「かくして高田祥平は鏡の世界の高田祥平に連れてかれてしまう。」
ＥＮＤ

第23話ジオウサイキョー／2018

祥平（鏡）「……」
外の俺を連れて来て数分立っていた。こいつは偽善過ぎる、どうして他人の為にそこまでなれる？
祥平「あれ？ここは？」
俺はそこで目を覚ましたら鏡の世界の俺が目の前にいた！
祥平（鏡）「よぉ？」
祥平「お前は何で俺を憎むんだ！」
まだ強い気持ちはあるんだな……
祥平（鏡）「俺はお前だ、お前の黒い部分でもあるんだ。それにお前は力を求めているだろ？持ってるだろ？」
俺はポケットから取り出すがいつの間にか入ってたのか？
祥平（鏡）「ほらな？お前も強さを求めてたんだよ」
違う！俺はそんなの思ってない！
祥平（鏡）「思ってないって考えてるだろ？」
祥平「！、何で分かるんだ！」
こいつ心まで読めるのかよ……
祥平（鏡）「言っただろ？お前は俺だって？」
嘘だ……こんなの俺は……
その頃、駅付近で勇太達は祥平を探している。
勇太「祥平ー！どこだー！」
六花「魔王はどこに……」
あのウォッチが落ちていただけで本人はいなかった、でも何か魔王の身に何かあったとしか？
森夏「どこなのよ！出て来なさいよ！」
???「彼はもう帰って来ないですよ？」
声がする方に私は振り向く。
森夏「誰？」
金髪のロングヘアーの女性がそこにいた。私達とは違う制服って事は別の学園の人？

???「私は祥平の元彼女です……」
え？祥平の元彼女!?何でそんな人が今になって？
???「貴女はもう彼の側にいてはいけない……」
何を言ってるの？
森夏「随分勝手な事を言うのね？」
この女はどうしていきなり現れたの？元彼女が？
???「高田祥平は危ない人物なの、付き合ってから酷く乱暴者で意地悪をしてきたんです。だから彼といると今後こんな事が起きますよ？」
祥平がそんな事する筈ない！ありえない！
森夏「そんな言葉には騙されないわよ！私は祥平がそんな事するなんて絶対に思わない！」
絶対に信じる！私は祥平がそんな酷い事するなんてありえない！
???「そうですか……それでは消えて貰いますよ！」
そう言ってたらアナザーライダーがいきなり現れた！
森夏「鏡からアナザーライダー！」
私は攻撃をギリギリ避けたけど不味いわね……
アナザーリュウガ「お前を消せば、ジオウは絶望し、闇に染まる」
私を消すって……逃げなきゃやばい！
???「逃がしませんよ？」
こいつ……でも逃げるしかない！
ゲイツ「はぁ！」
いきなり現れたゲイツはジカンザックスユミモードでアナザーリュウガに攻撃を当てるがその次の瞬間！
アナザーリュウガ「無駄だ！」
その攻撃は鏡が現れゲイツに跳ね返った！
ゲイツ「ぐ！こいつは厄介なアナザーライダーだな……」
そこに変身していたウォズも現れる。
ウォズ「確かにそうだね……」
２人はアナザーリュウガに攻撃を仕掛ける！
アナザーリュウガ「無駄だ！お前達にはこれを破れんぞ！」

そう言われ攻撃は跳ね返される！
ゲイツ「ぐ！こいつ！」
ウォズ「ゲイツ君どうする！」
く！ジオウがいればこんな奴は！
???「倒せませんよ？そのアナザーライダーは私が鏡の世界で呼びましたからね？」
鏡の世界だと！そんな事がありえる筈が！
ウォズ「鏡の世界……そうか！あのアナザーライダーは仮面ライダー龍騎の世界の仮面ライダーだ！」
仮面ライダー龍騎だと？
ゲイツ「その仮面ライダー龍騎のウォッチを手に入れれば倒せるのか！」
ウォズ「残念ながらあれは仮面ライダー龍騎ではなく仮面ライダーリュウガのアナザーライダーだ。」
そうなると手段がないのか……
ゲイツ「それなら俺のタイムバーストにかけるしかなさそうだな」
ウォズ「ゲイツ君まさか君は死ぬ気か？」
ウォズがそう聞いて来るが俺は頷く。
ウォズ「あまりにも危険過ぎる！ここで君が死んだら我が魔王は何と言うか！」
ゲイツ「お前が心配だとは珍しいな、だがアナザーライダーをほっとく訳にもいかんからな」
『フィニッシュタイム！』
ジクウドライバーを回転させ、大きくジャンプする。
ツクヨミ「止めてゲイツ！」
ツクヨミが何故こんな所にいるんだ？だがもう止められん！
『タイムバースト！』
ゲイツ「はぁぁぁぁぁ！」
アナザーリュウガに直撃はしたのだが鏡が現れゲイツにそのままタイムバーストが跳ね返された！
ツクヨミ「ゲイツ！」

ウォズ「ゲイツ君！しっかりするんだ！」
～鏡の世界～
祥平（鏡）「これが1つの未来だ。もうゲイツは死んだ。」
……ゲイツ……
祥平（鏡）「お前は俺だ。ゲイツを助けたいのは分かるよ？助けたいならこのウォッチの力を受け入れるんだ。」
ウォッチの力を……
祥平「俺は……」
???「止めなさいよ、祥平！」
え？この声って！
祥平「何でお前がここに……アリス!?」
俺の前に現れたのはアリス・ツーベルクだった。ここは鏡の世界なのに……
祥平（鏡）「てめぇ、何しに来た？お前は鏡のアリスと変わってるんだからな。」
え…それってまさか！
アリス「確かにそう……でもこうしてまた祥平に会えた。あの時に酷い事を言ったのはこの世界の私なの……ごめんなさい、貴方を傷付けた事には変わらない。」
アリスは頭を下げるが酷い事を言ったってあれは俺も酷いだろ……
祥平「それでもアリスは今、こうして謝ってくれたなら俺はもう気にしてないよ。今でも王様目指してるしね！」
やっぱりあの時のままね……
祥平（鏡）「悪いが邪魔をしないでくれるか？」
アリス「闇の力を使っても本当の意味で王様になんてなれる訳ないでしょ？祥平……貴方は絶対にあのアナザーライダーを倒さないといけない。でも今のままじゃ勝てないわ。」
やっぱりだよな…でも俺にはそのウォッチの力が必要なんだ。
アリス「力を一歩でも間違えて使ったら駄目……祥平は心優しいし本当は誰よりも辛い想いをしてるのは分かる……」

祥平「それなら尚更この力を使って！」
俺がウォッチを取り出すがアリスは俺の手を優しく抱き締める。
アリス「違う…ただ使うじゃ駄目なの……」
アリス……
祥平「ただ使うだけじゃ駄目……」
考えろ…絶対にある筈だ、このウォッチをただ使うだけじゃ……
祥平「……」
祥平(鏡)「無駄だぞ？どんな事を考えてもオーマジオウ見たいに最低最悪な王様になるしかないんだぞ？」
……ありがとうアリス、答えが何か見えて来たかもしれない
祥平「確かにお前が言う未来がオーマジオウだったらそれを少しずつ俺は変える。」
祥平（鏡）「そんな上面の言葉を聞くとでも思ったか？」
祥平「確かに上面の言葉かもしれない……お前が気に食わないと言うなら俺はそれを直せるように努力する…」
こいつの目は本気だな……
祥平(鏡)「……分かった。その言葉が本当なら俺はお前に託そう！俺の半分の力を！」
俺が持っていた半分のウォッチが光だし鏡の世界の俺は目の前から消えてウォッチになり1つになった。
祥平「アリス……また出会えて良かったと思ったよ……」
アリス「私もよ、ですが私はもう貴方の元には戻れません……なので貴方の未来に進んで下さい……」
祥平「そうかもしれない、でも……」
やはり祥平は優しい……ですがそうもいきません……
アリス「ですが私はもうこの世界からは出る訳にはやはりいきません、この鏡の世界のバランスを崩す事になるので……」
アリスは笑顔でそう言う……辛いがそれがアリスの選んだ道なら……
祥平「分かった。でもいつかこの世界にまた来て必ず助ける！これは約束だ！」

俺はアリスの手を掴み小指でゆびきりをする。
アリス「祥平……絶対に来て下さいよ？」
祥平「ああ！」
そして祥平は鏡の外に向かう……頑張って下さい……
～ゲイツ達の方～
ウォズ「ツクヨミ君は彼女達を逃がしてくれ、ここは私が時間を稼ぐ！」
『ジカンデスピアー！ヤリスギ！』
武器を持ってアナザーリュウガを私達の方へ近付けさせない用にしていた……でもゲイツは！
ツクヨミ「ゲイツはもう……」
???「やっぱりこうなっちゃったか……」
後ろから声がする方へ全員振り向いた。その振り向いた方にはなんと！
祥平「遅くなった……」
我が魔王は無事だったか！
勇太「お前！心配したんだぞ！それにゲイツが！」
祥平「分かってるよ……これは俺がみた1つの未来だ……」
新たなライドウォッチを出した次の瞬間に時間が巻き戻された。
～数時間前～
ウォズ「あまりにも危険過ぎる！ここで君が死んだら我が魔王は何と言うか！」
ゲイツ「お前が心配だとは珍しいな、だがアナザーライダーをほっとく訳にもいかんからな」
『フィニッシュタイム！』
ジクウドライバーを回転させ、大きくジャンプする。
ツクヨミ「止めてゲイツ！」
ツクヨミが何故こんな所にいるんだ？だがもう止められん！
『タイムバースト！』
ゲイツ「はぁぁぁぁぁ！」
その瞬間に時間が巻き戻った！

『!・トスーバムイタ』
ゲイツ「な!・どうなっている!」
俺は確かにタイムバーストをしようとしたが……
祥平「俺の判断で時間を巻き戻した…」
ジオウⅡライドウォッチを見せながら言う。
森夏「祥平……」
祥平「遅くなってごめんな」
私の頭を撫でて謝る……
森夏「って!そんなので許す訳ないでしょ!……本当にもう、絶対にアナザーライダーを倒してよね!」
祥平「あいよ」
『ジオウⅡ!』
俺はウォッチのダイヤルを回し2つに割る。
『ジオウ!』
そして両方にウォッチを差し込みドライバーからいつもと違う待機音が流れていた。
祥平「……変身!」
『ライダータイム!・仮面ライダー!・ライダー!・ジオウ!・ジオウ!・ジオーウⅡー!』
ジオウ「……」
アナザーリュウガ「こいつ!」
ウォズがいつの間にか前に来ていたけど速くない?
ウォズ「王の凱旋だ!・祝え!・全ライダーを凌駕し、時空を越え、過去と未来をしろしめす時の王者!・その名も仮面ライダージオウⅡ!・新たな歴史の幕が開きし瞬間である!」
ジオウ「おぉ〜……凄い久し振りだな、感じだな」
ウォズ「では我が魔王、思う存分に……」
そう言ったウォズは森夏達の所に戻る。
ジオウ「ああ!」
俺はアナザーリュウガに歩き近付く。
アナザーリュウガ「お前を倒せば良いんだな?・おらぁ!」

左腕のドラグレッターから炎を吐き出そうとする！
ジオウ「お前の未来が見える！」
顔の針が同時に回転し未来での攻撃が先読みをする！
ジオウ「はぁ！」
サイキョーギレードを出してアナザーリュウガが放つ炎を撃ち落としそのまま攻撃を追い打ちかける！
アナザーリュウガ「ぐあ！だ！だが……無駄だ！」
鏡が現れ跳ね返そうとしたら発動しなかった！
ジオウ「おらぁ！」
更にそのままアナザーリュウガにダメージを与える！
森夏「跳ね返らなかった？」
ゲイツ「ジオウの力が強すぎて跳ね返せないんだ……」
あいつの力、やはりオーマジオウと近い力と言う訳か……
ジオウ「もう諦めるんだ……」
アナザーリュウガ「ぐ！調子に乗るんじゃねぇ！」
炎を乱れ射ちしようとしてる未来が見えた！そんなのさせねぇよ！
『ライダー！』
サイキョーギレードのジオウの顔に着いているレバーを1度、下に下げるがそのまま上に上げる！
『ライダー斬り！』
ジオウ「はぁぁぁぁ！」
横に振り払ってアナザーリュウガの攻撃が出る前にライダー斬りをしてそれを阻止する！
『ジカンギレード！ケン！サイキョーフィニッシュタイム！』
サイキョーギレードとジカンギレードを合体させ構える。
ジオウ「これで終わらせる！」
『キング！ギリギリスラッシュ！』
ジオウ「おらぁぁぁぁぁ！」
剣が少し大きくなりアナザーリュウガを真っ二つに斬り裂き爆発する。

ジオウ「これで終わったか……」
〜???〜
ウォズ「遂に我が魔王はジオウⅡの力を手にしアナザーリュウガを倒す。そしてここからライドウォッチを狙って来る者が現れるのである。」
〜???〜
???「これが仮面ライダージオウそして最低最悪な魔王なの？」
ジオウの写真を見ていた女性が依頼者に聞くのである。
男「こいつのせいで未来は大変な事になる。だからオーマジオウの持つ仮面ライダー達のライドウォッチを元の持ち主に返したいんだ。」
女「別に良いですよ？ですがちゃんと依頼が達成したら報酬を貰いますよ？」
男「分かっている。」
ジオウ……ちょっと面白くなりそうね、あんたの醜い力を見せなさいよ？
女「私が潰して上げるからね！」
見たことがないライドウォッチを持ちながらそう言うのであった。
ＥＮＤ

第２４話　狙われるライドウォッチ!?そして祥平も狙われる!?

祥平「うおおおお！遅刻しちまーーーう！」
今日も今日で遅刻ギリギリだ！流石にやばい！
祥平「良し！学校が見え！」
???「きゃっ！」
そう思っていたら女性とぶつかってお互い地面に倒れてしまう。
祥平「ご、ごめんなさい！慌てていたので！怪我とかないですか！」
この男が最低最悪な魔王なの？何処から見ても普通の青年じゃない？でも依頼は依頼だからちゃんとやるけどどうやって知ろう……
祥平「えっと大丈夫すか？」
???「あー、大丈夫よ。それより君は何か急ぎがあったんじゃないの？」
指を刺した方向を見たら時計の時間がヤバかった
祥平「ん？……うわ！やばい！遅刻しちまう！お姉さん！また会えたらちゃんと謝罪します！それでは失礼します！」
また会えたら？そんなもんじゃないけどね……もっと早く再開出来るから安心なさい♪
～教室～
祥平「セーフ！」
凄い勢いで来たな、めっちゃギリギリだけど……
勇太「おはよう祥平」
祥平「おはよう勇太」
２人はグータッチをし朝の挨拶をする
一色「おっす、高田おはよう」
祥平「一色もおはよう」
今度は一色とハイタッチし朝の挨拶をすませる、そしてこの後とんでもない事が祥平は驚く
一色「今日さ、ここに副担任が来るらしいぜ？」

祥平「え？そうなの？」
勇太「何でこんな時に？」
勇太の言うとおりいきなり副担任が来るなんてかなり珍しいぞ？
六花「何を話してるのだ？」
祥平「小鳥遊さんおはよう」
六花「魔王おはよう」
軽いハイタッチをし小鳥遊さんとの挨拶も終える。あれ？森夏は何処だ？
祥平「勇太、森夏は来てないのか？」
勇太「今日はまだ来てないぞ？」
もしかして遅刻か、休みか？
七瀬「はーい席に着いてねー？」
あり、先生来ちまったよマジで森夏はどうした？
祥平「先ー生ー、凡生谷さんから連絡とかありませんでしたか？」
七瀬「連絡は無かったわ、もしかして遅刻？」
遅刻ならまだ良いけど……不安だな
七瀬「はーい、今日から1週間、このクラスに研修生が来ます。」
さっきの副担任って話しか？ん、あれもしかして！
???「あら、さっきの遅刻しそうだった」
祥平「さっきの人！て事は年上だったんですか！」
俺は頭を下げそれで1日が終わるのだった……森夏は結局来なくて放課後になる。え？先生の名前？名前は確か……那奈先生だったかな？
～放課後の帰り～
祥平「んー！今日も疲れたな」
勇太「しっかし凡生谷が連絡も無しって本当に何があったんだろうな？」
俺、今日1日そればっかり考えてたから心配でめっちゃ不安なんだが……やっぱり電話もメールも来ない……
祥平「俺、帰りに森夏の家に向かって「きゃあああ！」！、何だ今の悲鳴は!?」

勇太「急ごうぜ！」
俺は頷き勇太と一緒に悲鳴が聞こえた場所に向かう！
～学校の裏～
アナザー???「お前みたいな奴が消えれば！」
那奈「な、何なのよ、こいつ！」
私は怪人から逃げていたんだけど行き止まりで本当にピンチだった！
アナザー???「死ねえええ！ぐあ！」
那奈「え？」
もう駄目かと思っていたら怪人は吹き飛んでいたけど
祥平「勇太は先生を頼む！」
勇太「分かった！」
何でアナザービルドがまた現れたんだ？
祥平「考えても仕方ないか！」
アナザービルドの攻撃を避けドライバーとライドウォッチを取り出す
『ジオウ！』
祥平「変身！」
俺は変身しジカンギレードを手に持ちアナザービルドに攻撃をする！
ジオウ「お前は一体何なんだ！」
アナザービルド「あの女を殺す！」
前より強すぎる！ぐっ！
ジオウ「だったら！」
『アーマータイム！ベストマッチ！ビルド！』
ビルドアーマーになり右腕のドリルクラッシャーで対抗する！
～勇太　ｓｉｄｅ～
那奈「はぁ…はぁ…何だったのあれ？」
勇太「あれはアナザーライダーって言うんですが先生は早く逃げて下さい！」
そう言って勇太は祥平の所に戻っていくのだった……

那奈「さてと……ジオウの力を見せて貰うわよ？」
さっきのが最低最悪な魔王ね……面白そうだけどまだまだ甘い所がありそうね……
～祥平　ｓｉｄｅ～
ジオウ「おら！」
アナザービルド「ぐあ！」
これで決めてやる！
『フィニッシュタイム！ビルド！』
ドライバーを回転させボルテックタイムブレークを決めアナザービルドを撃破したのだが
『エグゼイド！』
ジオウ「！、アナザーエグゼイドだと！ならこっちもエグゼイドの力で！」
エグゼイドアーマーに切り替えアナザーエグゼイドに対抗するがやはり前より力が強かった！
ジオウ「くっそ！何だってこんなに強いんだよ！」
攻撃しようとしたが速すぎて追い付かない！ぐお！
アナザーエグゼイド「邪魔をするな！」
ジオウ「ぐっ！」
やっぱり前より強くなってやがる！
勇太「祥平！先生は安全な場所に逃がした！」
そうか、だったら全力で行くか！
『エグゼイド！』
ジオウ「これで！」
『アーマータイム！レベルアップ！エグゼイード！』
エグゼイドアーマーになりアナザーエグゼイドの攻撃を防ぎ攻撃を当て吹き飛ばす！
ジオウ「おら！」
アナザーエグゼイド「うぐ！」
～那奈　ｓｉｄｅ～
那奈「仮面ライダーエグゼイドのアーマー……やっぱりあれは奪っ

た方が良さそうね……」
　さてと依頼を頼まれた以上はお仕事をしますかね♪
『ジクウドライバー！』
　那奈「さてと受け継いだ力で試させて貰うわよ」
『ソルジャー！』
　ジオウライドウォッチの色違いを起動させ変身をするのだった！
　???「さてと行こうかなっと！」
　仮面ライダーになり那奈は祥平とアナザーエグゼイドの前に向かう！
　～祥平　ｓｉｄｅ～
　ジオウ「はあああ！」
　ガシャコンブレイカーで連続攻撃しダメージを与える！
　アナザーエグゼイド「ぐあああああ！」
　吹き飛んだが爆発はしなかった、祥平は更にライドウォッチのスイッチを押してドライバーを回転させる！
『クリティカルタイムブレーク！』
　ジオウ「これで止めだ！ぐあ！」
　とアナザーエグゼイドと祥平の間に謎の攻撃を受け吹き飛ぶ！
　勇太「な、何だ！」
　あれって新しい仮面ライダー？
　???「私はソルジャー。仮面ライダーソルジャー！貴女が最低最悪な魔王を倒しに来たんだよね！」
『ジカンセイバー！一刀流！』
　大剣を持ちながら祥平に攻撃をされ転ばされ吹き飛ぶ！
　ジオウ「何すんだよ！」
　俺は何とか立ち上がり疑問を聞くが攻撃をしてくる！
　ソルジャー「だから倒しに来たんだよ！」
『二刀流！』
　な！武器を２本の剣に分離しやがったか！でもな！
　ジオウ「アナザーライダーが先だ！」
　エグゼイドアーマーを解除しジカンギレードを出してソルジャー

に攻撃しアナザーエグゼイドの方へ走って向かう！
ソルジャー「へぇ？私を無視してアナザーライダーを優先とは良い度胸だね！」
ホルダーから1つのライドウォッチを取り出し回して起動をさせようとする
勇太「あいつもライドウォッチを？」
と言っていたらゲイツとウォズがいつの間に来ていた
ゲイツ「思った以上に厄介な事になってるな？」
勇太「ゲイツ！」
ウォズ「あれは私も始めて見た仮面ライダーだね」
ゲイツとウォズはドライバーを取り付け変身をしジオウの手助けに入る！
ジオウ「くっ！」
どうすれば良いんだ……
アナザーエグゼイド「ぐお！」
ソルジャー「おっと！」
アナザーエグゼイドはダメージを喰らい吹き飛ぶがソルジャーはギリギリ避けていた
ジオウ「ウォズ！ゲイツ！」
何とか助かったな……
ウォズ「大丈夫かい、我が魔王？」
ゲイツ「何故アナザーエグゼイドが復活をしているんだ！」
ジオウ「分かんない！でもあの仮面ライダーが俺を最低最悪な魔王って事を知ってるらしい！」
なら話しを聞くしか無さそうだな……
ゲイツ「エグゼイドウォッチを借りるぞ！」
ジオウ「分かった！」
俺はゲイツにエグゼイドウォッチを渡してジカンギレードをジュウモードにする！
ウォズ「それなら我が魔王と私であの仮面ライダーを相手にしよう！」

ジオウ「行くぞ、ウォズ！」
２人はソルジャーに向かいゲイツはアナザーエグゼイドの方へ行く！
ゲイツ「タイムジャッカーが何故同じアナザーライダーを復活させたかは分からんが倒させて貰うぞ！」
『エグゼイド！アーマータイム！レベルアップ！エグゼイード！』
エグゼイドアーマーになりアナザーエグゼイドを殴り飛ばすがアナザーエグゼイドは直ぐに立ち上がり別のアナザーライダーに変わる！
ゲイツ「何！ぐっ！」
今度はアナザーファイズだと！だったら！
『ファイズ！』
ファイズアーマーになりパンチや蹴りをする！
アナザーファイズ「邪魔をするんじゃない！」
グラインドインパクトを喰らいゲイツは吹き飛ぶがギリギリ防いでいた
ゲイツ「こいつさっきより力が上がってるだと！」
こいつは本当に厄介だな！ぐっ！
ジオウ「ゲイツ！」
ウォズ「我が魔王、ここは任せてゲイツ君の方へ！」
ジオウ「頼む！」
俺は急いでアナザーファイズの方へ向かう！
ソルジャー「だからさせないって言うの！「我が魔王の邪魔をしないでくれないかい？」なら止めて見せな！」
『クウガ！』
ソルジャーは先程使おうとしたライドウォッチを起動させる
ウォズ「そのライドウォッチは！」
『アーマータイム！クウガー！』
仮面ライダークウガのライドウォッチだと！これは流石に厄介だね……
ウォズ「我が魔王！ライドウォッチをいくつかお借りしたい！」

ジオウ「え！分かった！」
俺はカイザウォッチとフォーゼウォッチを投げ渡す！
ウォズ「ではこれからだ！」
『カイザ！』
ウォッチをドライバーに取り付け驚くべき事が起きた
『フューチャーアーマー！コンプリート！カイザー！』
ウォズの身体にカイザのアーマーパーツが取り付きカイザアーマーを纏うのだった！
ソルジャー「アーマーを纏うってそんなの聞いてないんだけど？」
ウォズ「私も驚いてるよ、では手加減はしないよ！」
ジカンデスピアーヤリモードを逆手に持ちソルジャーとぶつかり合う！
ジオウ「ゲイツ！」
ゲイツ「ああ！」
同時に蹴りを入れアナザーファイズを飛ばす！
アナザーファイズ「うぐ！」
『フィニッシュタイム！ファイズ！』
『フィニッシュタイム！』
２人の技を喰らいアナザーファイズはやられたのだが
『ウィザード！』
ジオウ「今度はアナザーウィザード！」
ゲイツ「本当にどうなっているんだ！」
ゲイツはウィザードアーマーになりアナザーウィザードを攻撃する！
アナザーウィザード「これなら！」
『バインド！』
炎の鎖でゲイツとジオウを巻き付くのだがジオウはゲイツを掴み何とか避ける！
ジオウ「この野郎！だったら！」
『フィニッシュタイム！』
オーズライドウォッチをはめてアナザーウィザードに向かい構え

る！
『オーズ！ギリギリシュート！』
ジオウ「喰らえ！はぁー！」
そのまま真っ直ぐに撃つのだがディフェンドで防がれる！
アナザーウィザード「無駄よ！」
くそ！防がれたか！
ゲイツ「なら！」
『フィニッシュタイム！ウィザード！』
ゲイツは空中に浮かびドライバーを回転させる
『ストライクタイムバースト！』
魔方陣に蹴りを入れデカい足でアナザーウィザードを撃破するのだが何とそこにいたのは！
ゲイツ「何だと……」
ジオウ「！、そんな馬鹿な！何でお前が！」
アナザーライダーから変身を解除したのは誰もが予想出来なかった……
勇太「何で凡生谷が！」
森夏……何で……
ソルジャー「あーらら、これは予想外だったね」
～???～
スウォルツ「やはり彼女はジオウに大きな影響はあったな」
ウール「でもこれでオーマジオウとかになったらどうするの？」
ウールの言うとおり祥平がオーマジオウになる可能性もあった。だがスウォルツはニヤリと不気味に笑っていた
スウォルツ「あいつはここでオーマジオウ何かにはならんさ」
オーラ「どういう事？」
スウォルツ「奴はまだ全ての仮面ライダーの力を継承してる訳じゃない。だから凡生谷森夏がアナザーライダー全てを使えば変わりの新たな王になる存在になる……」
～祥平達の方～
ジオウ「森夏、何で…何でお前がアナザーライダーの力を使ってる

んだよ……答えろよ森夏！」
森夏「祥平は知らなくて良いのよ、私が変わりに時の王者を目指すからね……だからジオウの力を消すわ……」
『ドライブ！』
森夏は別のアナザーライダーになり攻撃をしてくるが俺は反撃出来ず吹き飛ぶ
ゲイツ「ジオウ！」
『アーマータイム！ドライブ！ドラーイブ！』
ドライブアーマーになるゲイツはアナザードライブの前に行き蹴りを入れる！
アナザードライブ「くっ！」
ゲイツ「凡生谷！何故、貴様タイムジャッカーから貰ったな？」
アナザードライブ「そうよ、でもねあいつらの言いなりって訳じゃないけど私自信がそうしたくてなったって事……」
尚更それを止めるしかなさそうだな……
ゲイツ「ジオウ！凡生谷を止めるぞ！」
ジオウ「出来ない……森夏に攻撃なんて！」
流石にそうなるか、だったら俺がやってやる！
ゲイツ「なら下がってろ！俺が凡生谷をアナザーライダーで暴れられるのは厄介だからな！」
『ジカンザックス！オーノー！』
ジカンザックスオノモードを持ち凡生谷に攻撃をしようとするが祥平が止めに入る！
ゲイツ「おい、どういうつもりだ！」
ジオウ「森夏を傷付けるのは止めてくれ！」
ゲイツ「早くアナザーライダーから元に戻さんと大変な事になる可能性だってあるんだぞ！」
２人の武器が弾き飛びそれをチャンスだと思った凡生谷はタイヤの幻影を放つ！
ゲイツ「ぐあっ！」
ジオウ「ぐっ！」

２人は吹き飛び転がりジオウから変身を解除したのは祥平だけだった
アナザードライブ「このまま祥平にはジオウを止めて貰うわ、今日から私が！」
『ジオウ！』
祥平「な！まさかその姿は！」
ゲイツ「ジオウだと！」
森夏は何とアナザージオウになり２人の前に立ち宣言をするのだった
アナザージオウ「これが祥平と同じジオウの力……はは、あはははははは！最高に力が溢れてくるわ！」
アナザージオウの力が強すぎたのか、少しずつおかしくなっていた。それを見た祥平は悩むのだった……
祥平「森夏、今すぐにアナザーライダーの力を手離すんだ！」
アナザージオウ「力が無かった私にそんな事が出来ると思ってるの？」
祥平「それは……」
俺はもしかして森夏をどこかで心配させ過ぎて追い詰めさせたのか？俺が…俺が……でも！
祥平「みんなを傷付けるのはさせない！俺が森夏を止める！」
『ジオウⅡ！ジオーウ！』
祥平「変身！」
『ライダータイム！仮面ライダー！ライダー！ジオウ！ジオウ！ジオウⅡ！』
サイキョーギレードとジカンギレードの２本を持ち構える……
アナザージオウ「その力も私の物にするわ！」
ジオウ「行くぞ！」
～別の場所～
???「遂に進んだ運命の戦いが今、始まる……」
ＥＮＤ

第２５話祥平ＶＳ森夏そして大きな運命

ジオウ「うおおおお！」
アナザージオウ「はあああああ！」
２人の攻撃がぶつけ合い弾かれ後ろに下がるがサイキョーギレードとジカンギレードを１つにしサイキョージカンギレードにする
アナザージオウ「無駄よ！」
森夏も武器を１つにし構えて祥平に向かって攻撃をする！
ジオウ「無駄なのは分かってるけど森夏、今のお前のやり方は間違ってる！」
それを受け止め弾き何とか説得しようとしたがお互いが互角の力で攻撃をしたり防いだりの連続だった
ゲイツ「未来を見てる２人だから出来る事か……」
凡生谷の事はジオウに任せるがあっちのライダーだな！
ウォズ「はっ！」
ソルジャー「くっ！」
流石は未来から来た仮面ライダーね、それなら今度はこれで！
『ダブル！』
ウォズ「！、またもやライドウォッチを持っているのか！くっ！」
現れたメモリみたいなのがウォズを吹き飛ばしソルジャー肩に取り付きアーマーを纏う！
『アーマータイム！サイクロン！ジョーカー！ダブルー！』
ソルジャーはダブルアーマーを纏い風を纏った蹴りとパンチをウォズにする！
ウォズ「くっ！」
吹き飛ぶウォズはアーマーが解除され立ち上がるがそこにゲイツが助けに入りソルジャーに蹴りを入れる！
ゲイツ「はあっ！」
ソルジャー「ぐっ！」
また邪魔が来るのね、厄介だけどそこまで苦戦する相手ではないわね……

ゲイツ「ウォズこいつはやはり？」
ウォズ「あー、多分だけど別の時空から来た仮面ライダーだね。だから早く止めなければ厄介だよ」
ゲイツ「なら行くぞ！」
２人は武器を持ちながらソルジャーを襲う！
～祥平　ｓｉｄｅ～
ジオウ「くっ！」
未来を見ながら攻撃を避けたり当てたりの繰り返しが続き互いに吹き飛ぶ！
アナザージオウ「流石は長い間にアナザーライダー達と戦ってたから簡単にはいかないわね……でも同じ力なら負けないわよ！」
ジオウ「その力は確かに凄いけど人々を困らせる事は止めるんだ！」
サイキョージカンギレードを分離させサイキョーギレードもジカンギレードで切り裂こうとするが森夏はそれを防がれ祥平は吹き飛び変身解除まで追い込まれる！
祥平「あ！ぐっ！」
アナザージオウ「さぁ、仮面ライダー達のライドウォッチを頂くわよ？」
散らばっていたライドウォッチを回収しようとしていた
ゲイツ「！、ジオウ！」
ウォズ「！、我が魔王！」
ソルジャー「私を無視するんじゃないよ！」
２人を後ろから攻撃し不意打ちで吹き飛ばされる！
アナザージオウ「これさえあれば私は！、くっ！今度は誰よ！」
優美「久し振りに来てみたらこれどうなってるの？」
祥平「姉さん！」
祥平を助けたのは姉であった優美だが直ぐに立ち上がる祥平は優美に説明をする
優美「成る程ね、大体分かったけど森夏がそれに悩むのは分かってたけどアナザーライダーの力は流石に何とか止めさせて貰うわよ！」

『カメンライド！ディケイド！』
アナザージオウ「邪魔をするな！」
２人の武器が激突するが祥平もジオウⅡに変身し森夏に攻撃をするがもう１つで防がれる！
ディケイド「やっぱりアナザーライダーの力が大きすぎて暴走仕掛けてる！森夏、今すぐにアナザーライダーの力を捨てなさい！そのままだと自分が自分で無くなるわ！」
アナザージオウ「それでも私には力が必要だった！貴女には分からないでしょ！」
くっ！この信念はかなり厄介過ぎるわね！
ジオウ「だからって人を襲うのは違うだろ！誰かを傷付けてまでやる事なのか！」
アナザージオウ「否定するなら祥平でも容赦はしないわよ！」
ディケイド「私もいるからね！」
姉弟で何とか森夏を止める為に攻撃をするがやはり避けられてしまう！
アナザージオウ「どうしたの！祥平の実力はその程度なの！」
ジオウ「んな訳ない！でも力だけでどうにか出来る物も出来ないぞ！」
『ガイム！』
ジオウⅡからガイムアーマーになり後ろに下がる！
ジオウ「姉さん！」
ディケイド「分かった！」
『カメンライド！響鬼！』
音撃棒烈火を持ち森夏に攻撃を仕掛けるがまた防がれ反撃を喰らう！
ディケイド「くっそ！やっぱり何とかアナザージオウの力を一時的に破壊をすれば！」
ジオウ「でも防がれるしどうしたら良いんだ！」
～ウォズ＆ゲイツ　ｓｉｄｅ～
ゲイツ「ぐっ！」

ウォズ「流石に強いね……」
ソルジャー「それじゃ悪いけど2人が持つライドウォッチは全て奪わせて貰うわ！」
『フィニッシュタイム！ダブル！』
ジャンプしドライバーを回転させる！
『マキシマーム！タイムブースト！』
ソルジャー「さようなら！」
ゲイツとウォズは防ごうとするが変身解除されカイザライドウォッチとドライブライドウォッチを落としてしまう！
2人『うあああ！』
ソルジャー「落とすなんて私にプレゼントなのかな？ありがとね♪」
2つのライドウォッチを拾いソルジャーはジオウ達のいる所へ向かう。
ゲイツ「あいつ、ふざけやがって！」
ウォズ「我が魔王のライドウォッチも狙ってる筈だ、急ごう！」
2人は立とうとしたがダメージが大きすぎて上手く立てなかった
勇太「無理するな……」
しかしあいつ何者だったんだ？ライドウォッチを狙ってたけど……

～祥平＆優美　ｓｉｄｅ～
ジオウ「はぁ！」
アナザージオウ「だから無駄だって言ってるでしょ！」
また防がれるか！どうすれば良いんだよ！
ディケイド「何とかしてウォッチを破壊しなきゃ大変よね」
ジオウ「でもどうやって……」
悩んでいたが姉さんは何か取り出す？
ディケイド「ならこいつを試させて貰うよ！」
『ダブル、オーズ、フォーゼ、ウィザード、ガイム、ドライブ、ゴースト、エグゼイド、ビルド、ジオウ、ゼロワン！』
私はネオケータッチを起動しパネルタッチしていきそして

『ファイナルカメンライド！ディケイドコンプリート２１！』

ディケイド「さぁ、見せて上げるわよ！仮面ライダー達の本当の力を！」

ＥＮＤ